

第 18 回白神山地世界遺産地域科学委員会 資料

第18回 白神山地世界遺産地域科学委員会

日 時：平成31年2月5日（火）13：00～16：00

場 所：弘前市民会館 1階 大会議室

< 議 事 次 第 (案) >

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 議 題

1) モニタリング計画に基づく各機関の今年度調査実施状況及び次年度の実施計画の
報告

2) ニホンジカへの対応状況等の報告

3) 遺産地域における入山利用への対応状況等の報告

4) その他

5 閉 会

第 18 回 白神山地世界遺産地域科学委員会 配付資料一覧

議事次第

出席者名簿

配置図

配付資料一覧

資料 1 - 1 平成 30 年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施結果（カルテ）

資料 1 - 2 平成 31 年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画（機関別）

参考資料 1 - 1 白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧（全体）

資料 2 - 1 平成 30 年度ニホンジカ生息状況について

資料 2 - 2 平成 30 年度ニホンジカ対策事業結果（機関別）

資料 2 - 3 平成 31 年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

参考資料 2 - 1 白神山地世界遺産地域ニホンジカ対策方針（骨子）

資料 3 - 1 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成 30 年度実施結果（機関別）

資料 3 - 2 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成 31 年度実施計画（機関別）

参考資料 3 - 1 白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る今後の対応について

資料 4 - 1 松くい虫・ナラ枯れ被害の発生状況

参考資料 0 - 1 白神山地世界遺産地域科学委員会設置要領

参考資料 0 - 2 白神山地世界遺産地域科学委員会 委員名簿

第18回白神山地世界遺産地域科学委員会 出席者名簿

1. 委員

委員名	所属・役職	出欠
幸丸 政明	岩手県立大学 名誉教授	出
田口 洋美	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科 教授	出
田中 信行	東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科 教授	出
中静 透	大学共同利用機構法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 特任教授	出
檜垣 大助	弘前大学農学生命科学部 教授	出
堀野 眞一	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所企画部広報普及課 研究専門員	出
蒔田 明史	秋田県立大学生物資源科学部 教授	欠
由井 正敏	岩手県立大学 名誉教授	出

(五十音順)

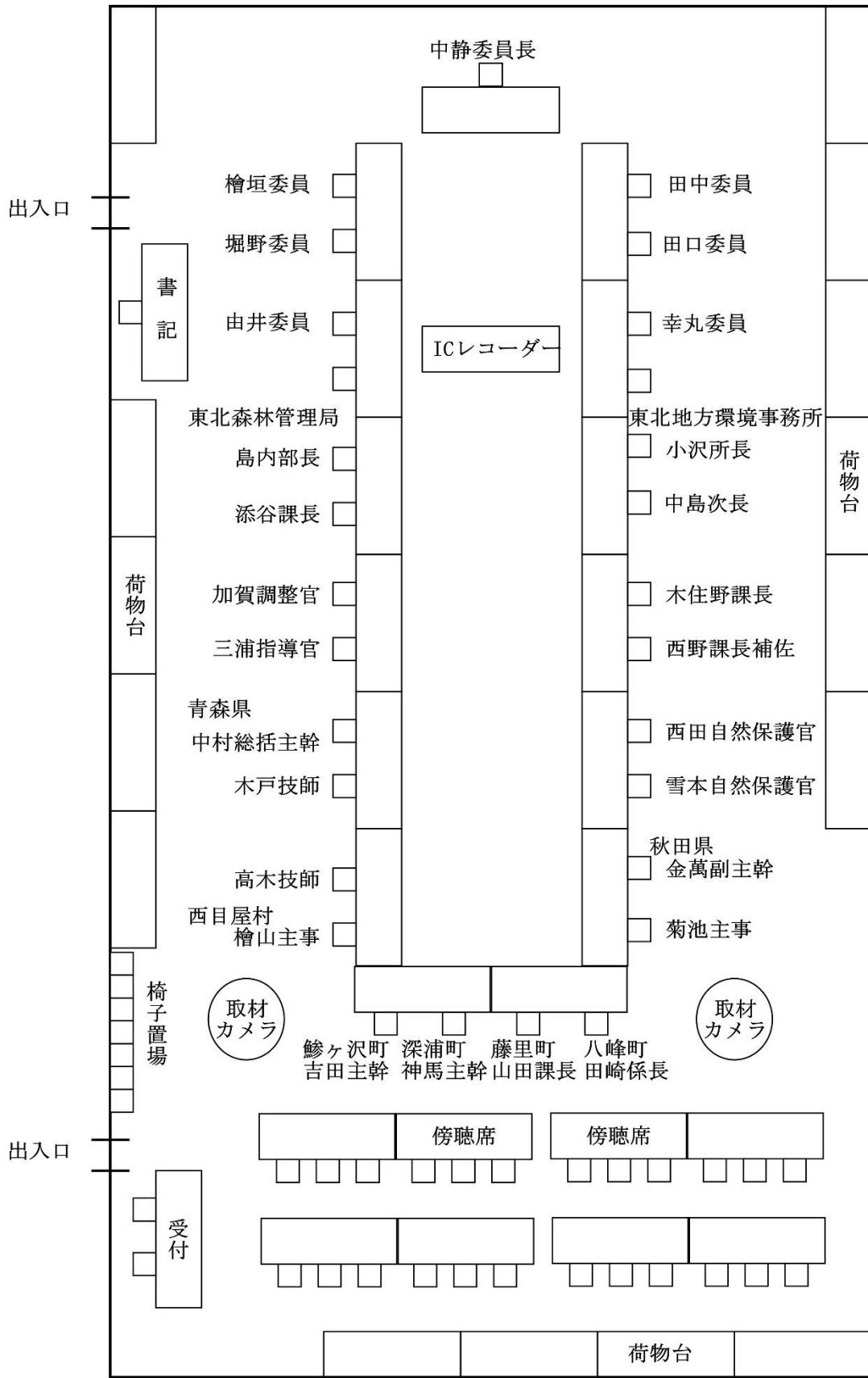
2. 事務局

機関名	役職	氏名
東北地方環境事務所 (国立公園課) (野生生物課) (西目屋自然保護官事務所) (藤里自然保護官事務所)	所長	小沢 晴司
	次長	中島 慶次
	課長	木住野 泰明
	課長補佐	西野 雄一
	自然保護官	西田 樹生
	自然保護官	雪本 晋資
東北森林管理局	計画保全部長	島内 厚実
	計画課長	添谷 稔
	自然遺産保全調整官	加賀 誠
	生態系管理指導官	三浦 幸久
青森県自然保護課	総括主幹	中村 憲嗣
	技師	木戸 美紗子
青森県林政課	技師	高木 佑太
秋田県自然保護課	副主幹	金萬 誠志
	主事	菊池 崇文
秋田県森林整備課		欠席
青森県教育委員会		欠席
秋田県教育委員会		欠席

3. オブザーバー

機関名	役職	氏名
西目屋村産業課	主事	檜山 一麻
鱒ヶ沢町観光商工課	主幹	吉田 聖
深浦町観光課	主幹	神馬 輝史
藤里町商工観光課	課長	山田 幸喜
八峰町産業振興課	係長	田崎 博樹
能代市環境衛生課		欠席

第18回白神山地世界遺産地域科学委員会 配置図



ID ^{注1)}	181103	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	171105
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--------

報告書名称 / 調査名称	平成30年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査						発行年月/報告年月	
							2019年	1月
							資料形式 ^{注2)}	報道発表資料
調査機関	環境省 東北地方環境事務所			委託機関				
調査開始年	2004年	6月	調査期間	2018年	5月	～	2018年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋				
ヒアリング計画	2018年3月	策定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}	調査手法
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり	<p>平成12年度より白神山地世界遺産地域の環境保全対策の基礎データである入山者数を把握することを目的とし、白神山地世界遺産地域周辺の登山道入口等において赤外線式センサーによる自動計測を実施。</p> <p>■使用機器 (株)映測サイエンス社製 LRカウンターⅡb</p> <p>■自動計測機器設置箇所 白神山地世界遺産地域及び周辺地域の13箇所の登山道入口に自動計測機器(以下、機器)を設置している。このうち、⑫大川については平成19年度、⑬ブナ林散策道については平成28年度に追加設置したものである。</p> <p>青森県内設置箇所：①暗門の滝 ②高倉森入口 ③津軽峠 ④天狗峠 ⑤一ツ森峠 ⑥崩山 ⑦白神岳 ⑧櫛石山 ⑫大川 ⑬ブナ林散策道 秋田県内設置箇所：⑨二ツ森 ⑩小岳 ⑪岳岱</p> <p>■計測期間 計測期間は平成30年5月1日から11月15日である。ただし、アクセス道路・登山道の冬期通行止めの状況等によって機器毎の計測期間は異なる。</p>
	
※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。	

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

1. 全体の入山者数
 計測を実施した13地点(別添資料1)における入山者数の合計は24,296人となり、前年より8,715人低い値となった(図1、別添資料2、3)。これは、全体のおよそ5割を占める⑬ブナ林散策道において機器の不具合に伴う欠測が発生し、実際より低い値となったことが主な原因と考えられる。

2. 各登山道の入山者数
(1) 青森県側
【暗門地区・大川】
 ①暗門の滝では昨年の1175人から大幅に増加し、5491人(全体の約23%)となった。これは今年度より利用制限が緩和されたことが影響していると考えられる。②高倉森入口ではほぼ横ばい、⑬ブナ林散策道では大幅に減少したが、これは機器の不具合による欠測が発生したことが影響していると考えられる。⑫大川では昨年度から121人増加し、465人となった。
【県道28号(通称:白神ライン)沿い】
 ④天狗峠および⑤一ツ森峠では昨年度より入山者数が増加していた。これは、昨年度はアクセス道路の白神ラインが年間を通じて全線開通しなかったのに対し、今年度は9月に全線開通したことが影響したと考えられる。③津軽峠ではH28年度から入山者数が徐々に減少しているが、今年度に関しては欠測の影響が考えられる。
【日本海側】
 ⑥崩山および⑦白神岳では入山者数が前年より低い値を示した。これは欠測が発生したことが影響していると考えられる。

(2) 秋田県側の入山者数
 いずれの地点でも前年度より低い値を示した。⑨二ツ森では、工事のためにアクセス道路の開通が9月になったこと、⑩小岳および⑪岳岱では欠測が発生したことが影響していると考えられる。

環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所
 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635

〈原本(データ)の帰属について〉

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

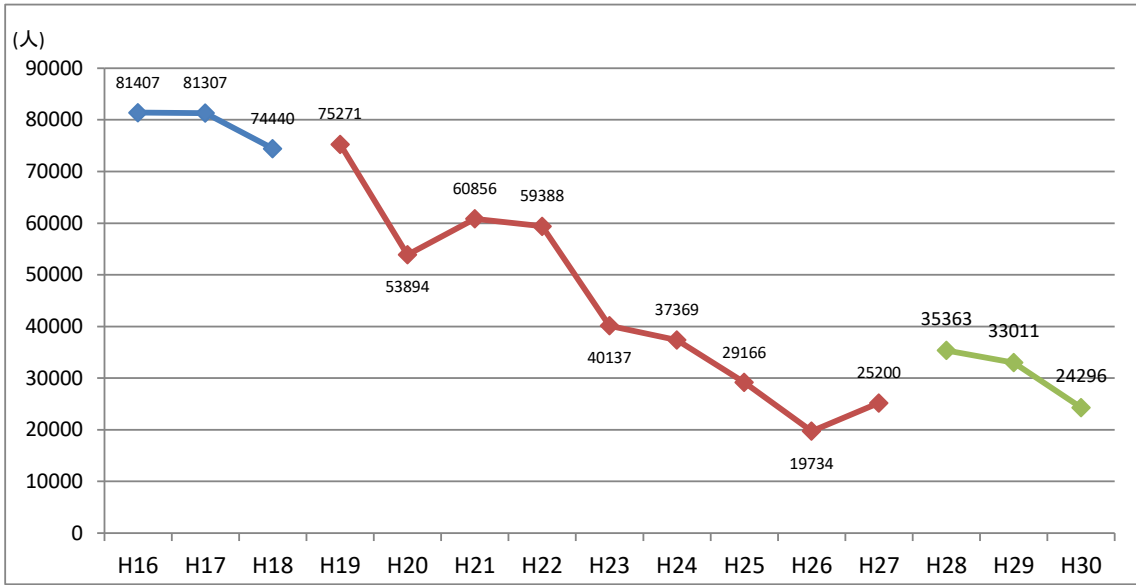


図1 白神山地世界遺産地域及び周辺地域における入山者数の推移

表1 平成30年度 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表

	① 暗門の滝	② 高倉森入口	③ 津軽峠	④ 天狗峠	⑤ 一ツ森峠	⑥ 崩山	⑦ 白神岳	⑧ 樺石山	⑨ ニツ森	⑩ 小岳	⑪ 岳岱	⑫ 大川	⑬ プナ林散策道	合計(人)
5月		51	2			226	148				105	24	1,792	2,348
6月	58	42	150	23		237	444	62		5	(※) 419	35	2,142	3,617
7月	871	(※) 38	145	12		246	398	59		148	(※) 0	93	(※) 1,947	3,957
8月	1,886	(※) 7	(※) 62	21		(※) 22	(※) 16	18		(※) 2	(※) 0	103	(※) 452	2,589
9月	1,384	74	(※) 167	58	9	(※) 160	(※) 368	87	298	(※) 0	(※) 0	100	(※) 1,099	3,804
10月	1,191	73	136	46	42	266	(※) 28	27	348	(※) 89	(※) 627	92	4,394	7,359
11月	101	12		0	0	83	(※) 0	30	63	14	80	18	241	622
合計(人)	5,491	(※) 297	(※) 662	160	51	(※) 1,220	(※) 1,402	283	709	(※) 258	(※) 1,231	465	(※) 12,067	24,296
集計期間	6/21~11/5	5/3~11/5	5/31~11/1	5/31~11/1	9/14~11/1	5/2~11/14	5/2~11/14	6/9~11/3	9/1~11/6	6/20~11/4	5/18~11/4	5/10~11/5	5/3~11/5	
集計日数	137	186	154	154	48	196	196	147	66	137	170	179	186	

注1) 表記の数字は機器によって自動測定された数字であり、必ずしも実際の入山者数を表したものではない。
 注2) 機器の不具合などにより、実際の入山者数より少ないことが明らかな数字には「※」を記した。

表2 白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表（平成16年度～平成30年度）

年度	①暗門の滝		②高倉森入口		③津軽峠		④天狗峠		⑤一ツ森峠		⑥崩山		⑦白神岳	
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数
平成16年度	57,355	159	309	163	163	163	919	163	135	163	1,208	164	3,750	164
平成17年度	(※) 57,369	136	439	158	2,322	154	665	154	90	154	1,092	154	4,056	158
平成18年度	(※) 53,360	131	396	154	1,839	154	616	140	142	140	(※) 1,253	160	4,766	160
平成19年度	(※) 52,323	154	469	164	2,383	164	(※) 619	164	198	162	1,105	162	4,476	168
平成20年度	33,769	160	347	179	2,128	160	(※) 588	152	119	152	969	182	3,798	182
平成21年度	42,914	163	363	163	2,147	163	646	160	157	149	945	187	4,273	187
平成22年度	43,028	158	325	178	1,425	168	466	160	122	160	743	185	3,280	185
平成23年度	25,471	130	284	184	1,148	169	369	163	116	163	897	188	(※) 3,132	188
平成24年度	23,336	105	252	178	1,331	160	325	145	85	145	905	178	(※) 2,119	178
平成25年度	18,201	91	256	177	1,118	167	361	127	57	127	876	180	2,946	180
平成26年度	9,625	124	165	117	(※) 337	111	(※) 40	48	24	48	1,065	185	2,610	185
平成27年度	15,463	74	431	164	141	33	40	10	0	10	(※) 995	156	2,742	181
平成28年度	(※) 1,193	127	(※) 141	104	1,209	157	204	101	32	105	1,018	175	2,465	175
平成29年度	1,175	116	310	183	1,032	161	95	161	15	40	1,602	194	2,535	194
平成30年度	5,491	137	(※) 297	186	(※) 662	154	160	154	51	48	(※) 1,220	196	(※) 1,402	196

年度	⑧樺石山		⑨ニツ森		⑩小岳		⑪岳岱		⑫大川		⑬プナ林散策道		合計
	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	入山者数	集計日数	下山者数	集計日数	
平成16年度	1,384	163	5,133	165	544	162	8,545	164					81,407
平成17年度	423	150	4,831	158	406	152	9,614	156					(※) 81,307
平成18年度	557	141	4,053	151	320	137	7,138	150					(※) 74,440
平成19年度	540	154	(※) 3,532	158	(※) 339	138	8,566	170	721	157			(※) 75,271
平成20年度	414	154	3,800	161	619	161	6,496	173	847	179			(※) 53,894
平成21年度	441	162	(※) 2,710	159	(※) 462	161	(※) 5,133	164	665	153			(※) 60,856
平成22年度	503	149	2,269	160	434	152	6,598	174	(※) 192	89			(※) 59,388
平成23年度	429	155	2,312	161	471	161	5,097	172	431	119			(※) 40,137
平成24年度	266	140	(※) 2,854	158	390	163	4,556	162	950	162			(※) 37,369
平成25年度	260	120	3,488	154	80	65	948	44	575	158			(※) 29,166
平成26年度	109	46	4,388	159	746	34	746	34	627	166			(※) 19,734
平成27年度	37	7	2,860	147			1,978	108	513	164			(※) 25,200
平成28年度	201	97	2,393	163			1,342	81	423	173	24,742	155	(※) 35,363
平成29年度	226	143	(※) 1,296	160	268	137	(※) 2,254	182	344	173	21,859	183	(※) 33,011
平成30年度	283	147	(※) 709	66	(※) 258	137	(※) 1,231	170	465	179	(※) 12,067	186	(※) 24,296

注3) 機器の不具合などにより、実際の入山者数より少ないことが明らかな数字には「※」を記した。

ID ^{注1)}	181104	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	171106
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地における中・大型哺乳類相調査業務 報告書						発行年月/報告年月	
							2019年	1月
							資料形式 ^{注2)}	報告書
調査機関	環境省 東北地方環境事務所			委託機関	(株)グリーンシグマ・(株)地域環境計画 (調査一部)			
調査開始年	2013年	9月	調査期間	2017年	10月	~	2018年	12月
調査頻度 ^{注2)}	毎年 — —		調査時期 ^{注2)}	通年				
ヒカリノ計画	2012年3月	策定	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1) (3)

調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				<p>■目的</p> ①白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査に位置づけられている哺乳類の生息状況の把握 ②広域的、継続的情報収集によるデータの蓄積、解析 ③白神山地での個体数増加が懸念されているニホンジカなどの哺乳類の生息状況の把握 <p>■調査方法</p> 中・大型哺乳類相を対象として、自動撮影カメラ（BMC社 TREL 10Jまたは、ストロボ発光を伴うTREL 10C）を用いて撮影した。調査設定は、カメラモードで静止画の連写枚数3枚、画素数500万画素、センサー「高」、インターバル30分、日時は現在時刻で行った。 <p>■調査地点詳細</p> 調査は全37地点、46台で行った。設置地点は、ブナ林モニタリングサイト3地点（9台）、環境省設置の入山者数カウンター付近12地点（12台）、その他ニホンジカに対応して設置した25地点（25台）だった（図1、表1）。 <p>■調査期間</p> 平成29年10月25日から平成30年12月10日のデータを用いた。なお各地点での調査期間はこれとは異なり春季からの地点がほとんどだが、47.天狗岳核心地域および48.天狗岳緩衝地域は冬季のデータも含まれた。 <p>■解析方法</p> 撮影された画像データは生物種、個体数の判別を目視で行い、地点別、月別、時間別の出現種を集計した。				
 <p>※調査地点は備考欄参照。</p>								

結果概要

■主中・大型哺乳類ののべ頭数
 撮影された哺乳類は中・大型以外も含む全種で19種、個体数はのべ1616頭だった（表1）。このうち、白神山地での個体数増加が懸念されているニホンジカ（のべ4頭）、ハクビシン（のべ40頭）がそれぞれ撮影されたが（図1）、その他の哺乳類（イノシシ、アライグマなど）は撮影されなかった。調査全体で多く撮影された種は順に、ニホンザル（のべ349頭）、カモシカ（のべ155頭）、ツキノワグマ（のべ139頭）だった。撮影されたのべ頭数を昨年度と比較すると、ニホンジカ、ハクビシンが増加した一方、ニホンザル、カモシカ、ツキノワグマは減少した。

■調査地点ごとの結果
 哺乳類の多く撮影された地点は順に、44.奥滝の沢（のべ132頭）、33.大然杉林（のべ120頭）、37.奥赤石林道2（のべ105頭）で、少なかった地点は順に、3.尾根③・35.ブナの森公園②（のべ3頭）、2.尾根②（のべ4頭）、7.ヤナダキ①（のべ5頭）、19.小岳（のべ6頭）だった。遺産地域周辺では種数も頭数も多かった一方、特に核心地域においては種数、頭数ともに少なかった。

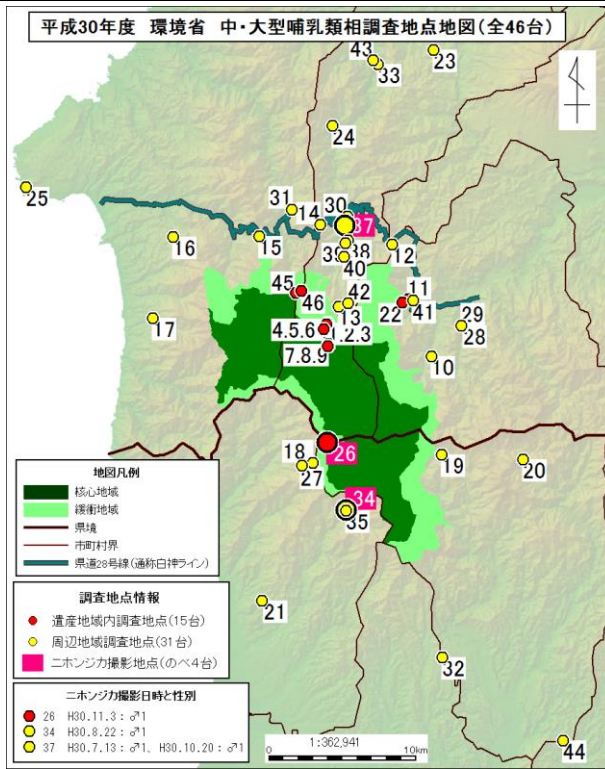
■今年度までのニホンジカ撮影個体数の増加と遺産地域内での確認
 今年度は3地点においてのべ4頭撮影され、このうち1頭は緩衝地域（No.26ニッ森登山道）で降雪以降の11月だった。本調査においてニホンジカは、平成26年度18.ニッ森気象施設で初めて撮影されて以降、平成27年度白神の森遊山道で1頭、平成28年度調査で0頭、平成29年度で2頭撮影されており、今年度はもっとも多く撮影された。

■今年度までのハクビシン撮影個体数の増加と遺産地域内での確認
 今年度はのべ40頭撮影され、このうちのべ5頭が核心地域を含む遺産地域内での撮影だった。本調査においてハクビシンは、平成26年度のべ5頭撮影されて以降、平成27年度のべ2頭、平成28年度のべ16頭（核心地域で初めて撮影された頭数を含む）、平成29年度はのべ17頭撮影されており、今年度はもっとも多く撮影された。

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ≪原本（データ）の帰属について≫
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

図1.



通し番号 県区分	調査地点																																													全哺乳類合計						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45							
地点名 (撮影種数)																																																				
アナグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
イヌネコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
イタチ	4	0	1	0	2	0	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
オコジョ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
カモシカ	2	0	1	1	0	1	1	3	0	0	6	0	4	1	2	8	0	1	3	0	0	14	0	12	1	4	1	1	2	27	1	4	4	1	0	1	1	4	4	0	1	1	4	4	0	0	1	25	5	8		
キツネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
コウモリ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
タヌキ	0	0	1	0	0	0	1	3	1	4	5	1	1	0	8	0	5	0	3	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ツキノワグマ	3	2	2	1	2	0	2	6	5	0	0	3	4	2	13	0	0	2	1	0	0	2	0	2	2	8	6	4	5	11	4	4	0	0	1	2	1	2	9	1	6	0	4	8	3	0	0	0	0	0		
テン	0	1	0	7	3	7	0	2	8	1	4	12	0	1	0	1	4	1	0	3	1	2	0	0	0	0	2	0	5	0	1	6	0	0	1	3	2	1	3	1	0	8	1	1	0	8	1	11	0	0		
ニホンザル	4	1	0	5	8	3	0	0	14	8	13	10	1	4	5	6	0	0	5	8	20	6	5	0	3	0	3	1	15	14	3	0	0	0	6	37	18	31	27	1	18	6	1	30	9	0	0	0				
ニホンシカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ニホンノウサギ	4	0	0	6	4	8	0	0	1	9	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ニホンキジ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ニホンリス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ネズミ類	3	0	4	0	3	0	2	1	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ハクビシン	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ムササビ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヤマネ	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
同定不明哺乳類	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	18	8	0	1	5	2	6	8	2	1	8	2	6	2	0	0	3	13	2	0	13	5	32	1	1	0	8	2	1	4	2	3	2	4	14	16	0	0	0	0		
全哺乳類合計	1616	21	4	3	29	23	6	16	23	43	82	44	21	0	28	24	43	26	6	31	28	24	34	11	13	9	17	65	17	77	92	18	120	7	3	8	105	31	40	80	15	38	26	132	97	74	0	0	0			

表1. 中・大型哺乳類相調査集計結果一覧

図2. 白神山地での個体数増加が懸念される哺乳類の撮



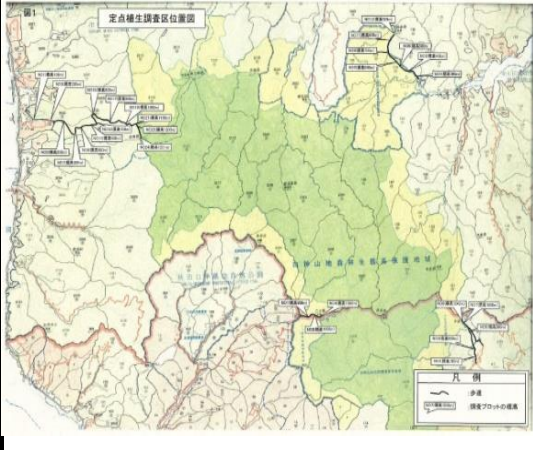
No.26ニツ森登山道 2018/11/3 15:42:56



No.44奥滝の沢 2018/8/14 0:23:20 TREL10Cで撮影

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域等における垂直分布の植生モニタリング調査				発行年月/報告年月	
	2019年		3月		資料形式 ^{注2)}	
					報告書	
調査機関	東北森林管理局		委託機関	(一社) 日本森林技術協会		
調査開始年	2013年	7月	調査期間	2018年	6月	~ 2018年 9月
調査頻度 ^{注2)}	不定期		調査時期 ^{注2)}	夏		
ヒストリカル計画	2012年3月	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1 小区分 ^{注2)} (1)

調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法																																																																																																																	
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり ・白神岳、高倉森、ニツ森、小岳の4地区に設置した調査プロット92箇所を平成25年度に植生調査を実施した。1回目の調査から5年経過したことから、2回目の調査を行い前回調査との比較分析を実施した。			①円形の調査プロット（直径20m）にて植生調査実施。白神岳47点、高倉森23点、ニツ森7点、小岳15点、合計92点。 ②平成25年度の植生調査結果を持参し、調査プロットに出現する植物のリストアップ及び被度・群度、階層構造を記録。また、群落の断面模式図（階層構造）を記録。さらに、調査プロットの中心杭から東西南北方向及び鉛直方向の写真を撮影。 ③今年度調査結果と前回は比較し、植物の生育状態や植生の変化について分析評価した。 （比較の例）																																																																																																																	
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th>測定番号</th> <th>No.71</th> <th>No.71</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査地名</td> <td>ニツ森</td> <td>ニツ森</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査月日</td> <td>20130905</td> <td>20180912</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>高木層植被率(%)</td> <td>70</td> <td>70</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>亜高木層植被率(%)</td> <td>5</td> <td>5</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>低木層植被率(%)</td> <td>10</td> <td>10</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>草本層植被率(%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>出現種数</td> <td>33</td> <td>37</td> <td colspan="2">変化状況</td> </tr> <tr> <td>ブナ</td> <td>T1 4.4 T2 + S1 1.2 H1 +</td> <td>4.4 + 1.2 +</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>コシアブラ</td> <td>S1 + H1 +</td> <td>+ +</td> <td colspan="2">階層変化</td> </tr> <tr> <td>チシマザサ</td> <td>H1 5.5</td> <td>5.5</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>オオカメノキ</td> <td>H1 1.2</td> <td>1.2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ケナシハウサンシャクナゲ</td> <td>H1 1.2</td> <td>1.2</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ムラサキヤシオ</td> <td>H1 +</td> <td>+</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ヤブコウジ</td> <td>H1 +</td> <td>+</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ヤマツツジ</td> <td>H1 +</td> <td>+</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ラン科sp.</td> <td>H1 +</td> <td></td> <td colspan="2">消失</td> </tr> <tr> <td>ツルシキミ</td> <td>H1 +</td> <td></td> <td colspan="2">消失</td> </tr> <tr> <td>シシガシラ</td> <td>H1 +</td> <td></td> <td colspan="2">消失</td> </tr> <tr> <td>アカミノイヌツゲ</td> <td>H1</td> <td>+</td> <td colspan="2">新出</td> </tr> <tr> <td>ギボウシラン</td> <td>H1</td> <td>+</td> <td colspan="2">新出</td> </tr> <tr> <td>ヨヨウラクツツジ</td> <td>H1</td> <td>+</td> <td colspan="2">新出</td> </tr> </tbody> </table>				測定番号	No.71	No.71			調査地名	ニツ森	ニツ森			調査月日	20130905	20180912			高木層植被率(%)	70	70			亜高木層植被率(%)	5	5			低木層植被率(%)	10	10			草本層植被率(%)	100	100			出現種数	33	37	変化状況		ブナ	T1 4.4 T2 + S1 1.2 H1 +	4.4 + 1.2 +			コシアブラ	S1 + H1 +	+ +	階層変化		チシマザサ	H1 5.5	5.5			オオカメノキ	H1 1.2	1.2			ケナシハウサンシャクナゲ	H1 1.2	1.2			ムラサキヤシオ	H1 +	+			ヤブコウジ	H1 +	+			ヤマツツジ	H1 +	+			ラン科sp.	H1 +		消失		ツルシキミ	H1 +		消失		シシガシラ	H1 +		消失		アカミノイヌツゲ	H1	+	新出		ギボウシラン	H1	+	新出		ヨヨウラクツツジ	H1	+	新出	
測定番号	No.71	No.71																																																																																																																		
調査地名	ニツ森	ニツ森																																																																																																																		
調査月日	20130905	20180912																																																																																																																		
高木層植被率(%)	70	70																																																																																																																		
亜高木層植被率(%)	5	5																																																																																																																		
低木層植被率(%)	10	10																																																																																																																		
草本層植被率(%)	100	100																																																																																																																		
出現種数	33	37	変化状況																																																																																																																	
ブナ	T1 4.4 T2 + S1 1.2 H1 +	4.4 + 1.2 +																																																																																																																		
コシアブラ	S1 + H1 +	+ +	階層変化																																																																																																																	
チシマザサ	H1 5.5	5.5																																																																																																																		
オオカメノキ	H1 1.2	1.2																																																																																																																		
ケナシハウサンシャクナゲ	H1 1.2	1.2																																																																																																																		
ムラサキヤシオ	H1 +	+																																																																																																																		
ヤブコウジ	H1 +	+																																																																																																																		
ヤマツツジ	H1 +	+																																																																																																																		
ラン科sp.	H1 +		消失																																																																																																																	
ツルシキミ	H1 +		消失																																																																																																																	
シシガシラ	H1 +		消失																																																																																																																	
アカミノイヌツゲ	H1	+	新出																																																																																																																	
ギボウシラン	H1	+	新出																																																																																																																	
ヨヨウラクツツジ	H1	+	新出																																																																																																																	

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

2. 結果概況
 【調査地区全域の傾向】
 調査プロットは前回調査と比較して大きな変化は殆どなく、草本層において被度5%以下で記録される種類の新出種と消失種が多数確認された。階層構造の変化は一部のプロットに限られた。高木層の変化も少なく、原因は台風による影響と考えられた。なお、前回調査で低木層の優占種にチシマザサを記録していたが今回調査では基本的に草本層で記録した。
 ①白神岳：白神岳のプロットの設置標高は95mから1215mまで47点である。大きな変化は台風による影響によりNO.21の高木ブナが倒木となり、高木層の植被率が低下した。その他、草本層の軽微な変化が記録された。
 ②高倉森：高倉森のプロットの設置標高は279mから817mまで23点である。登山道では台風による倒木が確認されたが、調査プロットでは倒木はなかった。その他、草本層の軽微な変化が記録された。なお、オオバコ、その他外来種は確認されなかった。
 ③ニツ森：ニツ森のプロットの設置標高は894mから1028mまで7点である。オオバコ、その他外来種は確認されなかった。また、登山道周辺と調査プロット周辺では台風による影響はあまり見られなかった。その他、草本層の軽微な変化が記録された。
 ④小岳：小岳のプロットの設置標高は722mから1018mまで15点である。オオバコ、その他外来種は確認されなかった。登山道では台風による倒木が確認されたが、調査プロットでは倒木はなかった。その他、草本層の軽微な変化が記録された。
 ・分析評価
 前回調査と比較して、大きな変化が確認されたのは白神岳No.21の1箇所のみであり、台風による高木ブナの倒木であった。その他のプロットにおいては草本層に+で記録される種類の新出、消失が多数記録された。これらの種類は全てブナ林に一般的に見られる種類であった。以上の結果から、温暖化に伴う種類の変化、シカによる植生の減少は確認されず、良好なブナ林の環境が維持されていると考えられる。

問い合わせ	《原本（データ）の帰属について》
-------	------------------

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

地区	ID	標高 (m)	最大樹高 (m)		高木層 被覆率(%)		亜高木層 被覆率(%)		低木層 被覆率(%)		草本層 被覆率(%)		種数			
			H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年
白神岳	No.1	95	18.0	18.0	90	80	60	60	ミズナラ	サウシバ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	シマササ	クマキササ	50	44
	No.2	111	23.0	23.0	85	80	40	30	ミズナラ	ウツミスサケラ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	クマキササ	クマキササ	64	59
	No.3	129	20.0	20.0	80	80	20	20	ミズナラ	ウツミスサケラ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	クマキササ	クマキササ	57	61
	No.4	135	18.0	18.0	90	90	20	30	ミズナラ	ミズナラ	ツリハシバ	ツリハシバ	クマキササ	クマキササ	33	33
	No.5	193	22.0	22.0	85	85	60	20	ミズナラ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	クマキササ	クマキササ	28	23
	No.6	202	22.0	22.0	90	90	60	10	ミズナラ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	クマキササ	クマキササ	28	29
	No.7	237	20.0	20.0	90	90	60	40	コナラ	コナラ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	クマキササ	クマキササ	52	52
	No.8	237	18.0	18.0	90	90	30	30	ホトノキ	フナ、ミズナラ	ハウチワカエリ	ハウチワカエリ	ミヤマカンズケ	ミヤマカンズケ	68	70
	No.9	333	18.0	18.0	80	80	30	30	ミズナラ	ハクウンボク	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ミヤマカンズケ	ミヤマカンズケ	53	57
	No.10	333	18.0	18.0	90	90	30	30	ミズナラ	ハクウンボク	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	52	40
	No.11	338	22.0	22.0	90	90	10	20	アケイサヤ	アケイサヤ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	54	57
	No.12	356	20.0	20.0	90	90	40	40	シナノキ	サウシバ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	61	57
	No.13	405	20.0	21.0	90	90	60	60	ミズナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	29	30
	No.14	401	16.0	16.0	90	90	40	30	ミズナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	32	32
	No.15	455	22.0	22.0	70	70	40	20	コナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	23	26
	No.16	462	18.0	18.0	85	85	60	60	ミズナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	51	54
	No.17	504	22.0	22.0	90	90	50	10	コナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	19	19
	No.18	517	24.0	24.0	80	80	40	30	コナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	20	21
	No.19	561	22.0	22.0	80	80	20	10	コナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	51	51
	No.20	574	22.0	22.0	90	90	20	5	コナラ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	37	31
	No.21	617	21.0	20.0	70	70	10	5	コナラ	アケイサヤ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	32	35
	No.22	626	18.0	18.0	80	80	40	5	コナラ	アケイサヤ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	44	43
	No.23	646	20.0	20.0	80	80	10	20	コナラ	フナ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	ヒキアスナロ	43	40
	No.24	665	22.0	22.0	80	80	50	10	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	47	40
	No.25	699	24.0	24.0	90	90	30	30	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	37	38
	No.26	706	24.0	24.0	90	90	30	10	コナラ	フナ	フナ	フナ	クマキササ	クマキササ	36	36
	No.27	737	22.0	22.0	80	80	30	20	コナラ	フナ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	クマキササ	クマキササ	44	38
	No.28	748	24.0	24.0	75	75	40	40	コナラ	フナ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	クマキササ	クマキササ	42	37
	No.29	808	24.0	24.0	75	75	15	30	コナラ	フナ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	54	43
	No.30	812	22.0	22.0	75	75	30	30	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	43	43
	No.31	838	22.0	22.0	90	90	30	60	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	33	28
	No.32	846	18.0	18.0	80	80	40	80	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	63	71
	No.33	866	20.0	20.0	90	90	20	80	コナラ	フナ	フナ	フナ	オクハカズガ	オクハカズガ	33	34
	No.34	900	24.0	24.0	80	80	20	20	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	25	23
	No.35	942	18.0	18.0	90	90	40	40	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	43	43
	No.36	944	22.0	22.0	90	90	40	40	コナラ	フナ	オオハクロモジ	オオハクロモジ	クマキササ	クマキササ	34	30
	No.37	995	18.0	18.0	70	70	20	20	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	40	37
	No.38	1003	18.0	18.0	80	80	10	10	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	23	25
	No.39	1035	9.0	9.0	-	-	60	60	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	28	27
	No.40	1041	11.0	11.0	-	-	30	30	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	30	28
	No.41	1000	12.0	12.0	-	-	20	20	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	32	30
	No.42	1090	12.0	12.0	-	-	70	70	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	42	39
	No.43	1135	12.0	12.0	-	-	15	15	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	41	34
	No.44	1135	5.0	5.0	-	-	-	-	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	42	34
	No.45	1186	-	-	-	-	-	-	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	39	45
	No.46	1199	-	-	-	-	-	-	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	58	60
	No.47	1215	-	-	-	-	-	-	コナラ	アケイサヤ	アケイサヤ	アケイサヤ	クマキササ	クマキササ	43	38

注: 平成25年と30年が異なる
 ※チシマザサはH25年度は低木層と草本層で記録したがH30年度は基本的に草本層で記録した。

地区	ID	標高 (m)	最大樹高 (m)		高木層 樹皮率(%)		亜高木層 樹皮率(%)		低木層 樹皮率(%)		高木層 樹皮率(%)		亜高木層 樹皮率(%)		低木層 樹皮率(%)		高木層 樹皮率(%)		草本層 樹皮率(%)		種数			
			H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年	H25年	H30年
高層林	N648	279	200	230	80	80	10	10	30	30	70	70	フナ	フナ	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	27	35
	N649	288	200	200	80	80	30	30	10	10	70	70	フナ	フナ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	マルハハヤシ	48	54
	N650	352	-	210	90	90	10	10	5	5	30	30	フナ	フナ	フナ	フナ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	41	42
	N651	369	240	240	90	90	40	40	30	30	70	70	フナ	フナ	フナ	フナ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	28	30
	N652	407	220	220	90	90	20	20	5	5	60	60	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	23	30
	N653	421	260	280	80	80	5	5	10	10	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	35	35
	N654	476	230	250	90	90	20	20	10	10	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	22	24
	N655	474	220	220	90	80	5	5	3	3	50	50	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	44	44
	N656	543	200	220	80	80	10	10	5	5	40	40	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	46	45
	N657	556	250	250	80	80	20	20	30	30	60	60	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	47	40
	N658	571	230	230	80	80	10	10	40	40	50	50	キタコヨウ	キタコヨウ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	34	31		
	N659	585	240	240	80	80	20	20	50	50	80	80	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	43	41		
	N660	610	240	240	70	70	20	20	60	60	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	46	49
	N661	594	210	210	85	85	20	20	30	30	40	40	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	62	53
	N662	663	240	240	90	90	10	10	50	50	30	30	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	35	62
	N663	658	260	260	90	90	0	5	10	10	90	90	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	36	42
	N664	661	240	240	90	90	10	10	10	10	30	30	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	25	24
	N665	686	240	240	70	70	20	20	80	80	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	23	27
	N666	723	200	200	50	50	-	-	80	80	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	リヨウブ	リヨウブ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	23	21
N667	736	200	200	60	60	50	50	30	30	30	30	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	27	27	
N668	821	230	230	90	90	10	10	10	10	30	30	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	22	23	
N669	813	200	200	90	90	10	10	10	10	10	10	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	17	22	
N670	817	180	180	90	90	10	10	20	20	90	90	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	26	27	
N671	894	170	170	70	70	5	5	10	10	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	33	37	
N672	909	160	160	70	70	60	60	30	30	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	41	36	
N673	938	160	160	70	70	10	10	30	30	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	28	27	
N674	968	160	160	70	70	20	20	10	10	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	15	18	
N675	993	120	120	70	70	10	10	5	5	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	26	26	
N676	999	140	140	-	30	80	80	20	20	95	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	22	17	
N677	1028	50	50	-	-	-	-	70	70	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	24	23	
N678	722	240	240	80	80	60	60	40	40	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	31	35	
N679	709	240	240	80	80	10	10	20	20	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	45	45	
N680	782	240	240	80	80	30	30	50	50	70	70	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	30	32	
N681	776	240	240	70	70	10	10	50	50	90	90	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	33	35	
N682	809	220	240	90	70	-	20	10	60	90	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	34	33	
N683	805	260	260	40	40	50	50	30	30	70	70	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	44	44	
N684	858	240	260	70	90	20	10	60	10	50	60	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	31	37	
N685	854	200	200	20	20	10	10	10	10	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	27	32	
N686	907	150	150	70	70	10	10	80	80	90	90	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	33	36	
N687	913	200	200	20	20	40	40	60	60	40	40	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	45	48	
N688	933	90	90	-	50	50	50	30	30	40	40	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	28	28	
N689	944	140	140	70	70	10	10	30	30	80	80	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	34	29	
N690	967	30	30	-	-	-	-	40	40	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	29	33	
N691	988	12	12	-	-	-	-	-	-	95	95	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	25	22	
N692	1018	15	15	-	-	-	-	-	-	100	100	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	フナ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	オオハクワチロ	22	18	

注: 平成25年と30年異なる

※シマザサはH25年度は低木層と草本層で記録したがH30年度は基本的に草本層で記録した。

全ての調査地区におけ主なる新出種と消失種

群落組成の変化 主な新出種		群落組成の変化 主な消失種	
種名	プロット数	種名	プロット数
トチノキ	10	ツルリンドウ	12
イワガラミ	9	アオダモ	9
コシアブラ	8	ヒメモチ	8
コヨウラクツツジ	8	オオアキノキリンソウ	7
タケシマラン	8	シンガシラ	7
ノリウツギ	8	コシアブラ	6
ホオノキ	8	ヤマツツジ	6
オクエゾサイシン	7	タケシマラン	5
ツクバネソウ	7	ホオノキ	5
エンレイソウ	6	タニギキョウ	5
オオアキノキリンソウ	6	ナナカマド	5
タニギキョウ	6	ホウチャクソウ	5
チゴユリ	6	アズキナシ	5
シンガシラ	5	トリアシショウマ	5
シナノキ	5	ウゴツクバネウツギ	5
ナナカマド	5	イワガラミ	4
ホツツジ	5	コヨウラクツツジ	4
ムラサキヤシオ	5	ツクバネソウ	4
アカミノイヌツゲ	4	ホツツジ	4
ウワミズザクラ	4	マイヅルソウ	4
シノブカグマ	4	ミズキ	4
ジュウモンジンダ	4	エゾツリバナ	4
ツガルコウモリ	4	サルナシ	4
ツタウルシ	4	ツノハシバミ	4
ツルリンドウ	4	ヤマイヌワラビ	4
ハイヌツゲ	4	アカイタヤ	4
ホウチャクソウ	4	アケボノシュスラン	4
マイヅルソウ	4	コマユミ	4
ミズキ	4	タムシバ	4
ヤマウルシ	4	マムシグサ属sp.	4
ヤマソテツ	4	ミヤマナルコユリ	4
ヤマブドウ	4	ヘビノネゴザ	4
ユキザサ	4		
リョウブ	4		
他	209	他	249
総計	395	総計	412

・新出種とは前回調査で記録されていなかったが、今回の調査で確認された種類。これらの種の大部分は草本層で確認され、被度+(5%以下)の場合がほとんどであった。また、これらの種類はブナ林に一般的な種類であった。

・消失種とは前回調査で記録されていたが、今回の調査で未確認の種類。これらの種の大部分は草本層で確認され、被度+(5%以下)の場合がほとんどであった。また、これらの種類はブナ林に一般的な種類であった。

備考

代表的な群落組成の比較(抜粋)

		No.26	No.26	
測定番号				
調査地名		白神岳	白神	
調査月日		20130903	20180918	
緯度		40° 30' 37.0"	4030371	
経度		139° 58' 37.6"	13959380	
地理区画		60396719	60396719	
標高(m)		706	706	
傾斜方位		S40W	S40W	
傾斜角度		29	29	
地形位置		中腹	中腹	
微地形		斜面	斜面	
表層地質		花崗	花崗	
土壌型		褐森	褐森	
調査面積(m ²)		415	415	
高木層高さ(m)		12<	12<	
亜高木層高さ(m)		5-12	5-12	
低木層高さ(m)		2-5	2-5	
草本層高さ(m)		0-2	0-2	
高木層植被率(%)		90	90	
亜高木層植被率(%)		30	30	
低木層植被率(%)		10	10	
草本層植被率(%)		90	90	
出現種数		36	36	変化状況
フナ	T1	4.4	4.4	
	T2	2.2	2.2	
	S1	1.1	1.1	
	H1	+	+	
アカイタヤ	T1	3.3	3.3	
	T2	2.2	2.2	
アズキナシ	T2	1.1	1.1	
	S1	+	+	
	H1	+	+	
ツルアジサイ	T2	+	+	増加
	H1	+	1.1	
ハウチワカエデ	T2	+	+	階層変化
	H1	+	+	
オオカメノキ	S1	1.1	1.1	
	H1	1.1	1.1	
リョウブ	S1	+	+	
	H1	+	+	
チシマザサ	H1	4.4	4.4	
オクノカンスゲ	H1	3.3	3.3	
オオバクロモジ	H1	2.2	2.2	
ミヤマカタバミ	H1	1.2	1.2	
ミヤマカンスゲ	H1	1.1	1.1	
ユキザサ	H1	1.1	1.1	
シノブカグマ	H1	1.1	+	減少
チゴユリ	H1	1.1	+	減少
ホソバナライシダ	H1	1.1	+	減少
アキシバ	H1	+	+	
イワガラミ	H1	+	+	
エゾツリバナ	H1	+	+	
オククルマムグラ	H1	+	+	
オンダ	H1	+	+	
カラクサイヌワラビ	H1	+	+	
コシアブラ	H1	+	+	
コマユミ	H1	+	+	
サカゲイノデ	H1	+	+	
シシガシラ	H1	+	+	
ツクバネソウ	H1	+	+	
ツタウルシ	H1	+	+	
ヒメモチ	H1	+	+	
ヘビノネゴザ	H1	+	+	
ホオノキ	S1	+	+	階層変化
	H1	+	+	
ヤマウルシ	H1	+	+	
エゾアジサイ	H1	+	+	消失
トウゴクサイシン	H1	+	+	オクエソサイシン
トリアシヨウマ	H1	+	+	消失
ミヤマアキノキリンソウ	H1	+	+	消失
オクエソサイシン	H1	+	+	
ジュウモンジシダ	H1	+	+	新出
タチシオデ	H1	+	+	新出
タニギキョウ	H1	+	+	新出

■凡例 2

表の +、1.1、2.2、3.3、5.5等は数値の左側にある種類の**被度・群度**を示す。

◎**被度**とは、プロット内でそれぞれの種が地上をおおう割合をいう。次の階級に区分されている。

5(被度が調査面積の3/4以上を占めているもの)。4(被度が調査面積の1/2~3/4を占めているもの)。

3(被度が調査面積の1/4~1/2を占めているもの)。2(個体数が極めて多いか、また少なくとも被度が1/10~1/4を占めているもの)。1(個体数は多いが、被度が1/20以下、または被度が1/10以下で個体数が少ないもの)。+(個体数も少なく、被度も少ないもの)。

◎**群度**とは、プロット内でそれぞれの種がどのように配布されているかという集合の度合いを示すものである。群度は被度の大小とは関係なく個体の配分状態のみが対象となる。群度階級は次のとおりである。

5(調査区内にカーペット状に一面に生育しているもの)。4(大きなまだら状またはカーペットのあちこちに穴があいているような状態のもの)。3(小群のまだら状のもの)。2(小群をなしているもの)。1(単独に生えているもの)。

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査						発行年月/報告年月	
							2019年	3月
調査機関	東北森林管理局			委託機関	株式会社グリーンシグマ			
調査開始年	1999年	調査期間	2018年	6月	～	2019年	3月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	通年					
モニタリング計画	策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}				目的・調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				1. 倒壊林冠発生木調査 ・青森県側、秋田県側それぞれに設置された固定調査区（100×200mの形で、20×20mの50区画）において、樹木の生育・更新状況について調査した。 ・現地では、過年度調査で設置された立木番号を確認しながら、倒壊林冠木（枯損木、折損木、欠頂木、倒木等）の発生状況を確認した。樹高2m以上の樹木が新たに確認された場合は、新規に立木番号をつけリストに加えた。現地調査は、秋田県側で平成30年9月19～21日、青森県側で同年9月11～13日に実施した。 ・また既存の樹冠投影図について、デジタル化しGISデータに変換した。 2. 積雪深調査 ・遺産地域内及び周辺の14地点（青森県側10箇所、秋田県側4箇所）に設置されている最深積雪深計の測定を行うとともに、今年冬季の計測のために14基の補修を行った。 ・降雪及び消雪の時期及び変化の把握を行うため、青森県側のB-7、B-10、秋田県側の秋B-1、秋B-3の4箇所の積雪深計に設置した防水性の温度計測データロガーを回収しデータを解析した。またデータロガーは10月末に同じ4箇所に再設置した。 3. 林内気温調査 ・遺産地域内及び周辺の7地点（青森県側4箇所、秋田県側3箇所）に設置されている林内気温観測機器からデータを回収した。回収後観測機器は再設置した。 4. 入り込み利用調査 ・遺産地域内及び周辺の溪流沿いの16地点に自動撮影カメラを設置した。撮影期間は6月下旬から10月下旬までの約4ヶ月で、各地点の撮影日数は87～137日である。撮影された画像から目的別の人の入り込み状況を把握したほか、ニホンジカ等の哺乳類の撮影状況も把握した。 ・冬季を中心にブナ林や積雪の状況等を把握するために、固定調査区2地点と奥赤石の榎石山登山路入口付近の計3地点に前年度の10月に設置された越冬調査用カメラを回収し、本年10月に同地点に再設置した。				
<p>調査対象地位置図</p>								
調査結果概要								
1. 倒壊林冠発生木調査（図1～図3） ・固定調査区内の樹木の生育状況は以下のとおりである。 青森県側の高木性樹種1,341本（生立木：871本 枯損木：54本 倒木：149本 消滅：211本 その他（不明・欠番）：56本） 秋田県側の高木性樹種1,130本（生立木：799本 枯損木：57本 倒木：107本 消滅：53本 その他（不明・欠番）：114本） ※生立木は、折損・枯損なし、折損木等、先端枯損木等、傾倒木・傾斜木の合計 ・本年度は昨年に比べ新たな枯損木や倒木が発生しており、青森県側では台風により胸高直径59cmのブナが倒れかけ傾倒木となった。秋田県側では台風でブナの大径木の枝が折れるなどの被害が目立った。青森県側では同株の追加を含め65本、同様に秋田県側では58本の樹木を新たに追加してリストに加えた。 2. 積雪深調査（図4～図7） ・青森県側の最新積雪深は約2.3～3.8mを示し、ツキノワグマ被害で欠測となった2地点を除く8地点での平均は3.0mであった。秋田県側は約2.4～3.4mで、4地点の平均は3.1mであった。H29年度は青森県側では過去17年間のほぼ平均的な積雪量で、秋田県側では過去16年間に比べ0.3m多い積雪深であった。 ・積雪深の変化については、いずれの地点も2月下旬から3月上旬にピークを示し、これ以降は一様に融雪が進んだ。 3. 林内気温調査（図8、図9） ・本年度調査でデータを回収したH29年10月からH30年10月までの林内気温の月平均値について、全体的な傾向は青森県側と秋田県側で大きな相違はなかった。積雪期間の気温をみると2月に最低値となり、H25年以来の低温となった。夏季については、概ね平均的な気温であった。 4. 入り込み利用調査（図10、図11、表1、写真1～写真3） ・一般の利用者は、調査期間を通じて大川で多く、9～10月にかけては笹内川でもやや多くなっている。利用形態では、大川を中心に登山が多く、キノコ採りなどの山菜採り9～10月に増加した。 ・過年度と比較すると、本年度はH24年からH26年頃と比べ明らかに少なく、それ以降の年の利用者数と比較してもやや少ない地点が多い。 ・本年度、ニホンジカは撮影されなかった。外来種のハクビシンが核心地域の赤石川源流のC-1等で撮影された。 ・越冬カメラの画像から、積雪期は11月16日に始まり、5月18～21日までであった。積雪のピークは3月1日であった。ブナの芽吹き・開葉は、4月29～5月7日であった。								
問い合わせ	林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号 TEL：018-836-2489 FAX：018-836-2203 ≪原本（データ）の帰属について≫							
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。								

1. 倒壊林冠発生木調査

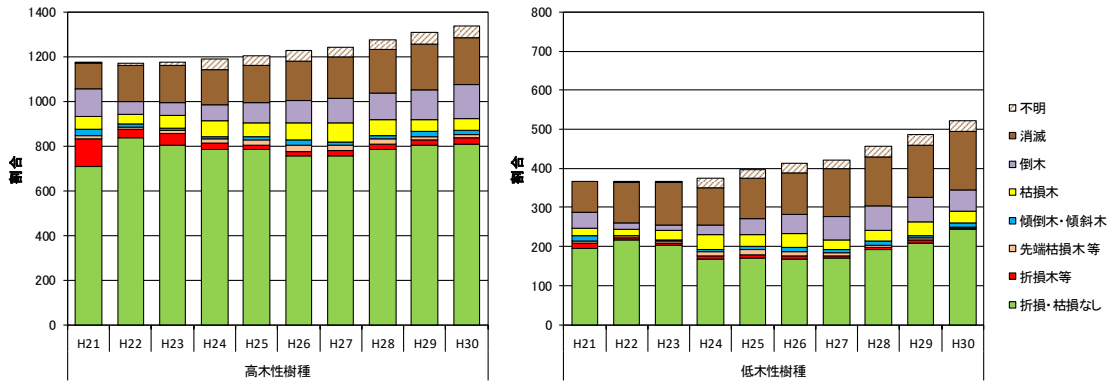


図1 H21～H30までの樹木の生育状況（青森県側）

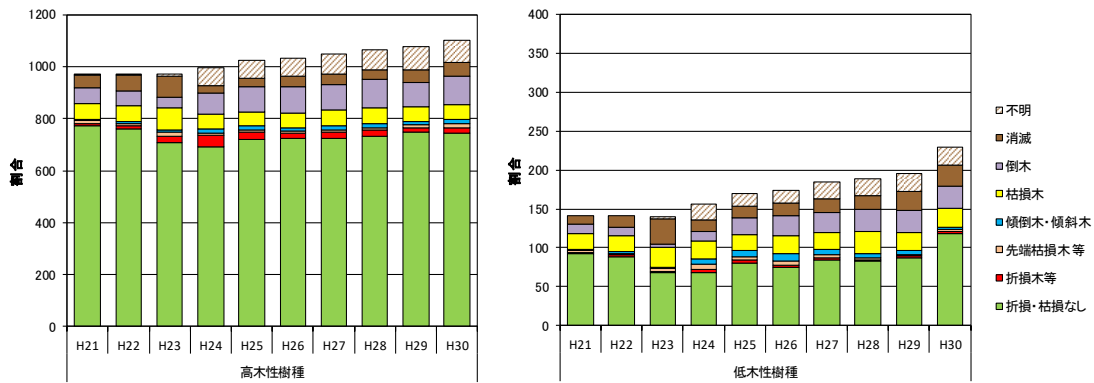


図2 H21～H30までの樹木の生育状況（秋田県側）

樹冠投影図 秋田県側
凡例
● 樹冠投影図
○ 樹冠投影図
△ 樹冠投影図
□ 樹冠投影図
◇ 樹冠投影図
▽ 樹冠投影図
◇ 樹冠投影図
▽ 樹冠投影図
◇ 樹冠投影図
▽ 樹冠投影図

B-3

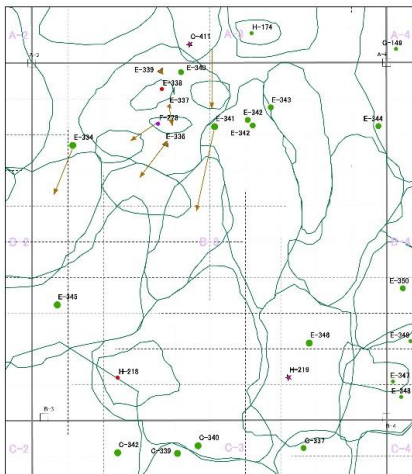


図3 GISで作成した樹冠投影図の例
(秋田県側B-3区画)

2. 積雪深調査

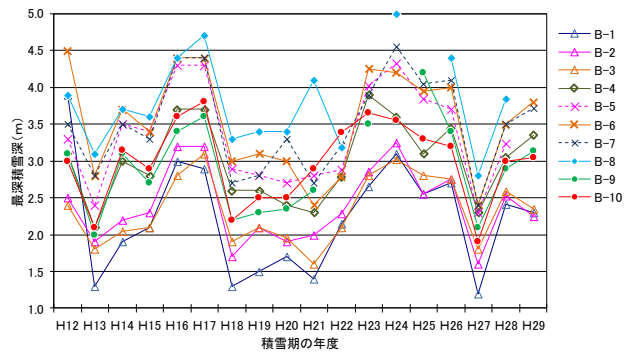


図4 最深積雪深の経年比較（青森県側）

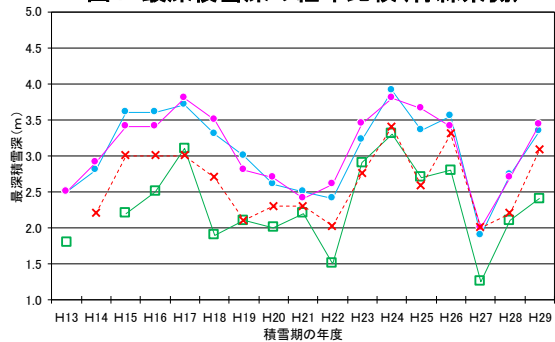
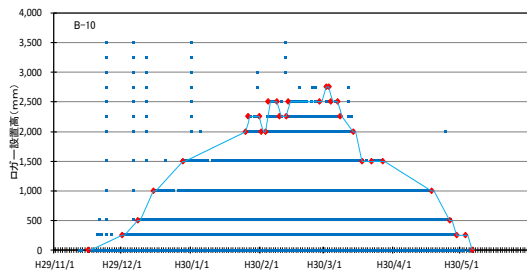
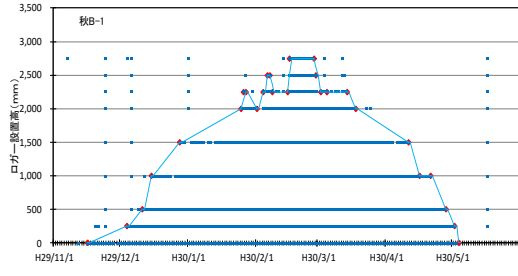


図5 最深積雪深の経年比較（秋田県側）

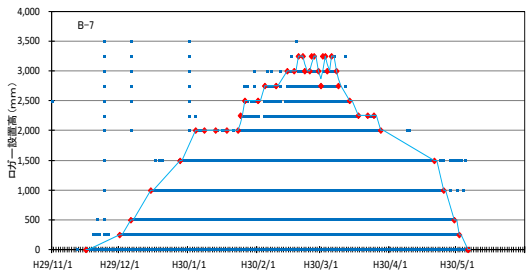
B-10(青森固定調査区内)



秋B-1(秋田固定調査区内)



B-7(奥赤石 櫛石山登山口駐車場)



秋B-3(水沢山林道終点)

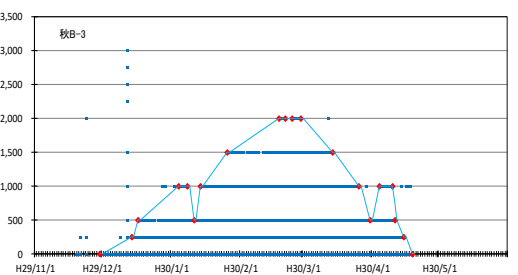


図6 温度ロガーによる積雪深の季節変化(青森県側)

図7 温度ロガーによる積雪深の季節変化(秋田県側)

◆: 温度変化より読み取った堆雪日・消雪日 青線: 日較差2.0°C以下が連続

3. 林内気温調査

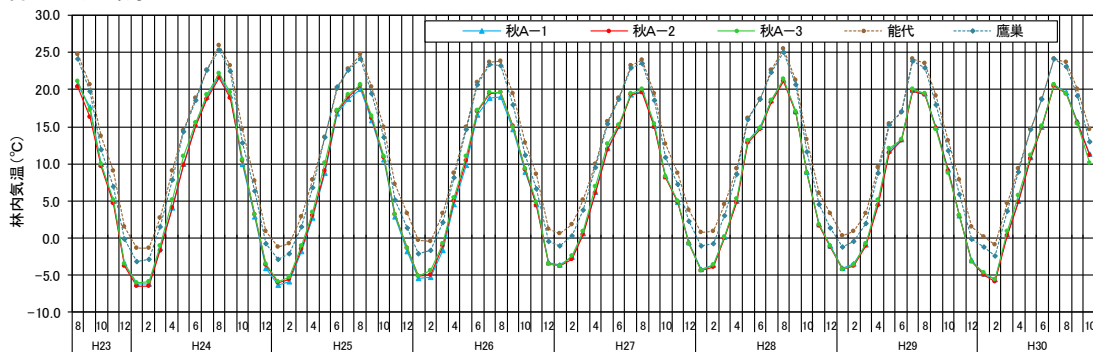


図8 林内気温 月平均気温の変化(青森県側)

弘前と鱒ヶ沢はアメダス観測

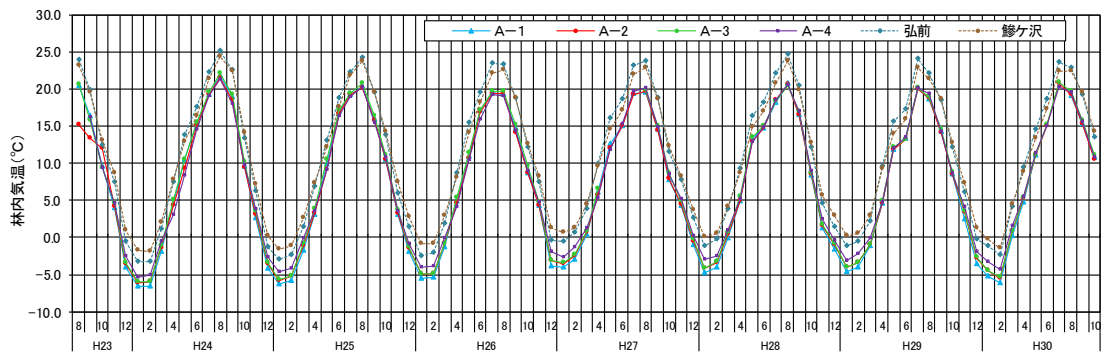


図9 林内気温 月平均気温の変化(秋田県側)

能代と鷹巣はアメダス観測値

4. 入り込み利用調査

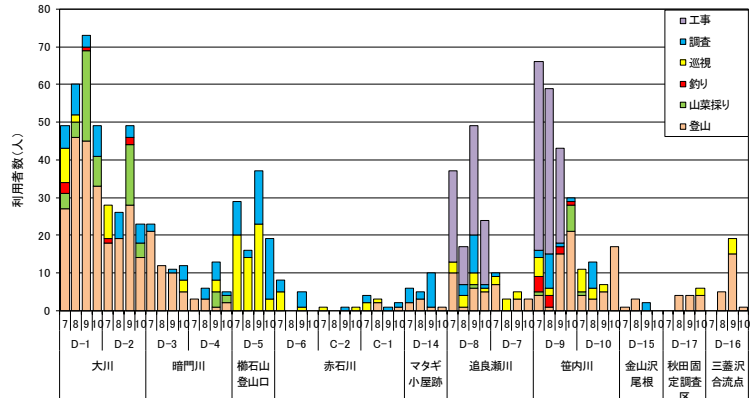


図10 H30年度の地点別の利用者の内訳

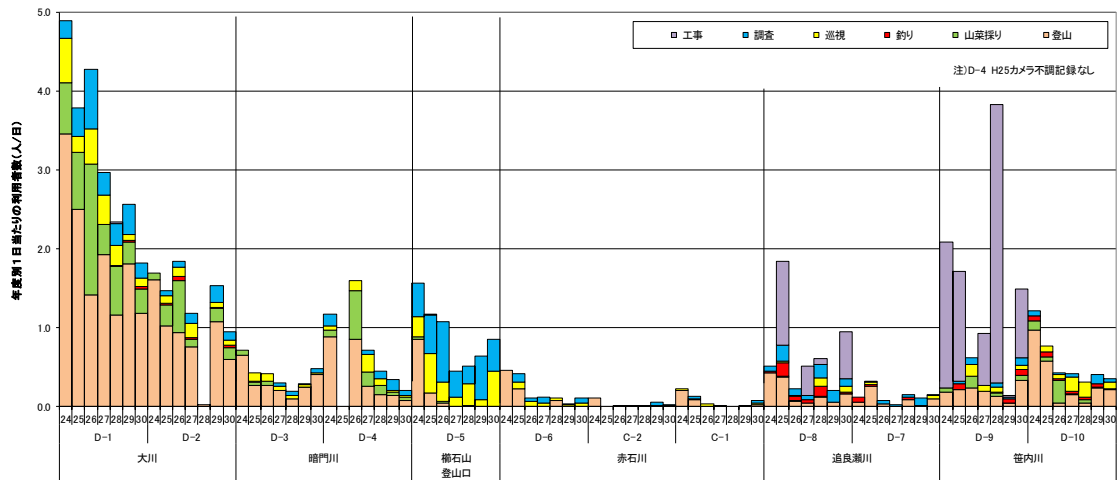


図11 H24～H30年の利用者数の比較



写真1 越冬カメラの撮影状況(青森固定調査区) 撮影期間:H29年10月～H30年6月



写真2 越冬カメラの撮影状況(奥赤石林道榑石山登山口) 撮影期間:H29年10月～H30年6月



写真3 越冬カメラの撮影状況(秋田固定調査区) 撮影期間:H29年10月～H30年6月

表1 H30年度の哺乳類確認状況(撮影頭数)

地域	種別 月	ニホンザル					キツネ					タヌキ					ツキノワグマ					テン				
		6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
大川	D-1																									
	D-2		2																							
暗門川	D-3																									
	D-4	1	1														1									
櫛石山登山口	D-5			2	18	16				1		1			2		1	2								1
赤石川	D-6																									
	C-2					1											1									
	C-1			1	2	2							2				1				2			1		2
マタギ小屋跡	D-14																1				1					2
追良瀬川	D-8					1							1													
	D-7			3																		1				
笹内川	D-9																									
	D-10					2																				
金山沢尾根	D-15				1								1													4
秋田固定調査区	D-17												1				1				3				3	7
三蓋沢合流点	D-16			1															1	1		1	4	6	4	
種別頭数合計		54					1					8					16					36				

地域	種別 月	イタチ					アナグマ					ハクビシン					カモシカ					モモンガ				
		6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
大川	D-1																									
	D-2																									
暗門川	D-3																1			1						
	D-4																									
櫛石山登山口	D-5																									
赤石川	D-6																			2						
	C-2																									1
	C-1											1	2	1					2							
マタギ小屋跡	D-14	1	6					1				1					3		1							
追良瀬川	D-8						1					1														
	D-7						1										1									
笹内川	D-9																									
	D-10																1	7								
金山沢尾根	D-15																1	1								
秋田固定調査区	D-17																1									
三蓋沢合流点	D-16			1															7	5	2					
種別頭数合計		8					3					6					36					1				

地域	種別 月	ヤマネ					ネズミ類					ニホンノウサギ				
		6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10
大川	D-1		1													
	D-2															
暗門川	D-3															
	D-4															
櫛石山登山口	D-5											1	1	2	6	
赤石川	D-6															
	C-2															
	C-1															
マタギ小屋跡	D-14						1	1				1	8	3		
追良瀬川	D-8											2	3	4	3	
	D-7															
笹内川	D-9						1							1		
	D-10											1		1		
金山沢尾根	D-15															
秋田固定調査区	D-17															
三蓋沢合流点	D-16						1				1		1			
種別頭数合計		1					4					39				

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地周辺地域（青森県側）における中・大型哺乳類調査業務 報告書			発行年月/報告年月	
				2019年	2月
				資料形式 ^{注2)}	報告書
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関			
調査開始年	2014年 5月	調査期間	2018年 4月 ~ 2018年 11月		
調査頻度 ^{注2)}	毎年 — —	調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋		
ヒカリノ計画	2017年3月 策定	区分 ^{注2)}	IB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (1) (3)		
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目として挙げられている中・大型哺乳類の生息状況を把握するため、白神山地周辺地域において赤外線センサーカメラによる調査を実施した。また、環境省や青森県、秋田県と連携し、近年白神山地周辺で目撃例が相次いでいるニホンジカやハクビシン等の分布拡大の状況把握にも努めた。		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■センサーカメラ設置箇所 ・深浦町：17箇所 ・鱒ヶ沢町：5箇所 ・弘前市：1箇所 ・西目屋村：9箇所 以上、白神山地周辺地域の青森県側に、各箇所1台ずつ合計32台設置した（図1）。		
			■調査期間 平成30年4月12日～平成30年11月30日		
			■使用機器 ・TREL10J（株）GI Supply）：20台 ・TREL10J-D（株）GI Supply）：12台（図1：②、⑬～⑳、㉔～㉑、㉓、㉕に1台ずつ設置）		
			■集計方法 撮影された画像について種名や個体数等の判別を行い、調査地点別・月別・時間別集計した。		
結果概要（スペースに収まるように入力してください）					
撮影された動物の個体数を集計したところ、全調査地点で合計1,814個体、そのうち哺乳類は1,721個体であった（表1）。最も個体数が多かった種はタヌキの314頭で、次いでアナグマ298頭、カモシカ232頭、ニホンザル182頭、ハクビシン159頭と続いた。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類14種、鳥類6種であった。撮影個体数が特に多かった調査地点としては、㉔：169個体、㉑：144個体、⑧：127個体などが挙げられる。種数について見ると、㉔・㉑：11種と最大で、次いで㉑・㉓：10種という結果になった。ニホンジカについては、8箇所から合計12頭が撮影され、調査地点⑥では2頭が連なって撮影された。性別は全てオスで、メスは確認されなかった。外来種については、分布拡大が懸念される種のハクビシンが17箇所から合計159頭撮影された。					
 <p>ニホンジカ♂2頭（⑥：10月13日）</p>		 <p>ニホンジカ♂（⑩：10月17日）</p>		 <p>ハクビシン（㉑：9月6日）</p>	
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2754 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字米町25-2 TEL：0173-72-2931 FAX：0173-72-2932 ≪原本（データ）の帰属について≫				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

図1 平成30年度 センサーカメラ設置箇所

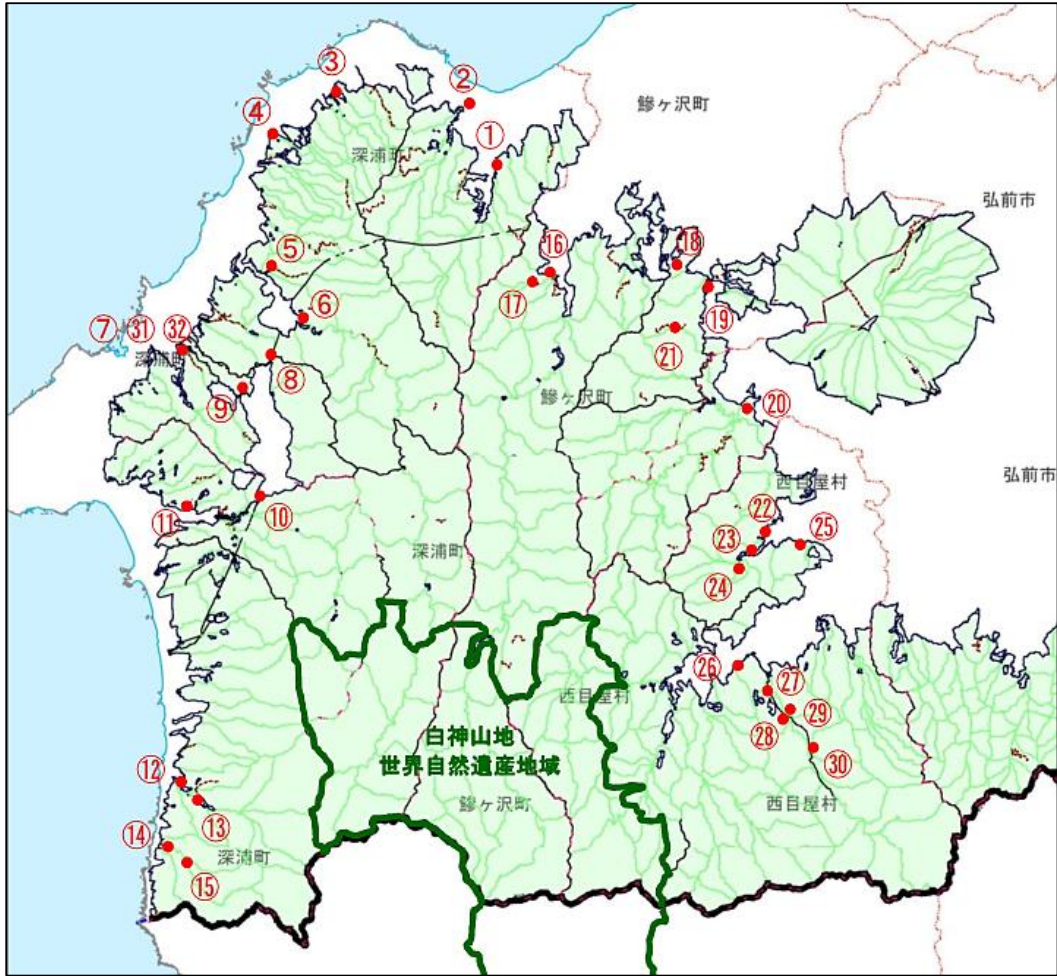



表1 センサーカメラによる各調査地点の確認種・個体数

種名\地点No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	合計	
ニホンザル	11				1	3	10	3		15	1	4	1	3	8			7	8	23	11	5	2	22	17	2	2	4	6	2	7	4	182	
キツネ	2	34			3	2	3	2	1						2	2			4			2	2	7	8				10	3	3	5	95	
ヌキ	6	26	12		8	1	1	59	4			3	4		1	5	5	3		13	11	1	7	95		2	3	20	14	6	4	314		
イヌ																1							1	1					4	1		8		
ツキノクグマ			2	1	1	1		8		2	2	7	1	3		1	2	3			11	5	5	8			5	6	13	1		88		
テン		1					2	2									4		1			2	3	3	3		1	5	5	7	2	41		
イヌ																													3			4		
アナグマ	40	24	26	1	21			33	2			13	43	2	2	1	7	1		6	13	4	6	16			9	24	1	1	2	298		
ハクビシン	14	4	5				5	3				1	4	10						2	4		24	3		1	6	49	23	1		159		
イエネコ		2										1						1	3													7		
ニホンジカ			1			2	3			1		1								1									1		2	12		
カモシカ	1	10	6	2	43	31	6	6	13	14	1	4	1	4	3		2	8		7	9	21		5	13		6	2		11	3	232		
ニホンリス																							1							25		26		
ニホンウサギ			1		5	2		9				2	7	3		1				14	2		6	3		25	4	5	20	3	4	116		
不明コウモリ類																	1															1		
不明ネズミ類																3						1							2	1	1	8		
不明哺乳類	5	6	2		4	1	2	2				1	2	7	10				4	3		10	8		10	10	2	10	2	11	5	11	2	130
哺乳類個体数合計	79	107	55	4	86	43	32	127	20	32	4	36	6	75	41	7	16	35	24	30	76	74	17	100	169	4	42	44	144	94	72	26	1721	
哺乳類種数合計	6	7	7	3	7	7	7	9	4	4	3	8	4	7	6	5	6	6	7	2	7	9	6	11	9	1	6	8	10	11	10	7	14	
ヤマトリ															1			1				1								1	3	8		
キジハト		38																							13	3			1			55		
カケス																								1				1	4	1		7		
ハシホソガラス		2																															2	
トラツグミ																											4	2				6		
キセキレイ																														2			2	
不明鳥類		1		2		1			1						1			1											3			1	13	
全個体数合計	81	146	55	6	86	44	32	127	21	32	4	36	6	75	43	7	16	37	24	30	76	75	19	115	172	4	42	48	151	101	76	27	1814	
全種数合計	7	8	7	3	7	7	7	9	4	4	3	8	4	7	7	5	6	7	7	2	7	10	6	14	10	1	6	9	13	14	12	7	20	

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
-------------------	----------------------	---------------------	---------------------	------

報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地周辺地域（秋田県側）における中・大型哺乳類調査業務 報告書				発行年月/報告年月	
					2019年	2月
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター		委託機関			
調査開始年	2014年	5月	調査期間	2018年	4月	～ 2018年 11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	調査時期 ^{注2)}	春	夏	秋
ヒカリノ計画	2017年3月	改訂	区分 ^{注2)}	IB	大区分 ^{注2)}	2 小区分 ^{注2)} (1) (3)

<p>調査箇所・範囲^{注3)}</p> <p><input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり</p>  <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>	<p>調査手法</p> <p>■目的 白神山地世界遺産地域モニタリング計画の重点調査項目として挙げられている中・大型哺乳類の生息状況を把握するため、白神山地周辺地域において赤外線センサーカメラによる調査を実施した。また、環境省や青森県、秋田県と連携し、近年白神山地周辺で目撃例が相次いでいるニホンジカやハクビシン等の分布拡大の状況把握にも努めた。</p> <p>■センサーカメラ設置箇所 ・八峰町：14箇所 ・能代市：5箇所 ・藤里町：12箇所 以上、白神山地周辺地域の秋田県側に、各箇所1台ずつ合計30台設置した（図1）。なお、路面状況の悪化により1箇所のカメラを調査期間中に移動させているため（16A→16B）、箇所数とカメラの台数が一致していない。</p> <p>■調査期間 平成30年4月27日～平成30年11月26日</p> <p>■使用機器 ・TREL10J（株）GI Supply）：18台 ・TREL10J-D（株）GI Supply）：12台（図1：3～5、8、10、18、20、25～27、29、30に1台ずつ設置）</p> <p>■集計方法 撮影された画像について種名や個体数等の判別を行い、調査地点別・月別・時間別に集計した。</p>
--	--

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

撮影された動物の個体数を集計したところ、全調査地点で合計3,003個体、そのうち哺乳類は2,832個体であった（表1）。最も個体数が多かった種はタヌキの655頭で、次いでハクビシン342頭、カモシカ339頭、キツネ284頭、ツキノワグマ250頭と続いた。正確な種まで同定できた確認種数は哺乳類13種、鳥類8種であった。撮影個体数が特に多かった調査地点としては、7：335個体、19：262個体、18：248個体などが挙げられる。種数について見ると、5・18・27：12種が最大で、次いで4・6・7・19・28：11種という結果となった。

ニホンジカについては、8箇所ずつ1頭ずつ、合計8頭が撮影された。調査地9で性別不明の1頭が撮影された以外は全てオスで、メスは確認されなかった。外来種については、上記ハクビシンの他にイエネコが5箇所から合計84頭撮影された。



ニホンジカ（21:8月21日）



ハクビシン（18:11月5日）



イエネコ（4:5月26日）

問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大間添24-3 TEL：0185-79-1003 IP：050-3160-5865 FAX：0185-79-1005
	《原本（データ）の帰属について》

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

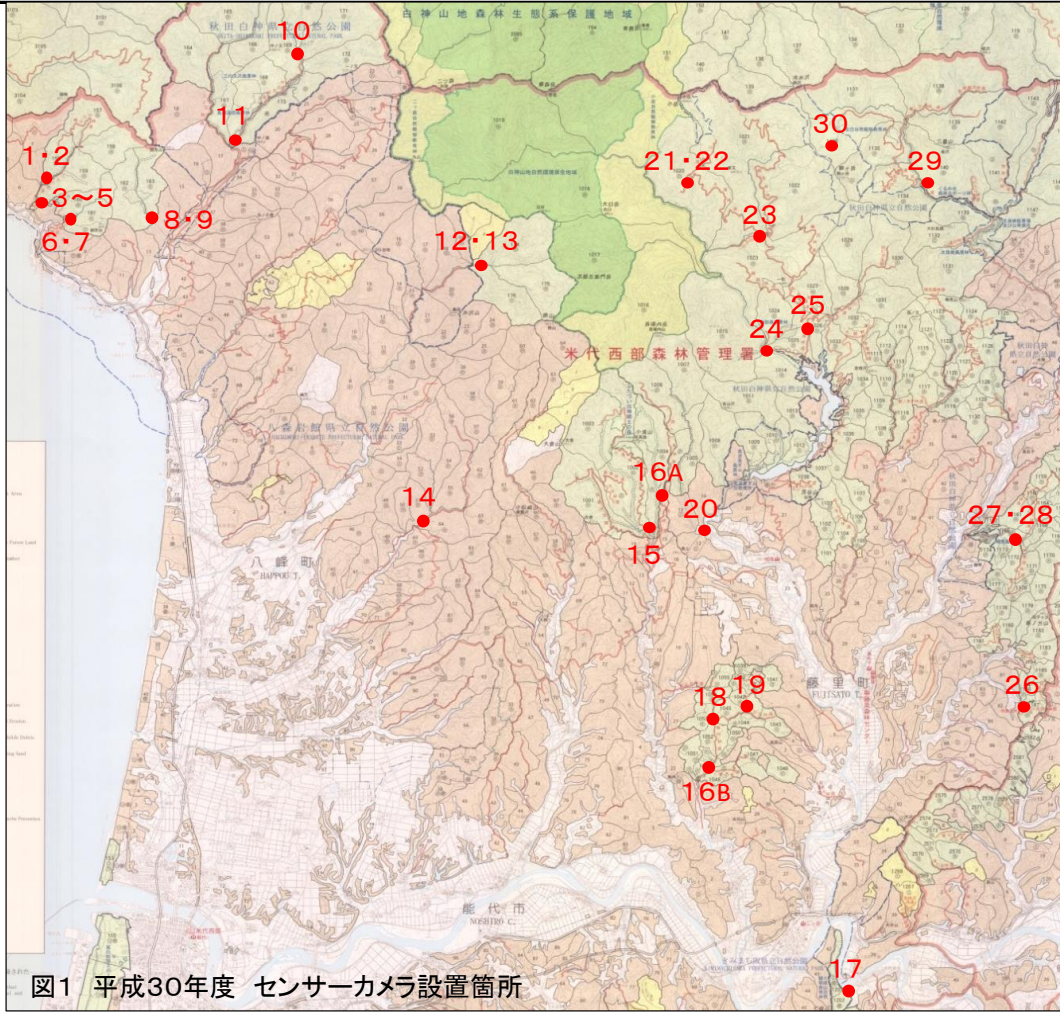


図1 平成30年度 センサーカメラ設置箇所

表1 センサーカメラによる各調査地点の確認種・個体数

種名 \ 地点No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16A	16B	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計	
ニホンザル												5	1		6					9	4	48	39	1		2	3	2	2			122	
キツネ	6		3	14	12	2	13			23	34	1		25	3	1		2	58	21				2			16	27	18		3	284	
タヌキ			4	27	22	22	37	6		32	12	7	8	62	12	16	7	19	64	121		10	4	10		4	61	50	29		9	655	
ツキノワグマ	7	1	1	7	2	14	15		5	3	2	5	3	4	6		2	25	7	29	20	17	18	2	2	10	11	8	10	4	10	250	
テン	2	1	2	6	3	3	70			2		1	3	6	1	2		1	13	12							1	3	29		14	176	
イタチ					2						3										1											6	
アナグマ	4			5	1	33	52	8		3	9	2						6	23	7				3				12	20			188	
ハクビシン	1	4	8	34	17	2	47	7	1	10	4	26	13	5	1	15		7	31	23			1	2	1		33	25	24			342	
イエネコ	1			5	4	2	72																									84	
ニホンジカ	1	1				1				1									1		1	1	1									8	
カモシカ	5	2	15	18	7	27	3	8	14		4		1	1	48	33	1	5		26	2	39	33	2	2	6	6	10	16	5		339	
ニホンリス			6	1					1	6									14	1	1							1				31	
ニホンノウサギ			7	7		2	1			3	1	4	1		4	18		9	2	10			11	24	41			12	7		5	169	
不明ネズミ類					6			4		4																			2			1	17
不明哺乳類	2		2	10	6	8	20	2	1	9	4	5	2	3	2	2		7	15	7	5	2	8	10	2	2	12	2	7	2	2	161	
哺乳類個体数合計	29	9	48	134	82	116	330	35	23	98	70	56	32	106	83	87	10	95	224	261	29	128	129	73	7	24	156	141	162	11	44	2832	
哺乳類種数合計	8	5	8	10	9	10	9	4	5	9	7	8	7	6	8	6	3	9	10	10	4	6	8	8	3	4	9	8	9	2	5	13	
ヤマドリ							1	6										1		2						2		8	3	3		26	
キジバト				21	1	9				29				3		3	1			22	1						1	23	2		1	121	
アオサギ		1																				1										1	
オオアカゲラ																			1													1	
カケス			3			1		1																					5			10	
ハンソウガラス					3																											3	
トラツグミ																													2			2	
ホオジロ						1																										1	
不明鳥類	1	1									4																					6	
全個体数合計	30	11	72	135	95	117	335	42	23	131	70	56	32	109	83	90	12	96	248	262	29	128	129	73	7	26	157	179	167	14	45	3003	
全種数合計	8	6	10	11	12	11	11	6	5	10	7	8	7	7	8	7	5	10	12	11	4	6	8	8	3	5	10	12	11	3	6	21	

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
報告書名称 /調査名称	森林病害虫被害航空探査			発行年月/報告年月
				2019年 2月
調査機関	青森県林政課	委託機関		
調査開始年	-	調査期間	2018年 5月 ~ 2018年 9月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年 3 回	調査時期 ^{注2)}	- - -	
ヒカリツ計画	2014年3月 策定	区分 ^{注2)}	ⅡA 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (1)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}		調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり		【目的】 松くい虫被害及びナラ枯れ被害の早期発見、早期駆除を図る。 【実施時期】 松くい虫被害を確認しやすい5月、9月を目処に実施する。 また、ナラ枯れ被害を確認しやすい8月にも実施する。 【調査範囲】 県防災ヘリコプター「しらかみ」を活用し、上空探査を行う。 松くい虫被害は平成27年7月以降、深浦町広戸・追良瀬地区で確認されており、松林が多く分布している海岸地域を重点的に探査する。 また、ナラ枯れ被害は平成28年10月以降、深浦町の海岸地域周辺で確認されており、松くい虫被害対策と同様、海岸地域を重点的に探査する。 【実施方法】 ・県防災ヘリコプターには3名の県担当者等が搭乗し、探査を実施。 ・被害木を発見次第、デジカメ等で撮影し位置情報を記録。 ・被害木の位置を図面に転記し、後日詳細に現地調査。		
<p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）				
【飛行ルート】 青森空港（青森市）を出発し、鯉ヶ沢町～深浦町を中心に探査。 また、ヘリコプターの残燃料に応じて、弘前市方面も探査。 【実施状況】 平成30年5月16日、8月28日に実施。 ※第3回目を9月に予定していたが遭難者対応のため中止 【調査結果】 調査の都度、複数本の枯れたマツ類やナラ類を確認した。 その後の現地調査等により、深浦町広戸・追良瀬地区において松くい虫被害、深浦町の各所でナラ枯れ被害を確認した。				
問い合わせ	青森県林政課 〒030-8570 青森県青森市長島一丁目1-1 TEL017-734-9507 ≪原本（データ）の帰属について≫			

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

平成31年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画（機関別）

機関名 東北地方環境事務所

番号	新規/継続	モニタリング計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施状況・成果等）	調査主体（窓口）
1	継続	I-1-(1)-①	白神山地気象観測調査	<p>〔目的〕 世界遺産地域の自然環境の基礎情報として気象データを継続的に把握。</p> <p>〔開始年〕 平成10年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 西日屋館、ニツ森、櫛石山に自動気象観測ステーションを設置し気象観測（温度、雨量、日射、積雪、風向風速、湿度、地温、気圧）を実施。</p>	東北地方環境事務所
2	継続	I-1-(2)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林微生物調査	<p>〔目的〕 ブナ林モニタリング調査の基礎情報として継続的に把握。</p> <p>〔開始年〕 平成11年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 研究者及びボランティアとの協働。ブナ林モニタリング調査3サイトの各2カ所にデータロガーを設置し、気温、湿度及び地温を観測。</p>	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・東北地方環境事務所
3	継続	IIA-1-(1)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林モニタリング調査	<p>〔目的〕 白神山地のブナ林の森林動態の経年変化を観察し、ブナ林の更新過程に関する白神山地の地域特性を把握し、将来の気候変動や環境汚染が更新動態に与える影響を早期に検出する。</p> <p>〔開始年〕 平成11年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 研究者及びボランティアとの協働。核心地域の櫛石山周辺に100m×100mを3サイト設置し、毎木・低木・ササ・実生及びびりター・種子供給量をモニタリング。</p>	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会・東北地方環境事務所
4	継続	IIB-1-(3)-①	白神山地世界遺産地域ブナ林フェノロジー調査	<p>〔目的〕 白神山地のブナ林のフェノロジーの把握。</p> <p>〔開始年〕 平成21年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 櫛石山の自動気象観測ステーションに定点カメラを設置し、ブナの定点観測写真の撮影を行い、ブナの開花・結実・黄葉・落葉等のフェノロジー調査を実施。</p>	東北地方環境事務所
5	継続	IIB-2-(1)-① IIB-2-(1)-②	中・大型哺乳類定点カメラ調査	<p>〔目的〕 白神山地における中・大型哺乳類の生息状況の把握。分布域拡大の可能性があるニホンジカや外来種であるアライグマ等の侵入状況の把握も視野に入れて行う。</p> <p>〔開始年〕 平成26年度（毎年）</p> <p>〔方法〕 自動撮影カメラを用いて定点調査を行う。実施期間は基本的に4月末～11月を予定。</p>	東北地方環境事務所

番号	新規/継続	モニタリング計画(区分)	調査名	調査概要(目的・開始年・方法・実施状況・成果等)	調査主体(窓口)
6	新規、継続	IIB-2-(2)-①	白神山地世界遺産地域クマガラ 生息実態調査	〔目的〕 白神山地世界遺産地域におけるクマガラの生息状況の把握。 〔開始年〕 平成10年度(毎年) 〔方法〕 鳥獣保護区管理員による現地踏査の他、繁殖期における鳴き声を記録する調査 (コーラルバック調査含む)を実施。	東北地方環境事務所
7	継続	IIB-2-(2)-②	イヌワシ等生息状況調査	〔目的〕 白神山地におけるイヌワシの生息・繁殖状況の把握。 〔開始年〕 平成25年度(青森イヌワシ調査会が平成9年より継続している調査) 〔方法〕 定点における一斉調査、繁殖状況調査、各定点における継続調査を実施。	東北地方環境事務所
8	継続	IIB-2-(3)-②	ニホンジカ生息状況調査	〔目的〕 白神山地におけるニホンジカの生息状況を把握する。 〔開始年〕 平成26年度(毎年) 〔方法〕 繁殖期の鳴き声を記録する咆哮調査、及び自動カメラ調査によりニホンジカの侵入・定着状況を把握する。また越冬の可能性がある箇所等で現地踏査を行い糞や食痕等の痕跡を調査する。	東北地方環境事務所
9	継続	III-1-(1)-①	白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査	〔目的〕 白神山地世界遺産地域及び周辺地域の利用者数の把握。 〔開始年〕 平成12年度(毎年) 〔方法〕 赤外線センサーによる自動入山者数カウンターの設置及び周辺利用地点の主要登山道の入口13カ所に設置。	東北地方環境事務所

平成31年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画（機関別）

機関名 東北森林管理局

番号	新規/継続	モニタリング計画(区分)	調査名	調査概要(目的・開始年・方法・実施状況・成果等)	調査主体(窓口)
1	継続	I-1-(2) IIA-1-(1) IIB-1-(3) III-1-(1)	原生的ブナ林の長期変動調査	<p>〔目的〕 冷温・多雪という風土にある世界遺産地域の原生的なブナ林の変動を明らかにする。</p> <p>〔開始年〕 ヤナダキノサワ固定調査区(青森県側):平成10年度 粕毛川源流部固定調査区(秋田県側):平成11年度</p> <p>〔方法〕 毎木調査(5年毎) 倒壊林冠発生木調査(毎年) 最深積雪深調査(毎年) 林内気温調査(毎年) 入り込み利用調査(青森県側:毎年) 越年カメラ、哺乳類調査 〔実施状況〕 固定調査区等調査(倒壊林冠発生木、最深積雪深、入り込み利用)、気温(H30.10～H31.8)、越年カメラ(H30.10～H31.5)、積雪深(H30.11～H31.5)のデータ回収、指定ルートにおける入り込み利用調査、哺乳類の生息調査、固定調査区杭のメンテナンス等を実施予定。</p>	東北森林管理局
2	継続	IIB-2-(1) (3)	平成31年度 白神山地遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類調査業務(定点カメラによる哺乳類調査)	<p>〔目的〕 白神山地における哺乳類の生息状況の把握。特に、今後白神山地への分布域拡大の可能性も指摘されているニホンジカの侵入状況を把握するために監視体制の強化を図る。</p> <p>〔開始年〕 平成26年度</p> <p>〔方法〕 遺産地域及び監視区域の国有林・民有林において、森林生態系保全センター職員が自動撮影カメラ78台(青森県側45台、秋田県側33台)を設置し、環境省等関係機関と連携・協力の上、定点調査を行う。</p> <p>〔実施状況〕 実施期間は4月中旬～11月下旬まで実施予定。</p>	東北森林管理局 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター

平成31年度白神山地世界遺産地域モニタリング実施計画（機関別）

機関名 青森県

番号	新規/継続	モニタリング計画（区分）	調査名	調査概要（目的・開始年・方法・実施状況・成果等）	調査主体（窓口）
1	継続	II A-2-(1)-①	森林病害虫被害調査	<p>【目的】 松くい虫及びびナラ枯れの被害木の早期発見と適切な駆除を実施する。 【方法及び実施時期】 1 県職員、松くい虫防除監視員等による地上からの目視調査 （県職員：通年、松くい虫防除監視員等：4～11月） 2 デジタルル航空写真撮影による異常木の探査 （H31年9月撮影予定（深浦町～鱒ヶ沢町の日本海側沿岸207km2）） 3 県防災ヘリコプターによる上空探査 （H31年5月、8月、9月を予定） ※なお、飛行ルートは「希少猛禽類の分布域」に入ることのないよう、東北森林管理 距離と調整しながら実施する。</p>	林政課

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(1/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査	
I. ブナ林を成 立させてい る気象・水 象・地象の 基礎的環 境条件が 把握されて いること	1 気象	(1)世界遺産 地域及び周 辺地域にお ける気象情 報	環	白神山地世界遺産地域およびその周辺地域における気象観測調査	1998年～	毎年	継続	榊石山尾根部、二ツ森、西目屋村	気温、地温、降水量、積雪深、風向・風速、日射量、湿度、気圧	○	
			弘大	白神山地世界遺産地域およびその周辺地域における気象観測	2009年～	毎年	継続	奥赤石林道、白神自然観察園	降水量、気温、湿度、気圧、風向・風速、積雪深、CO2濃度		
			津軽ダム		1990～ 2006年			津軽ダム集水域及びその周辺	気温、湿度、風速		
	2 水象	(1)主要河川 における水 質・流量	水質(pH、濁度、栄養塩類、化学物質等)、流量	林	世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響のモニタリング事業のうち現地調査等	2010年～	2010～ 2017年 毎年	未定	小岳山頂付近、十二湖付近	気温、地温、最大積雪深(世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響への適応策検討事業)	○
				その他	アマダスズデータ	1976年～	毎年	継続	深浦、鱒ヶ沢、岳、八森、藤里		
				調査会、環	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査	1999年～	毎年	継続	榊石山周辺3箇所(尾根サイト、クマガラサイト、ヤナダキサイト)	気温、地温、湿度(微気象)	
	3 地象等	(1)地形	広域的な地形区分図、崩壊地の状況	林	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査	1998年～	毎年	継続	ヤナダキノサワ試験地、粕毛川源流部試験地	林内気温、最深雪深(微気象)	
				津軽ダム	津軽ダムアセスメント調査	1990～ 2006年			津軽ダム集水域及びその周辺	水質(化学物質も含む)、流量	
				林	白神山地世界遺産地域の地形変動調査	2003年、 2011年	基礎情報として1回	終了	航空機計測範囲(2×3km)	DTM(地盤高データ)による広域的な地形区分図の作成	
	4 その他	(1)放射線量	放射性物質の状況	青、秋		なし				遺産地域外では空間放射線量を計測	
				青、秋		なし					農作物病虫害防除指針にて使用基準を定めている
	(2)農薬	(2)農薬	農薬使用の状況	青、秋	白神山地世界遺産地域の地形変動調査(再掲)	2003年、 2011年	継続	継続	遺産区域のうち3,000ha	ブナ林等の群落分布、灌木林、高山植生、湿原域等の動態把握、ギャップの把握等	
青、秋					なし						

※実施機関一環：環境省、林、林野庁(東北森林管理局)、青：青森県、秋：秋田県、調査会：ブナ林モニタリング調査会、弘大：弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(2/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
II A. 原始性の高いブナ林が、広域で健全な状態に保たれていること	1 ブナ林等の森林構造	(1)固定サイトにおける森林の変動把握	調査会、環境	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査(再掲)	1999年～	毎年	継続	柳石山周辺3箇所(尾根サイト、クマガラサイト、ヤナダキサイト)	樹木・低木・ササ・実生のモニタリング調査、リターと種子供給量調査	○
			林	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査(再掲)	1998年～	毎年	継続	ヤナダキノサワ試験地、粕毛川源流部試験地	毎木調査(新規樹木追加)、樹冠投影図作成、倒壊樹冠発生木調査、林床植生調査	○
			弘大	白神山地高倉森調査区	2009年～	毎年	継続	高倉森調査区(1.4ha)	毎木調査、稚樹・実生の群集構造、リターと種子供給量調査(リターについては、サンプル採取のみ)	
			岩崎中学校	十二湖ブナ林モニタリング	2005年～	毎年	継続	十二湖青池近くのブナ林(50×50m)	樹木・低木・実生のモニタリング調査、リターと種子供給量調査	
			林(本庁)	森林生態系多様性基礎調査	2007年～	1回/5-10年	継続	青森県・秋田県両県の4kmメッシュの格子点0.1ha(円形・方形)	毎木調査、伐根調査、倒木調査、下層植生、土壌侵食状況調査(森林生態系多様性基礎調査)	
			林	白神山地森林施業総合調査1986	1984～1985年	1回/10年	未定	粕毛川流域6林分、赤石川流域8林分	1haあたり樹木の立木・枯損木本数、ブナ林分材積算出	
			環境	白神山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告	1998～2002年	1回/5-10年	終了	二ツ森南斜面のブナ林(高標高域のブナ林)	毎木調査、下層植生調査	
			林	世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響のモニタリング事業のうち現地調査等	2011年	1回/5-10年	未定	十二湖付近(低標高域のブナ林)	毎木調査、下層植生調査	
			林	保護林モニタリング調査業務及び評価業務	2010/2011 2015/2016年	1回/5年	2020 2021年	白神山地森林生態系保護地域(青森県、秋田県)	保護林モニタリング:森林調査(毎木調査、植生調査、定点写真の撮影、植物相調査)	
			林	白神山地世界遺産地域等における垂直分布の植生モニタリング調査	2012～2013年 2018年	1回/5-10年	2023年	白神岳、高倉森、二ツ森、小岳	標高別調査(垂直分布の植生モニタリング調査)、プロット位置を示す杭のメンテナンス	

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査会:ブナ林モニタリング調査会、弘大:弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(3/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
II A. 原始性の高いブナ林が、広域で健全な状態に保たれていること	1 ブナ林等の森林構造	(2)森林の面的な変動	林	航空写真等の収集	2000～2016年	1回/5年	継続	白神山地全域	衛星画像又は航空写真の収集	
		(3)ブナ集団の多様な空間的・時間的構造	林	白神山地世界遺産地域の地形変動調査(再掲)	2003年、2011年	1回/10年毎又は大規模な崩壊等変化確認後	継続	遺産区域のうち3,000ha	広域的な雪崩植生や樹高の変化	
	2 ブナ林等に対する影響	ブナアオシヤチホコ・ナナスジナミシヤク被害、ナラ枯れ、マツ枯れ等の発生状況	弘大	高倉森の多様な地形にみられる植生とブナ林の遺伝的構成	2004～2005年	終了	終了	高倉森	ブナ集団の遺伝的多様性と空間的構造	
			林	職員等による林野巡視(被害木調査)	2012年～	毎年	継続	遺産地域及び遺産地域と隣接する地域	ブナ林及びブナ林等を構成するミズナラ、キタゴウヨウ等の樹木の森林病害虫・気象被害の把握、被害木の位置、対処内容、加害昆虫の発生情報を統一的に記録	
			青	森林病害虫被害航空調査	2011年～	毎年	継続	磐ヶ沢町～深浦町の日本海側沿岸の森林	5月8月9月の3回、県防災ヘリコプターによる枯死木等の上空調査を実施	
			秋	森林病害虫被害航空調査	2012年～	毎年	継続	八峰町～能代市の日本海沿岸の森林	県防災ヘリコプターによるナラ枯れ、マツ枯れ等の森林病害虫被害の把握	

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査会:ブナ林モニタリング調査会、弘大:弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(4/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
I B. プナ林における動物の多様性が適切に保護されていること	(1)植物相	希少植物、分布限界種、里山植物、外来植物等の現況	環	静御殿植生調査	2002～2016年	5年毎	継続	静御殿(向白神岳の北方稜線)	2002～2007年までは白神山地自然環境保全地域自然環境調査等業務において巡視中に確認。2008～2010年は職員による植生調査。2011年は白神山地自然環境保全地域植生調査業務。	
			環	自然環境保全基礎調査(特定植物群落調査)	1978、1988、1997、2011年	1回/10年	継続	特定植物群落(23カ所)	2011年は白神山地自然環境保全地域植生調査業務において、追跡調査を実施。	
	(2)現存植生	希少植物、分布限界種、里山植物、外来植物等の現況	青	白神山地遺産地域周辺生態系等学術調査	2004、2005年	終了	未定	赤石川地区、高倉森・暗門の滝地区、大川地区、追良瀬川・笹内川地区、十二湖・白神岳地区、ミニ白神地区、白神山地の主要な流域、山頂、稜線部	植物相、希少植物現地調査	
			青	白神山地の登山道における土壌硬度及び浸食状況等に関する調査	2009～2011年	終了	未定	自然観察歩道、暗門の滝歩道・プナ林散策道、東北自然歩道、十二湖トレイル	外来植物(オオハコ等)生育状況調査、逸出植物調査(被度・種名)、消失・減少した植物の聞き取り調査	
	(3)プナ林のフェノロジー	希少植物、分布限界種、里山植物、外来植物等の現況	林	白神山地世界遺産地域実態把握調査	2001～2010年	1回/5-10年	未定	実態把握調査予定ルート(既存歩道、指定ルート、関連ルート)	希少植物および侵入植物(里山植生)のGPSによる記録、聞き取り調査	
			林	世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響のモニタリング事業	2010～2012年 2017年	1回/5-10年	未定	小岳山頂付近(教力所)	ハイマツ群落(空中写真によるハイマツ群落分布把握)	
	(2)現存植生	植生の現況	環	自然環境保全基礎調査(植生調査)	1981、1985、2012年	1回/10年	未定	遺産地域全域	植生調査、現存植生図作成	
			環	白神山地世界遺産地域におけるプナ林のフェノロジー調査	2009年～	毎年	継続	榎石山尾根部	プナ等のフェノロジー調査(定点カメラによる撮影)	
	(3)プナ林のフェノロジー	芽吹き、結実、紅葉、落葉等フェノロジー	林	白神山地世界遺産地域における原生的プナ林の長期変動調査(再掲)	2013年～	毎年	継続	ヤナダキノサワ試験地、粕毛川源流部試験地	プナ等のフェノロジー調査(越年カメラによる撮影の調査目的に追加)	

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査会:プナ林モニタリング調査会、弘大:弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(5/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査		
II.B. フナ林における動物の多様性が適切に保護されていること	2 動物	ほ乳類、鳥類、昆虫類、両生類のうち特徴的な種・分布限界種における生息状況の変化	環	白神山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告(再掲)	1998～2002年	終了	未定	榑石山南斜面中腹部、二ツ森北麓(泊の平)	中・大型哺乳類相、鳥類相、両生・昆虫類、昆虫類、土壌動物調査			
				白神山地世界遺産地域実態把握調査(再掲)	2001、2009、2010年	1回/5-10年	未定	実態把握調査予定ルート(既存歩道、指定ルート、関連ルート)	中・大型哺乳類相、鳥類相調査(確認位置の記録)	○		
	環		秋		2002～2005年	終了	未定	真瀬川等	魚類(イワナ)調査			
			林	保護林モニタリング調査業務及び評価業務(再掲)	2010/2011 2015/2016年	1回/5年	2020 2021年	白神山地森林生態系保護地域(青森県、秋田県)	保護林モニタリング:動物調査(哺乳類、昆虫類)			
	環		環		2009年(天狗岳)	2009年(天狗岳)						
					モニタリングサイト 1000(陸生鳥類調査)	2006、2011年(十二湖)	1回/5年	継続	天狗岳、十二湖、岳岱	鳥類定点調査		
	環		環		白神山地における中・大型哺乳類調査	2007、2012年(岳岱)	毎年	継続	遺産地域及び周辺地域(26箇所程度)	中・大型ほ乳類相把握のための定点カメラ調査	○	
					白神山地世界遺産地域周辺(青森県側)におけるニホンジカ監視カメラ調査、白神山地世界遺産地域及び周辺地域(秋田県側)におけるセンサーカメラ調査	2013年～	毎年	継続	遺産地域及び周辺地域(78箇所程度)	中・大型ほ乳類相把握のための定点カメラ調査	○	

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査委:フナ林モニタリング調査委、弘大:弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(6/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
I.B. プナ林における動物の多様性が適切に保護されていること	2 動物	(2) 希少種生息	環	白神山地自然環境保全地域クマガラ生息情報等調査業務	1998～2002年、2014年	未定	継続	榊石山南斜面中腹部、遺産区域全域とその周辺地域(笹内、追良瀬、赤石、中村、暗門の各流域地)	クマガラの生息確認(ヒアリング調査)、現地調査	○
			林	白神山地周辺のクマガラ生息実態調査	1996、2008年	終了	未定	遺産地域及び周辺地域	クマガラの生息確認	
	環	鳥獣保護区管理員による巡視	2006年～	毎年	継続	遺産地域及び周辺地域	鳥獣保護区管理員等による情報の収集			
	ダム		1990～2006年	終了	不明	津軽ダム集水域及びその周辺(暗門川流域)、遺産区域全域とその周辺地域	津軽ダムアセスメント調査			
	環		2013、2016年	1回/3年	継続	青森県側5箇所、秋田県側4箇所	イヌワシ、クマタカ等の猛禽類の生息実態、及び繁殖率調査(青森イヌワシ調査会が1997年より毎年継続している調査)			

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査会:ブナ林モニタリング調査会、弘大:弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(7/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
II.B. フナ林における動物の多様性が適切に保護されていること	2 動物 (3)侵入動物	ニホンジカの生息域	青		2005年～	毎年	継続	周辺地域	情報収集	
			秋	白神山地における中・大型哺乳類調査(再掲)	2009年～	毎年	継続	周辺地域	情報収集	
			環	白神山地世界遺産地域周辺(青森県側)におけるニホンジカ監視カメラ調査、白神山地世界遺産地域及び周辺地域(秋田県側)におけるセンサーカメラ調査(再掲)	2013年～	毎年	継続	遺産地域、周辺地域	自動撮影カメラによる定点調査	
			林		2014年～	毎年	継続	遺産地域及び周辺地域(78箇所程度)	自動撮影カメラによる定点調査	
			青	ニホンジカ監視用自動撮影カメラ設置等事業	2015年～	毎年	継続	周辺地域	自動撮影カメラによる定点調査	
			その他	自動撮影カメラ設置	2017年～ 2020年	1回	2017年以降	周辺地域	自動撮影カメラによる定点調査。農林水産技術会議委託プロジェクト。森林総合研究所実施。	
			その他	ICTを利用した目撃情報収集	2017年～	未定	2017年以降	周辺地域	各種携帯端末を利用した目撃情報の収集。農林水産技術会議委託プロジェクト。森林総合研究所実施。	
			その他	糞採集調査及び分析	2017年～ 2020年	未定	2017年以降	周辺地域	糞を採集し、DNAレベルでの種判別、性別調査。農林水産技術会議委託プロジェクト。森林総合研究所実施。	
			環	ニホンジカ対策業務	2015年～	毎年	継続	周辺地域	ライトセンサー調査	
			環	ニホンジカ糞識別調査	2016年～	毎年	継続	周辺地域	糞を採集し、DNAレベルでの種判別	
3 菌類	(4)動物への影響 (1)菌類の分布調査	疫病の発生状況	青、秋		随時	毎年	継続	周辺地域	周辺地域における野生動物への疫病の感染・蔓延情報収集	
		共生・腐朽菌等土壌菌類	その他	なし			未定	白神山主要ルート沿い	共生・腐朽菌等土壌菌類の情報収集	
		酵母・乳酸菌、放線菌等の状況	秋	なし			未定	粕毛川源流部、白神山地山麓部	酵母・乳酸菌、放線菌、その他の菌類の採取・保存	

※実施機関一環：環境省、林：林野庁(東北森林管理局)、青：青森県、秋：秋田県、調査会：フナ林モニタリング調査会、弘大：弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(8/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査
Ⅲ. 利用及び人為活動等が世界遺産登録時の価値を損なわず、かつ地域振興に役立つよう遺産地域の周辺の変化を踏まえつつ適正に管理されていること	(1) 入り込み数	入り込み数	環	白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査	2004年～	毎年	継続	青森県側: 9箇所、秋田県側: 4箇所	歩道入口に入山カウンタを設置し、入り込み数を把握	○
			林	白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査(再掲)	2010年～	毎年	継続	青森県側 12箇所	自動撮影カメラを設置、画像から判別	
	(2) 主要歩道利用現況	主要歩道利用現況	青	白神山地の登山道における土壌硬度及び浸食状況等に関する調査	2009～2011年	1回/5年	未定	自然観察歩道、暗門の滝歩道・ブナ林散策道、東北自然歩道、十湖トレイル	歩道利用状況調査	
			林	保護林モニタリング調査業務及び評価業務(再掲)	2010/2011年、2015/2016年	1回/5-10年	2020年、2021年	白神山地森林生態系保護地域(白神岳)	保護林モニタリング: 利用動態調査(利用者数調査、利用者実態調査、定点写真の撮影)	
(3) 利用マナー	道標、テープ、ベンキ、落書き等の残存状況	全	合同パトロール		毎年	継続	世界遺産地域全域			
		環、林、青、秋	巡視員、職員等による巡視	1992年～	毎年	継続	世界遺産地域全域	GSS、環境省巡視員、県委嘱巡視員、職員による巡視		
			林	白神山地世界遺産地域実態把握調査(再掲)	2001、2009、2010年	1回/5-10年	未定	実態把握調査予定ルート(既存歩道、指定ルート、関連ルート)	職員等による巡視(標識類の設置、遺留品等の残存状況の把握)	

※実施機関一環: 環境省、林: 林野庁(東北森林管理局)、青: 青森県、秋: 秋田県、調査会: ブナ林モニタリング調査会、弘大: 弘前大学

白神山地世界遺産地域モニタリング調査内容一覧(全体)

(9/9)

モニタリング目標	モニタリング項目	具体的な調査項目	実施機関※	調査名	調査実施年	調査頻度	来年度以降	調査箇所	調査内容	重点調査	
Ⅲ. 利用及び人 が活動等が 世界遺産登 録時の価値 を損なわ ず、かつ地 域振興に役 立つよう遺 産地域周辺 の社会状況 の変化を踏 まえつつ適 正に管理さ れているこ と	(1)保全利用 拠点施設等 の利用者数	保全利用拠点施設 等の利用者数	青、秋、 市町村	保全利用拠点現況調査	2003年～	毎年	継続	赤石川地区、高倉森・ 暗門の滝地区、大川地 地区、追良瀬川・笹内川 地区、十二湖・白神岳 地区、三白神地区	観光入込客統計		
	2.地域振 興への 寄与	(2)環境教育、 普及啓発	世界自然遺産を 活用した環境教 育、普及啓発の 状況	白神山地子どもパークレンジ ヤー事業	1999～ 2016年	終了	終了	世界遺産地域及び周 辺市町村	小学3年生～中学3年生を対象にした、白神 山地周辺地域における自然体験キャンプ等		
				西目屋小学校総合学習対応	2008年～	毎年	継続	西目屋村	地元小学校における白神山地に関する環境 教育		
	3.遺産を 取り巻く 社会環 境	(1)地域の状 況	総人口、産業別 従事人口	その他	白神山地利用実態調査	2016年～	1回/5-10 年	継続	世界遺産地域及び周 辺市町村	周辺市町村等関係機関を対象に、白神山地 で活動するガイドの数及び学校機関での学 習状況の把握	
					国勢調査	1920～ 2010年	1回/5年	2020年	市町村	地域の人口や過疎化の分析、一次産業を中 心とした産業別従事者の実態把握	○
					地域住民の生活利用に関する 実態把握検討	未定	未定	未定	世界遺産地域及び周 辺市町村	山菜利用や狩猟などの生活利用に関する現 況把握の方法や実施主体(博物館、学校な ど)を検討していく。	

※実施機関一環:環境省、林:林野庁(東北森林管理局)、青:青森県、秋:秋田県、調査会:ブナ林モニタリング調査会、弘大:弘前大学

平成 30 年度におけるニホンジカの生息状況について

1. 目撃情報

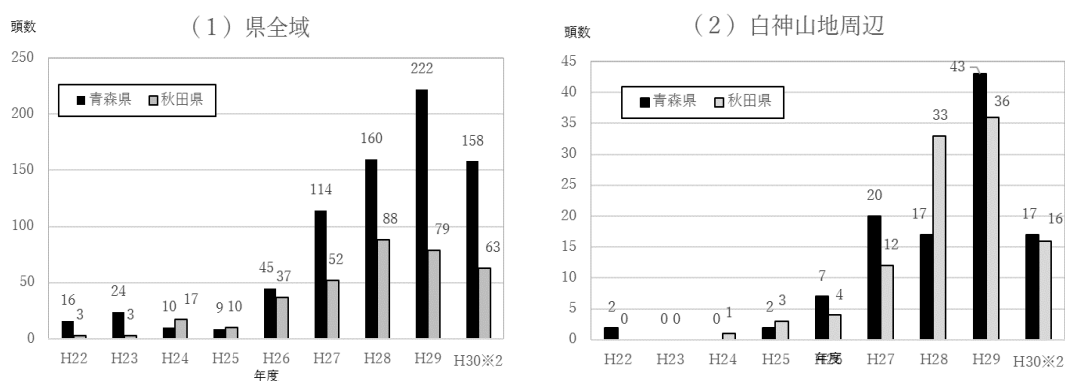
青森県及び秋田県自然保護課によると、平成 30 年 4 月 1 日から平成 30 年 12 月 20 日における目撃情報は下記の通りであった。

	全域		白神山地周辺※	
	件数	頭数	件数	頭数
青森県	114 (175)	158 (222)	15 (40)	17 (43)
秋田県	55 (77)	63 (85)	14 (36)	16 (36)

() 内の数値は H29 年度

※1 白神山地周辺…青森県鱒ヶ沢町、西目屋村、深浦町、秋田県能代市、八峰町、藤里町の範囲

＜ニホンジカ目撃頭数の年度別推移＞



※2 平成 30 年度については、平成 30 年 12 月 20 日までの数値

2. ライトセンサス調査

平成 30 年 11 月 22 日～26 日の無雪期に、青森県鱒ヶ沢町、西目屋村、深浦町、秋田県八峰町、藤里町（各ルート 2 回ずつ）でライトセンサスを実施したがニホンジカは確認できなかった（調査ルートは別添 1 参照）。

3. 自動撮影カメラによる撮影

白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関全体で141台の自動撮影カメラを設置し調査を行ったところ、平成30年12月20日時点で、市町村が別に設置しているカメラ及び一般からの画像・動画提供含めて計32件34頭の撮影があった。詳細は別添1、2、3のとおり。

6月21日には、世界遺産地域から約0.2km離れた場所で幼獣が1頭確認され、11月3日には秋田県藤里町の世界遺産緩衝地域内においてオスの成獣が1頭確認された。

また、8月21日に秋田県藤里町鹿瀬内沢で撮影された成獣オス個体は、その後8月22日（八峰町水沢）および8月26日（秋田県八峰町八森山）に撮影されたものと同じ個体である可能性が高いことが判明した（背中の子模様に基づく個体識別に基づく）。移動経路は不明だが、遺産地域内を通過している可能性がある。

<確認されたニホンジカの幼獣>

撮影日：平成30年6月21日（木）16:50

撮影地：青森県中津軽郡西目屋村大字川原平（遺産地域から約0.2km）

確認頭数：1頭 性別：不明（幼獣）

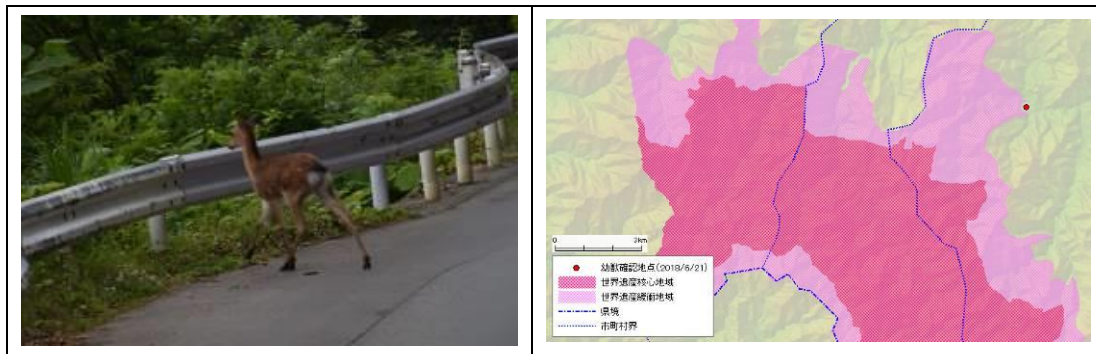


図1 撮影されたニホンジカの幼獣（東北地方環境事務所撮影）と確認場所

<世界遺産地域（緩衝地域）で確認されたニホンジカ>

撮影日：平成30年11月3日（土）15:43

撮影地：秋田県山本郡藤里町大字粕毛（緩衝地域内、核心地域から約0.65km）

確認頭数：1頭 性別：オス

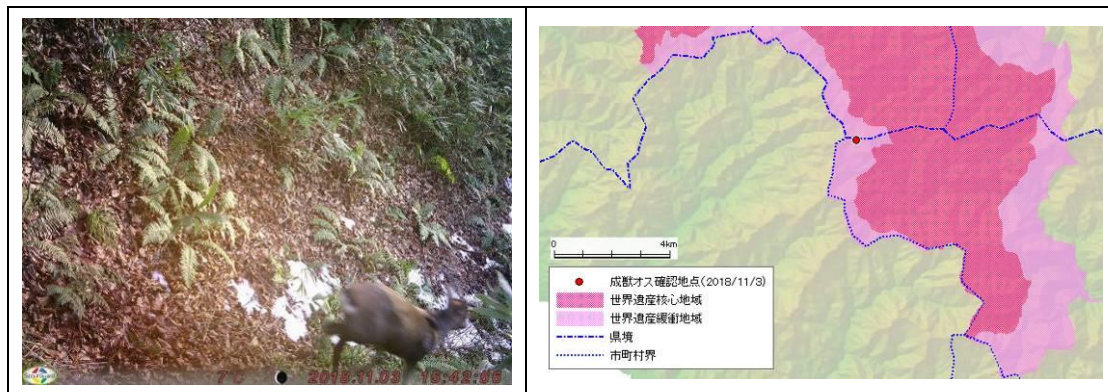
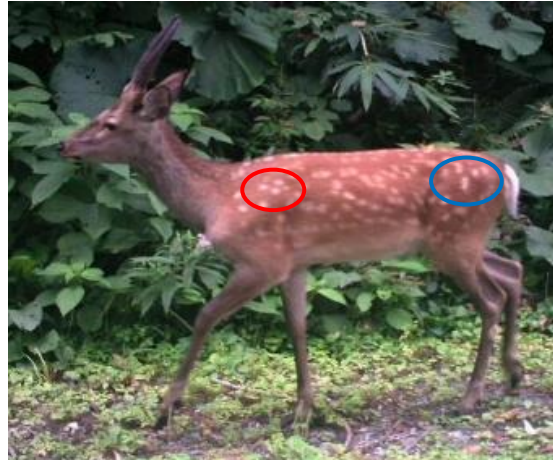


図2 藤里町で撮影されたニホンジカ（東北地方環境事務所撮影）と確認場所

< 同一個体の可能性が高いニホンジカ（オス） >



平成 30 年 8 月 21 日（火） 10:13
秋田県 藤里町 鹿瀬内沢 国有林周辺
林野庁設置カメラにて撮影



平成 30 年 8 月 21 日（火） 10:20
秋田県 藤里町 鹿瀬内沢 国有林周辺
林野庁設置カメラにて撮影

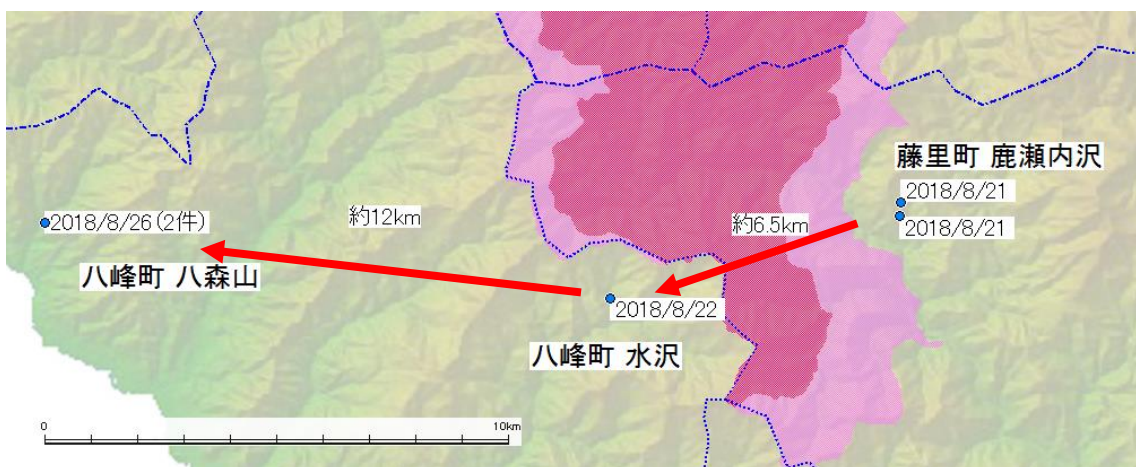


平成 30 年 8 月 22 日（水） 14:04
秋田県 八峰町 水沢周辺
環境省設置カメラにて撮影



平成 30 年 8 月 26 日（日） 11:00
秋田県 八峰町 八森山国有林周辺
林野庁設置カメラにて撮影

※特徴的な斑点模様を同じ色の丸で示す。



同一個体とされたニホンジカ（オス）の確認地点図

4. 糞識別調査

平成 30 年 12 月 20 日現在でニホンジカの可能性がある糞を 3 サンプル収集し、解析を行ったところ、いずれのサンプルも種は不明であった。

No.	採取日	採取地点	結果	採取者
1	2018. 5. 29	青森県弘前市相馬地区	不明	巡視員
2	2018. 7. 9	秋田県藤里町大字太良	不明	藤里森林生態系保全センター
3	2018. 10. 19	青森県西目屋村湯ノ沢国有林	不明	津軽白神森林生態系保全センター

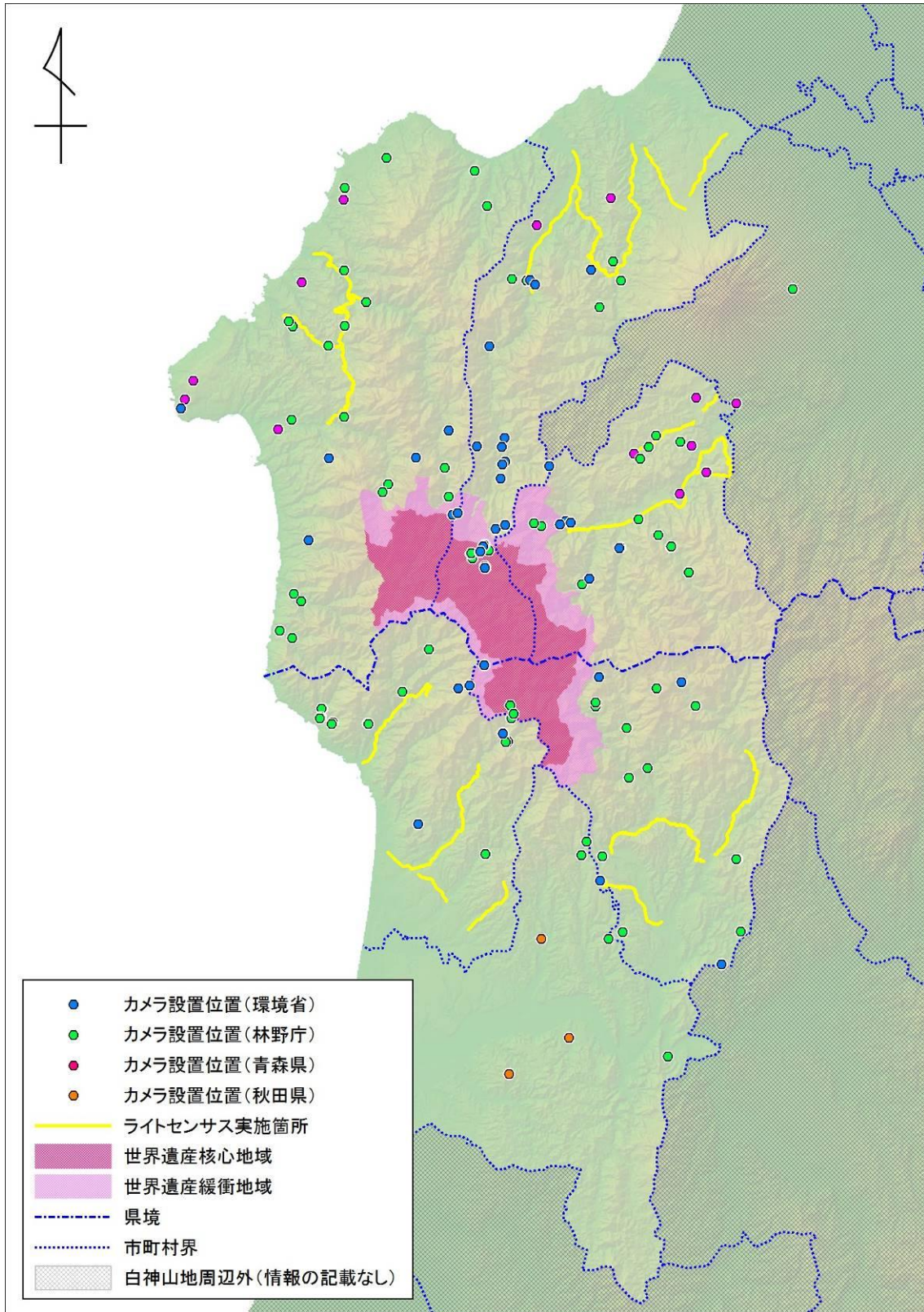
5. 考察

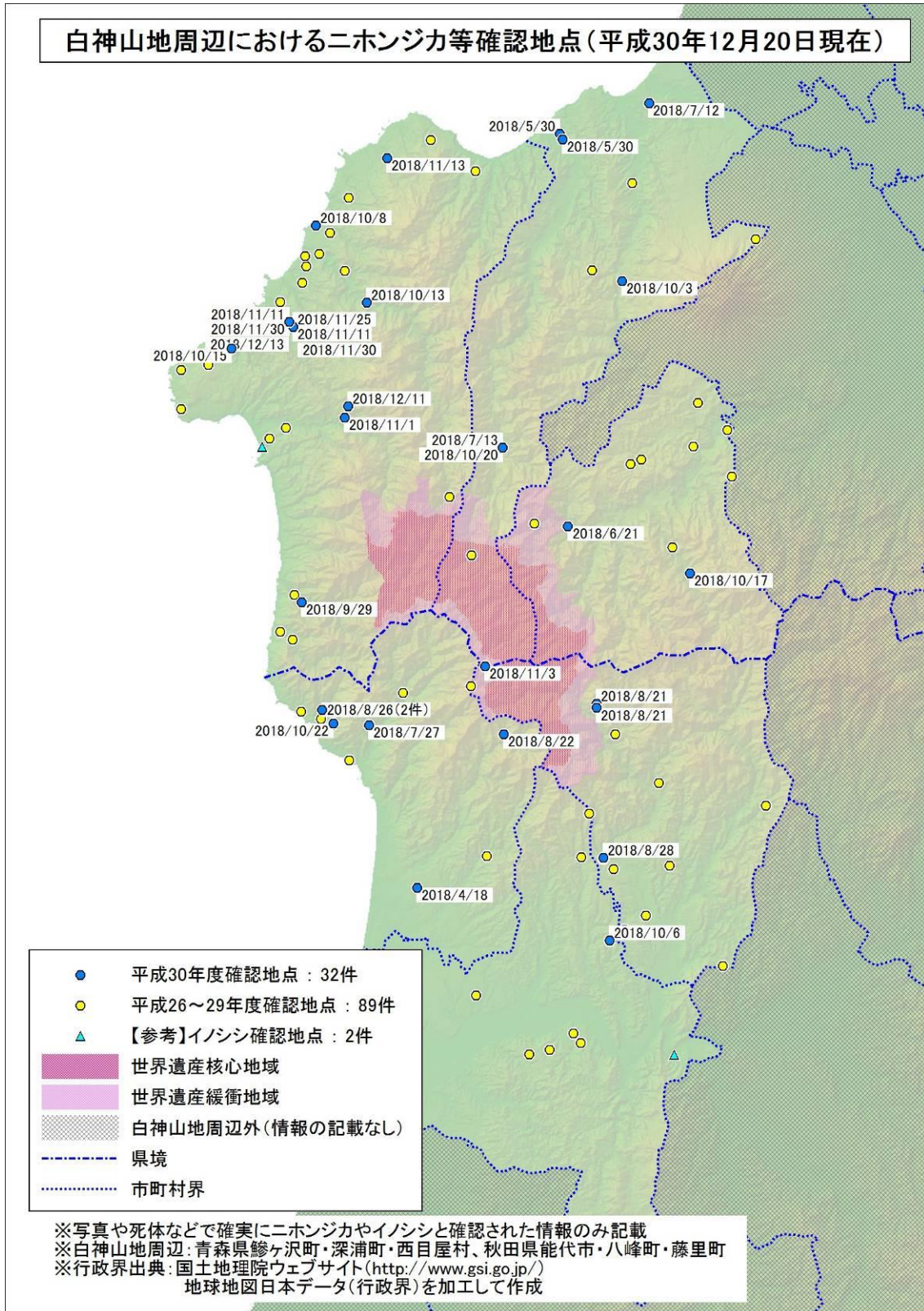
現時点で確認されているニホンジカは大半がオスの成獣個体であり、少なくとも遺産地域内において繁殖・越冬している可能性は低い。

また、仮に遺産周辺地域において繁殖・越冬をしていたとしても個体数は極めて少ないと考えられる。

一方で、今年度 6 月には初めて幼獣個体が確認された。また、昨年度 3 月には深浦町において越冬の可能性が高い痕跡が確認されたことから、遺産周辺地域における越冬・繁殖の有無について引き続きモニタリングする必要がある。

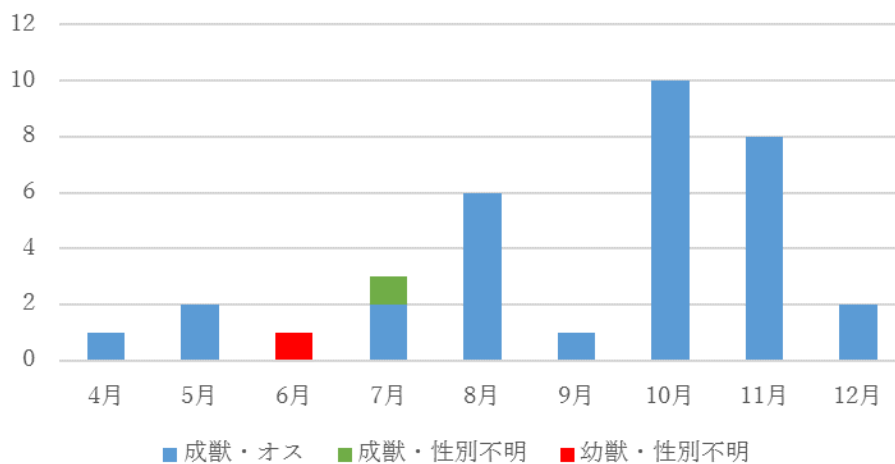
別添 1 白神山地遺産地域及びその周辺におけるニホンジカ生息状況調査位置図



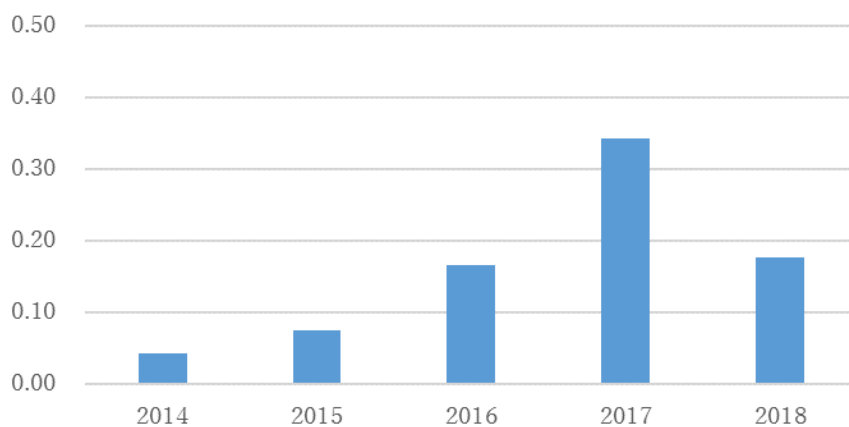


別添 3

自動撮影カメラ等によるニホンジカの撮影件数



自動撮影カメラによる撮影頻度経年比較
(撮影件数/台数)



※2018年度は12月26日現在までの数値

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名：東北地方環境事務所

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	自動撮影装置によるニホンジカ 生息状況調査	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。</p> <p>〔方法〕 遺産地域及びその周辺地域に周辺市町村のご協力のもと46台を設置。 〔実施状況〕 平成30年12月26日時点で4件のニホンジカの撮影があった。11月までに大部分の自動撮影装置は撤去したが、一部は冬季も継続して設置中。</p>	西目屋自然保護官事務所
2	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域	糞識別調査によるニホンジカ生 息状況調査	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。</p> <p>〔方法〕 遺産地域及びその周辺地域において各機関のご協力のもと、シカの可能性のある糞を採取し、DNAを用いてニホンジカのものであるか判定。 〔実施状況〕 平成30年12月26日時点で3サンプルを解析し、ニホンジカの確認はされなかった。</p>	西目屋自然保護官事務所
3	継続	監視区域	ライトセンサーによるニホンジカ 生息状況調査	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。</p> <p>〔方法〕 遺産地域周辺地域において、秋季にライトセンサー調査を業務発注で実施。 〔実施結果〕 11月22～26日に西目屋村、鱈ヶ沢町、深浦町、藤里町、八峰町で実施したが、ニホンジカは確認されなかった。</p>	西目屋自然保護官事務所
4	新規	遺産地域 監視区域	咆哮の録音によるニホンジカ生 息状況調査	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。</p> <p>〔方法〕 遺産地域及びその周辺地域において、録音機を用いた咆哮調査を業務発注で実施。 〔実施結果〕 9～11月に録音機を7台設置。現在解析中。</p>	西目屋自然保護官事務所

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容 (目的・方法・実施状況・成果など)	実施者
5	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域	目撃情報の集約	<p>〔目的〕 シカ対策検討の基礎データとして、青森県、秋田県、岩手県におけるシカ生息情報を集約する。</p> <p>〔方法〕 連絡会議において収集したシカ情報(日時、場所、成幼・雌雄の別、情報の根拠等)を統一フォーマットに整理し、GISで管理。</p> <p>〔実施結果〕 遺産地域及び監視地域において、写真等の根拠のある情報32件を収集・整理。</p>	西目屋自然保護官事務所
6	継続	監視区域	ニホンジカ捕獲手法検討	<p>〔目的〕 遺産地域周辺地域においてニホンジカを捕獲するため有効な捕獲手法について検討する。</p> <p>〔方法〕 猟友会等のご協力のもと、越冬地の可能性のある地点について積雪期に試験捕獲を実施。また、ニホンジカが越冬する可能性のある地点について現地調査を実施。</p> <p>〔実施結果〕 現在実施中。</p>	西目屋自然保護官事務所

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	平成30年度 白神山地遺産 地域及び周辺地域における 中・大型哺乳類調査業務(定 点カメラによる哺乳類調査)	<p>〔目的〕 白神山地における哺乳類の生息状況の把握。特に、今後白神山地への分布域拡大の可能性も指摘されているニホンジカの侵入状況を把握するために監視体制の強化を図る。</p> <p>〔方法〕 遺産地域及び監視区域の国有林・民有林において、森林生態系保全センター職員が自動撮影カメラ78台（青森県側45台、秋田県側33台）を設置し、環境省等関係機関と連携・協力して、定点調査を行う。</p> <p>〔実施状況・成果〕 実施期間は4月中旬～11月下旬まで実施。 *8月24日～28日核心地域（H29.8.6ニホンジカ撮影箇所）等において、専門家（田口委員、堀野委員^{ほか2}）によるニホンジカの痕跡調査を実施。</p>	東北森林管理局 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター
2	継続	監視区域	ニホンジカ捕獲業務	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域（緩衝地域）において、ニホンジカがセンサーカメラで撮影されるなどニホンジカの目撃情報が多くなっていることから、遺産地域内での定着を防止するため、関係機関と連携を図りながら捕獲を行う。</p> <p>〔方法〕 捕獲時期を動案し、餌が少くない時期に誘引餌を用いた小型囲いワナの捕獲を実施。</p> <p>〔実施状況・成果〕 昨年のセンサーカメラ調査での確認を踏まえて、深浦町及び八峰町で4月下旬から5月末及び、10月～12月末まで捕獲を実施。</p>	東北森林管理局 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター
3	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域 （3県域）	「ニホンジカ影響調査・簡易 チェックシート」による調査	<p>〔目的〕 東北局管内（東北5県）の国有林において、ニホンジカの広域監視体制を確立し、情報収集を強化するため、ニホンジカの生息域の現状、季節間移動や分布拡大などの変化、林業被害と自然植生への影響を把握し、地域関係者等と連携した効果的な被害防止対策を講じるための基礎資料とする。</p> <p>〔方法〕 森林管理署及び森林生態系保全センターの職員が林野巡視の際にニホンジカの目撃や痕跡を発見した場合にチェックシートに記入し、調査結果を整理。 なお、国有林に人林する巡視員、請負事業者、猟友会等から目撃情報等を聞いた場合もチェックシートに記入する。 調査結果は年度毎に集計し、局ホームページで公表している。</p> <p>〔実施状況・成果〕 調査時期は、消雪後から降雪時までとするが、冬期間の生息地等についても把握が必要なことから、降雪期についても調査に努める。</p>	東北森林管理局 ・津軽森林管理署 ・米代西部森林管理署 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容(目的・方法・実施状況・成果など)	実施者
4	継続	周辺地域 (青森県)	シカ監視用自動撮影カメラ設置の協力(事業主体:青森県)	<p>[目的] 青森県に生息するシカの分布及び生息状況を把握する(青森県実施要領)。</p> <p>[方法] シカが出現されると想定される地点への自動撮影カメラの設置及び月1回の撮影データ回収を行い、シカが撮影された場合は県に連絡する。</p> <p>[実施状況・成果] 県から依頼あった3署計9地点の国有林にカメラを設置して監視に協力。</p>	東北森林管理局 ・津軽森林管理署 ・青森森林管理署 ・三八上北森林管理署
5	継続	周辺地域 (岩手県早池峰山)	平成30年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査	<p>[目的] 岩手県中部に位置し、希少種の宝庫として名高い早池峰山周辺森林生態系保護地域において、ニホンジカによる剥皮被害や樹木の枝・葉に食痕が見られ、今後、森林の多面的機能の低下が懸念されている。</p> <p>このことから、早池峰山周辺地域及び周辺の森林における、森林の生物多様性の保全や国土保全、水源涵養、木材生産機能等を確保するため、岩手県等と連携し、専門家等の意見を聞いた上でニホンジカの生息状況等の調査を実施する。</p> <p>[方法] 自動撮影カメラによりニホンジカの出現状況等を把握するとともに、GPS首輪を装着して追跡調査を実施し、移動経路や越冬地等を把握する。</p> <p>[実施状況・成果] 6月～3月に実施 7月 検討委員会、カメラ設置 8月 GPS首輪装着、追跡開始 引き続き、首輪装着のための捕獲、自動撮影カメラのデータ回収、追跡調査を実施予定。</p>	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署 ・盛岡森林管理署
6	継続	周辺地域 (岩手県早池峰山)	林道除雪による捕獲支援	<p>[目的] 林道除雪を実施し、積雪期におけるニホンジカの捕獲支援を行う。</p> <p>[方法] 関係機関と路線を選定し、捕獲のために国有林の林道除雪(2署)を実施する。</p> <p>[実施状況・成果] 1月～3月まで除雪を実施。 三陸北部署:2路線、遠野支署:7路線</p>	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署
7	継続	周辺地域 (岩手県、宮城県)	鳥獣被害対策協議会等への積極的な参画による地域との連携	<p>[目的] 地域情報を収集し、ニーズを把握した上で、共同した対策を検討する。</p> <p>[方法] ニホンジカ被害が多い地域の4(支)署において、現在計8の鳥獣被害対策協議会等(9市町村)へ参画。</p> <p>[実施状況・成果] 遠野支署においては有害鳥獣駆除協議会での要望、また三陸北部署においても地元猟友会の要望を踏まえ、国有林の林道除雪による捕獲支援を実施。</p>	東北森林管理局 ・三陸中部森林管理署 ・岩手南部森林管理 ・遠野支署 ・宮城北部森林管理署

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容 (目的・方法・実施状況・成果など)	実施者
8	継続	周辺地域 (岩手県、宮城県)	二ホンジカ被害防除事業(誘引捕獲)の実施	〔目的〕 市町村の鳥獣被害対策協議会等と連携し、森林への被害の軽減を図るため、効果的に二ホンジカの捕獲に取り組む。 〔方法〕 誘引餌を用いた困いわな等による捕獲を実施。 〔実施状況・成果〕 三陸北部署:岩手県宮古市の国有林で10～11月まで誘引捕獲を実施。 三陸中部署:岩手県釜石市の国有林で8月～12月まで誘引捕獲を実施。 岩手県大船渡市の国有林で10～3月まで誘引捕獲を実施。 遠野支署:岩手県遠野市の国有林で10～11月まで誘引捕獲を実施。 宮城北部署:宮城県石巻市の国有林で11～3月まで誘引捕獲を実施。	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・三陸中部森林管理署 ・遠野支署 ・宮城北部森林管理署
9	新規	周辺地域 (岩手県)	平成30年度シカによる森林被害緊急対策事業	〔目的〕 シカによる被害が深刻な地域において、民有林の関係者と連携し、広域的かつ効果的な捕獲等をモデル的に実施する。 〔方法〕 岩手県早池峰山周辺森林生態系保護地域より南側の北上高地緑の回廊並びに周辺地域の国有林を対象に、予備調査等により効果的な捕獲箇所を選定して捕獲を実施。 〔実施状況・成果〕 予備調査の結果効果的な捕獲箇所として釜石市日向ダム周辺の国有林を選定し、12月～2月に困いわな10基等により捕獲を実施。	東北森林管理局 ・遠野支署 ・三陸中部森林管理署
10	新規	周辺地域 (岩手県)	早池峰山周辺森林生態系保護地域における簡易防鹿柵の試験的設置	〔目的〕 シカによる高山植生への被害が見られる岩手県早池峰山周辺森林生態系保護地域の早池峰山登山道・門馬握沢コース及び河原の坊コースの計4箇所において、試験的に簡易な防鹿柵を設置し、被害拡大の防止や植生の回復を図る。 〔方法〕 シカによる被害が見られる箇所において、簡易な防鹿柵を設置する。 〔実施状況・成果〕 門馬握沢コース2箇所を8月30日に、河原の坊コース2箇所を9月4、5日に設置。積雪による破損防止のため、門馬握沢コース2箇所を10月29日に、河原の坊コース2箇所を11月7日にネットを下ろした。	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID	
報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地周辺地域（青森県側）における小型囲いわなによるニホンジカの試行的捕獲			発行年月/報告年月	
				2019年	2月
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関			
調査開始年	2016年 10月	調査期間	2018年 4月	～	2018年 12月
調査頻度 ^{注2)}	毎年 — —	調査時期 ^{注2)}	春 — 秋		
ヒカリノ計画	2017年3月 策定	区分 ^{注2)}	IB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (3)		
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 近年白神山地周辺で相次いで目撃・撮影されているニホンジカについて、越冬する可能性が高い海岸寄りの低標高地に、獣サイズ判別センサー（写真メール通報機能付き）を搭載した小型囲いわなを1基設置して捕獲を試みた（写真1）。 ■設置箇所 深浦町 深浦山国有林 3055ほ1林小班内（図1） （平成30年度 中・大型哺乳類調査業務のセンサーカメラ設置箇所③、⑫の直近） ■わな ：四国森林管理局で開発された『シカ捕獲用小型囲いわな』 高さ130cm×幅75cm×奥行き180cm、重量58kg ■獣サイズ判別センサー ：アニマルセンサー2（株アイエスイー） ■わな入口付近の観察用センサーカメラ ：TREL10J-D（株GI Supply）1台（動画撮影） ■誘引剤 ：ユクル（日鐵住金建材株式会社） ハイキューブ・チモシー（有）ワールド牧場 ■稼働期間 平成30年4月25日～5月31日、9月25日～12月28日 （土日祝日はゲートを固定）		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>					
結果概要（スペースに収まるように入力してください）					
<p>4月19日、小型囲いわなにアニマルセンサー2を取り付け、わなの内外に誘引剤としてユクル・ハイキューブを撒いて、電源は入れずにゲートを開けたまま固定した。春期の捕獲事業は4月25日より開始し、5月31日まで毎週開けにアニマルセンサーの電源を入れて、週末に電源を落とす作業を継続した。秋期は9月25日より稼働させたが、9月12日に秋期稼働前の現地確認をした際、わな内外に繁茂したフキなどの草本類でセンサーが誤作動をおこさないよう刈り払ったため、誘引剤としてユクル（砕いた物）・ハイキューブを再度撒いた（写真2）。10月12日、前に刈り払った影響が草本類が少なくなったため、誘引剤としてユクル・ハイキューブを撒いた（3回目）。12月10日にわな周辺地域で降雪があったものの、わな周辺に草本類等が見られたため、12月28日の秋期捕獲事業を終了させるまで誘引剤を追加することはなかった。</p> <p>小型囲いわな稼働日数（＝アニマルセンサーの電源を入れた日数）は4月：3日、5月：18日、9月：2日、10月：21日、11月：19日、12月：19日、以上82日で、稼働期間中に大型哺乳類がわなにかかることはなく、わな入口に向けて設置したセンサーカメラ（動画）を確認したところ小型・中型哺乳類についてもわなの中に入ることが確認できなかった。</p> <p>わなの入口に向けて設置したセンサーカメラ（動画）と、わな周辺のセンサーカメラ⑦・③①・③②（図1）で撮影された動物の確認種と個体数を表1に示す。なお、わなの動画撮影のカメラ（TREL10J）はインターバル30分・センサー感度高・一回の撮影で30秒間撮影されるように設定し、延べ248日間設置した。一方、静止画撮影のカメラ（TREL10J-D）⑦・③①・③②は、11月末日までインターバル30分・一回の撮影で3連写されるように設定して220日間、12月からインターバル0分・センサー感度高・一回の撮影で30秒間撮影されるように再設定して28日間、延べ248日間設置した。連写された場合は、一連の撮影で写った最大個体数をカウントして取りまとめたものであり、動画は撮影時間内にカウントできた最大個体数をとりまとめたものである。</p> <p>ニホンジカについては、3箇所から1頭ずつ、合計7頭が撮影されたが、動画により撮影された同日同時刻で複数箇所を確認されたものがあるため実際の合計頭数は下回ると考えられる。その他に錯誤捕獲の恐れがあるツキノワグマが合計1頭、カモシカが合計24頭撮影され、外来種のハクビシンが合計7頭撮影された。</p>					
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2754 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町25-2 TEL: 0173-72-2931 FAX: 0173-72-2932 ≪原本（データ）の帰属について≫				

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。



図1 平成30年度 小型囲いわな設置箇所:◎
 (⑦・⑳・㉔:中・大型哺乳類調査業務のセンサーカメラ設置箇所)



写真1 小型囲いわな (4月19日)



写真2 ユクル・ハイキューブ (9月12日)




写真3 ニホンジカ♂ (⑦:10月31日)

表1 わな・⑦・⑳・㉔で撮影された動物

種名	動画		静止画			動画			合計
	わな	⑦	⑳	㉔	⑦	⑳	㉔		
ニホンザル	46	10	7	4	10	28	48	153	
キツネ	1	3	3	5				12	
ヌキ	3	1	6	4	1	3	2	20	
ツキノワグマ			1					1	
テン		2	2		1	1		6	
アナグマ	3		1	2				6	
ハクビシン	1	5	1					7	
ニホンジカ		3		2	1	1		7	
カモンカ	2	6	11	3	1	1		24	
ニホンリス	1		25				1	27	
ニホンウサギ	6		3	4	4	2		19	
不明ネズミ類			1					1	
不明哺乳類		2	11	2				15	
哺乳類個体数合計	63	32	72	26	11	38	56	298	
哺乳類種数合計	8	7	10	7	2	6	7	11	
ヤマトリ	1					1		2	
全個体数合計	64	32	72	26	11	39	56	300	
全種数合計	9	7	10	7	2	7	7	12	



写真4 ニホンジカ♂ (㉔:12月13日)

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地周辺地域（秋田県側）における小型囲いわなによるニホンジカの捕獲事業の検証			発行年月/報告年月
				2019年 2月
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関		
調査開始年	2016年 10月	調査期間	2018年 4月 ~ 2018年 12月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年 — —	調査時期 ^{注2)}	春 — 秋	
ヒナノカ計画	2017年3月 改訂	区分 ^{注2)}	IB 大区分 ^{注2)} 2 小区分 ^{注2)} (3)	
調査箇所・範囲 ^{注3)}		調査手法		
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり		目的 近年白神山地周辺で相次いで目撃・撮影されているニホンジカについて、越冬する可能性が高い海岸寄りの低標高地に、獣サイズ判別センサー（写真メール通報機能付き）を搭載した小型囲いわなを1基設置して捕獲を試みた（写真1）。 設置箇所 ：八峰町 八森山国有林 159は林小班内（図1） （平成30年度 中・大型哺乳類調査業務のセンサーカメラ設置箇所5の直近） わな ：四国森林管理局で開発された『シカ捕獲用小型囲いわな』 高さ130cm×幅75cm×奥行180cm、重量58kg 獣サイズ判別センサー ：アニマルセンサー2（㈱アイエスイー） わな入口に向けた観察用センサーカメラ ：Bushnell トロフィーカム1台（動画撮影） 誘引剤 ：ユクル（日鐵住金建材株式会社）、ハイキューブ・チモシー（有）ワールド牧場 稼働期間 ：平成30年4月25日～5月31日、9月25日～12月21日 （土日祝日はゲートを固定）		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）				
4月20日、小型囲いわな（以下、わな）にアニマルセンサー2を取り付け、わなの内外に誘引剤としてユクル・ハイキューブ・チモシーを撒いて、電源は入れずにゲートを開けたまま固定した。春期の捕獲事業は4月25日より開始し、5月31日まで毎週明けにアニマルセンサーの電源を入れて週末に電源を落とす作業を継続した。秋期は9月25日より稼働させたが、わなの周辺にクス主体の草本類が繁茂していたため、誘引剤としてハイキューブ2個のみを使用した（写真1）。12月10日にわな周辺で今期初の積雪が見られたものの数日で溶け、新鮮な草本類が地上に出ている状態だったため、12月21日に秋期捕獲事業を終了するまで新たに誘引剤を追加することはなかった。				
わなの稼働日数（＝アニマルセンサーの電源を入れた日数）は4月：3日、5月：10日、9月：0日、10月：8日、11月：16日、12月：10日、以上合計47日であった。毎週明けにわな周辺のセンサーカメラ3～5（図1）に写りこんだ動物を現地で確認し、カモシカが撮影されていた場合は錯誤捕獲を防ぐため、その週に関してはアニマルセンサーの電源を入れないという措置を取っていたため、稼働日数が少なくなったものである。稼働期間中に、大型哺乳類がわなの内部に侵入して捕獲に至ることは無く、タヌキ等の中型哺乳類についてもわなの中に入ることはなかった。				
わなの入口に向けて設置したカメラ（動画）と、わな周辺のセンサーカメラ3～5（静止画）で撮影された動物の確認種と個体数を表1に示す。なお、動画撮影のカメラはインターバル30分・一回の撮影で30秒間撮影されるように設定し、延べ245日間設置した。一方、静止画撮影のカメラはTREL10-Dで、インターバル30分・一回の撮影で3連写されるように設定し、地点3は延べ182日間、地点4・5は延べ214日間設置した。連写された場合は、一連の撮影で写った最大個体数をカウントして取りまとめたものである。錯誤捕獲の恐れがあるツキノフグマが合計11頭、カモシカが合計50頭撮影されたほか、外来種のハクビシンが合計60頭とわな周辺では最も多くの個体数が撮影された。ハクビシンは地点3・4において2頭連れて撮影されたこともあり、わな周辺で繁殖している可能性がある。				
問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大間添24-3 TEL：0185-79-1003 IP：050-3160-5865 FAX：0185-79-1005 ≪原本（データ）の帰属について≫			

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

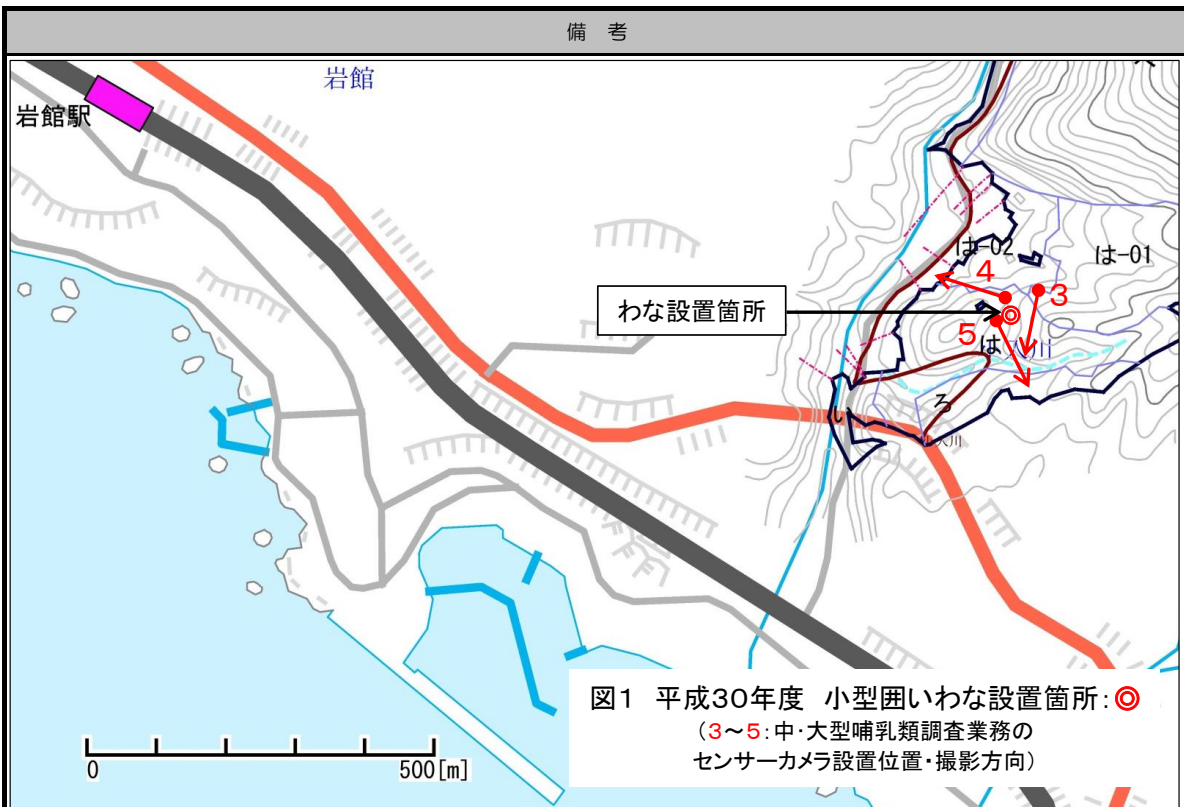


表1 わな・3~5で撮影された動物

種名	動画	静止画			合計
	わな	3	4	5	
キツネ	1	3	14	12	30
タヌキ	3	4	27	22	56
ツキノワグマ	1	1	7	2	11
テン		2	6	3	11
イタチ				2	2
アナグマ	1		5	1	7
ハクビシン	1	8	34	17	60
イエネコ			5	4	9
カモシカ	10	15	18	7	50
ニホンリス		6	1		7
ニホンウサギ		7	7		14
不明ネズミ類				6	6
不明哺乳類		2	10	6	18
哺乳類個体数合計	17	48	134	82	281
哺乳類種数合計	6	8	10	9	11
キジバト	7	21	1	9	38
カケス		3			3
ハシボソガラス				3	3
キセキレイ	1				1
ホオジロ				1	1
不明鳥類	1				1
全個体数合計	26	72	135	95	328
全種数合計	8	10	11	12	16

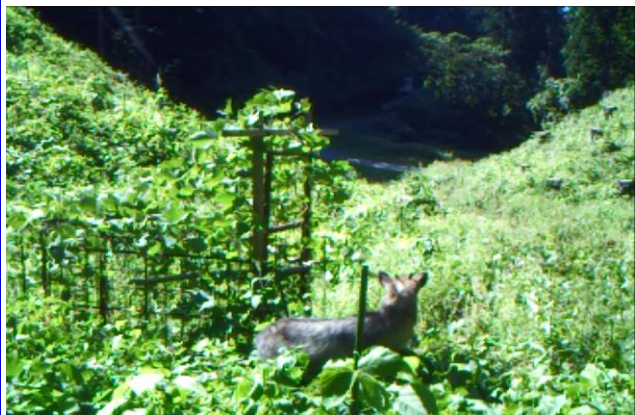
写真1 小型囲いわな
(秋期稼働時:ハイキューブを2個使用)

写真2 カモシカ (9月19日)

早池峰山周辺森林生態系保護地域におけるニホンジカ対策

1 防鹿柵の設置

- ・早池峰山登山道（門馬握沢コース）
2箇所 100m（周囲70m+周囲30m）
- ・早池峰山登山道（河原の坊コース）
2箇所 100m（周囲50m+周囲50m） 計200m

2 ニホンジカの捕獲

- 三陸北部署：岩手県宮古市の国有林で10～1月まで誘引捕獲を実施
中型囲いワナ 1基
- 三陸中部署：岩手県釜石市の国有林で8～12月まで誘引捕獲を実施
中型囲いワナ 2基、小型囲いワナ 2基
- 遠野支署：岩手県遠野市の国有林で10～1月まで誘引捕獲を実施
小型囲いワナ 4基、くくりワナ 10基

3 狩猟への支援（林道除雪）

（1）林道除雪

- 三陸北部署：2路線
遠野支署：7路線

（2）協定によるワナの貸出等

① ワナ貸出協定

- 遠野支署：遠野市、遠野猟友会、遠野支署の3者で協定を締結しワナを貸出
小型囲いワナ 4基（平成30年10月現在）
※ ワナ貸出基数は今後増やす予定

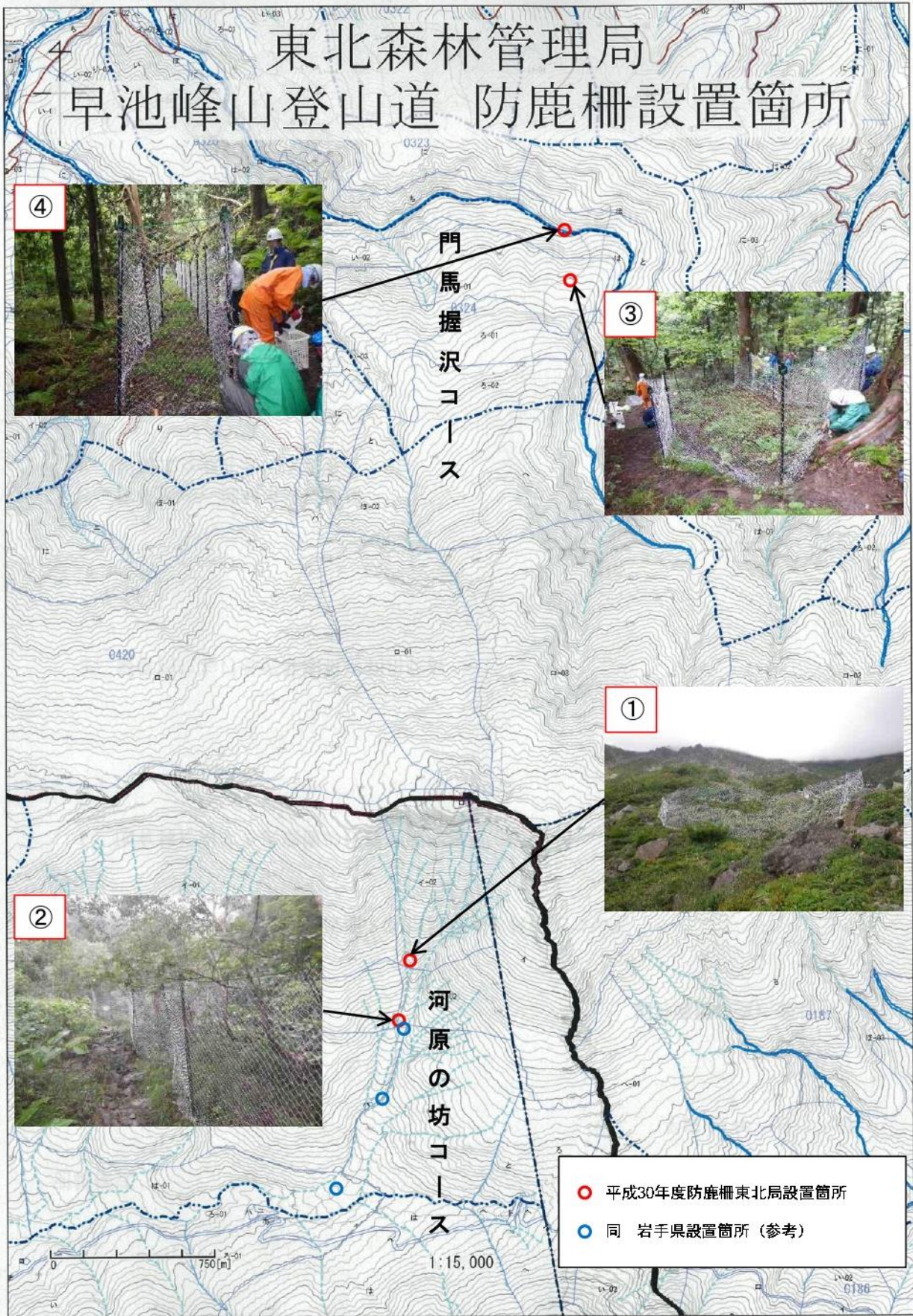
② 入林簡素化協定

- 三陸中部署：釜石市、釜石大槌猟友会、三陸中部署の3者で協定を締結し二又
林道ゲート鍵を貸出

5 ニホンジカ生息状況調査

早池峰山周辺地域（岩手県宮古市及び遠野市の国有林）でニホンジカ生息状況等調査を実施

- センサーカメラ 20台
GPS首輪 5頭



平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名：青森県

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	県内	ニホンジカ生息状況の把握	<p>① 生息調査 [目的] 県内の生息分布等の客観的なデータを得るため、業務委託によりモニタリング調査を行う。 [方法] ニホンジカの生息状況は低密度であるため、目撃情報の多くを占める三八地域を中心に糞塊調査等を実施した。 ② 自動撮影カメラの設置 [目的] 県内各所に自動撮影カメラ(夜間撮影可)を設置し、ニホンジカの分布、侵入・移動経路を把握する。 [方法] 県内市町村等に貸与(123台)し、カメラの設置及びデータ回収を行った。 ③ 目撃情報の収集 [目的] ニホンジカの出没状況を把握するため、県民等から目撃情報の収集を行う。 [方法] ニホンジカの目撃情報提供体制を強化するため、情報提供を依頼するチラシを作成し関係機関等に配布するほか、県ホームページやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼びかけた。</p>	自然保護課
2	継続	県内	ニホンジカ捕獲等事業	<p>[目的] 「第二種特定鳥獣管理計画(第1次ニホンジカ)」に基づき、国の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用して、ニホンジカの集中的かつ効率的な捕獲を実施する。 [方法] ニホンジカの目撃情報が急増し、農業被害が確認された三八地域、貴重な生態系がある白神山地周辺地域において、県が実施主体となって行う捕獲事業を、国の指定管理鳥獣捕獲等事業として、認定鳥獣捕獲等事業者に委託して実施した。 ○ 対象地域 三八地域(八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村) 世界自然遺産白神山地周辺地域(鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村) ○ 捕獲目標 三八地域:45頭、世界自然遺産白神山地周辺地域:8頭 ○ 捕獲方法 三八地域:銃猟(巻狩り・忍び猟)及びわな猟(はこわな) 世界自然遺産白神山地周辺地域:銃猟(忍び猟)及びわな猟(はこわな) ○ 捕獲実施期間 平成30年11月1日から平成31年3月20日まで ○ 委託先 認定鳥獣捕獲等事業者(一般社団法人青森県猟友会)</p>	自然保護課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容(目的・方法・実施状況・成果など)	実施者
3	継続	県内	狩猟者の育成・確保	<p>〔目的〕 野生鳥獣の適正な管理に必要な狩猟者を育成する取組や狩猟への関心を高めるイベント等を開催するなどして、狩猟者の育成・確保を図る。</p> <p>〔方法〕 野生鳥獣と共生するための地域・環境づくりに欠かせない人材を育成するスクールの開講など、狩猟者の育成を図るとともに、猟場視察や銃砲店等を訪問し、狩猟を体感できるツアーや狩猟への関心を促すフォーラムを開催するなどして新たな担い手の確保に努めた。</p> <p>○森の番人養成スクール 参加者：11名 受講要件：県内に現住所があり、20歳から概ね50歳以下の健康な者で、狩猟免許(銃若しくはわな)を所持しているが、狩猟経験が浅い者、若しくは、狩猟を長期間行っていない者。 受講回数：4回 ○狩猟体感ツアー 平成30年12月2日(日)に開催(開催地：十和田市・東北町) ○狩猟フォーラム 平成30年12月8日(土)に開催(開催地：西目屋村)</p>	自然保護課
4	継続	県内	森林被害の把握	<p>〔目的〕 二ホンジカによる森林被害を把握する。</p> <p>〔方法〕 被害状況等を把握するため、森林組合等に情報提供を促すチラシを作成・配付。</p> <p>〔実施状況〕 森林被害に関する報告なし。</p>	林政課
5	新規	県内	鳥獣被害防止実施体制の強化	<p>〔目的〕 実施隊員等の育成及び資質向上を図るとともに、二ホンジカなどの野生鳥獣による農業被害を防止するための市町村の活動を支援する。また、引き続き、近隣市町村の広域連携を推進し、効果的・効率的な被害防止対策を支援する。</p> <p>〔方法〕 県内において導入実績の無い二ホンジカ用電気さくを活用した被害防止対策手法を習得するための研修会や広域連携による農作物被害防止対策の推進を図るための地域別連絡会議を開催した。</p>	食の安全・安心推進課

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名：秋田県自然保護課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	監視地域 周辺地域	ニホンジカの生息調査	カメラ設置 〔目的〕 昨年度目撃された場所等に監視カメラを設置し、食害防止等の監視体制を整備。 〔方法〕 センサーカメラ(計37台)を設置してニホンジカの個体を撮影。能代山本地区は5台設置。 〔目的〕 近年増加する野生鳥獣による農林水産業等の被害をふまえ、野生鳥獣の適正な保護管理及び住民の安全を確保するため、鳥獣保護管理の担い手となる狩猟者を新たに呼び込む機会をつくるとともに、狩猟の魅力や狩猟が持つ社会的な役割を多くの方に知ってもらった。 〔方法〕 「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」の開催 〔時期〕 平成30年7月1日(日) 国際教養大学コペルコホール 〔来場者〕 約100名	自然保護課
2	継続	監視地域 周辺地域	狩猟と野生鳥獣管理の普及啓発	〔目的〕 有害駆除に従事する人材確保を目的に、若手狩猟者及び銃猟免許取得予定者を対象とした共同捕獲に関する室内講義や捕獲実習を行い、人材育成・確保を図る。 〔場所〕 県北・県央・県南(各1回) 〔時期〕 1月～2月	自然保護課
3	継続	監視地域 周辺地域	鳥獣保護管理担い手育成	〔目的〕 ニホンジカの個体数の増加や農林業被害が確認される前に、ニホンジカの生態やその対処法について学ぶとともに、被害を最小限に抑えるために研修会を開催する。 〔対象〕 県及び市町村の農業担当職員、農業従事者 〔時期〕 1月～2月(秋田市で2回予定)	自然保護課
4	継続	監視地域 周辺地域	ニホンジカ・イノシシ被害防止対策研修会	〔目的〕 ニホンジカを適正に管理していくため、H29に第二種特定鳥獣管理計画を策定。当計画に基づき、本県に適したニホンジカの捕獲方法を把握するため、試験捕獲を実施し検証を行う。 〔方法〕 科学的かつ計画的な管理を実施することで、個体数の増加及び生息域の拡大を抑制し、農林業、生活環境、森林生態系への被害を防止する。 〔場所〕 ・藤里町―はこねによる捕獲 ・八峰町―銃猟による捕獲 〔期間〕 8月～2月	水田総合利用課
5	継続	監視地域 周辺地域	指定管理鳥獣捕獲等事業		自然保護課

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名 西目屋村

	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	シカ監視用自動撮影カメラ管理 の協力(事業主体:西目屋自然 保護官事務所)	〔目的〕 白神山地世界遺産地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。 〔方法〕 自動撮影カメラによる定点調査のため、定期的に撮影データの回収を行い、西目屋自然保護官 事務所へ提出。 〔実施予定〕 「世界遺産の径 ブナ林散策道」上に平成30年4月24日設置し、データ回収を実施。	西目屋村
2	継続	周辺地域 (西目屋村)	シカ監視用自動撮影カメラ設置 及び管理の協力(事業主体:青 森県)	〔目的〕 青森県に生息するニホンジカの分布及び生息状況を把握すること(青森県実施要領)。 〔方法〕 シカが出現されると想定される地点へ自動撮影カメラを設置し、月1回の撮影データ回収を行う。 シカが撮影された場合は迅速に報告する。 〔実施予定〕 村で選定した6地点の民有林にカメラを設置し、データ回収を実施。	西目屋村
3	継続	周辺地域 (西目屋村)	シカ等監視用自動撮影カメラ設 置(事業主体:西目屋村)	〔目的〕 西目屋村に生息するニホンジカを始めとした鳥獣の分布及び生息状況を把握すること 〔方法〕 村内林道及び園地周辺へ自動撮影カメラを設置し、月1回の撮影データ回収を行う。 ニホンジカが撮影された場合は報告する。 〔実施予定〕 村で所有している5台を選定した民有林に設置し、データ回収を実施。	西目屋村
4	継続	周辺地域 (西目屋村)	捕獲体制の整備	〔目的〕 村内でのニホンジカ個体数の増加を抑制する。 〔方法〕 ニホンジカの有害捕獲を通年許可とする。 〔実施予定〕 昨年度に引き続き、ニホンジカの通年有害捕獲許可を出し、捕獲体制を整備するとともに、実施 隊へ目撃時は迅速に捕獲するよう指導した。 また、村内住民へ回覧により目撃情報を求めた。	西目屋村 西目屋村猟友会

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名： 鱒ヶ沢町

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	白神山地 周辺地域 (鱒ヶ沢町)	動物相調査に係る自動撮影力 メラの設置及び管理の協力 (事業主体:西日屋自然保護官 事務所)	<p>【目的】 白神山地世界遺産地域及び周辺地域における哺乳類の生息状況の把握と、ニホンジカや アライグマ等の侵入状況を把握する。</p> <p>【方法】 自動撮影カメラによる定点調査を実施。定期的にデータを回収し、西日屋自然保護官事務 所に提出する。</p> <p>【実施期間】 白神の森遊山道(5月10日～11月8日) データ回収:3回 くろくまの滝歩道(6月7日～11月8日) データ回収:1回</p>	鱒ヶ沢町

平成30年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名 深浦町

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・実施状況・成果など）	実施者
1	継続	深浦町	平成30年度鳥獣被害防止対策事業（平成30年度青森県鳥獣被害防止対策事業）	<p>【目的】ニホンジカの目撃情報が急増していることから、農作物被害防止及び森林生態系保護のため、ニホンジカ捕獲体制の強化を図る。</p> <p>【方法】鉄製の箱ワナ2基を目撃情報の多い地域に設置し、また、IGTを活用し、錯誤捕獲対策を講じた。</p> <p>4月～現在実施中。</p> <p>【実績等】箱ワナによる捕獲実績は無いが、平成30年12月11日に銃によりニホンジカのオス1頭を捕獲した。</p> <p>【その他】青森県自然保護課から青森県猟友会へ平成30年度青森県指定管理鳥獣捕獲等事業を委託し、檻と忍び猟により捕獲活動を実施中（平成31年3月まで）。</p>	深浦町 （農林水産課）

<参考資料>

ニホンジカ対策の取り組みについて

機関名：深浦町（農林水産課）

1 ニホンジカ目撃状況

平成 26 年度～平成 30 年度

年度	件数	頭数	備考
平成 26 年度	—	—	ロードキル 1 件
平成 27 年度	9	10	
平成 28 年度	6	7	
平成 29 年度	25	28	捕獲 1 頭（オス）
平成 30 年度 (平成 30 年 12 月 13 日現在)	24	27	捕獲 1 頭（オス）

2 ニホンジカ被害防止対策について

ニホンジカ被害対策において被害が顕著になってから（爆発的に増加してから）では、対策が困難になることから、深浦町では、箱ワナ及び銃器による有害鳥獣捕獲許可を町内全域に出し（国鳥獣保護区を除く）、ニホンジカの初動対策に取り組んでいる。

平成 28 年度に深浦町鳥獣被害防止対策協議会で ICT を活用した箱ワナ（高さ 130cm×横 100cm×奥行 201cm）を 2 台購入し設置し、捕獲活動を行っている。

低密度でのニホンジカ捕獲技術が確立していないことから、各種講習会等に参加するとともに、先進地研修を実施し、捕獲技術の習得及び専門家の育成に取り組んでいる。

青森県環境生活部自然保護課から自動撮影カメラ 7 台の貸与を受け、監視体制を強化している。

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名 東北地方環境事務所

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	新規	遺産地域	白神山地世界遺産地域におけるニホンジカの影響に対する保全対象等の明確化	〔目的〕白神世界遺産地域においてニホンジカの影響に対する保全対象や想定される影響に応じた対策の明確化 〔方法〕他地域の事例を含めた既存資料の収集、分析等を実施	東北地方環境事務所
2	継続	遺産地域 監視区域	咆哮の録音によるニホンジカ生息状況調査	〔目的〕白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの侵入・定着状況の把握 〔方法〕遺産地域及びその周辺域において、録音機を用いて繁殖期のシカの咆哮を録音する調査を実施	西目屋自然保護官事務所
3	継続	遺産地域 監視区域	自動撮影装置によるニホンジカ生息状況調査	〔目的〕白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるニホンジカの侵入・定着状況の把握 〔方法〕遺産地域及びその周辺域に自動撮影カメラを設置し、定点調査を実施	西目屋自然保護官事務所
4	新規	遺産地域 監視区域	GISを用いた越冬候補地の絞り込み	〔目的〕白神山地周辺におけるニホンジカの越冬候補地の把握。 〔方法〕植生や積雪深等の環境データをを用い、GIS解析によりニホンジカの越冬の可能性が高い箇所を推定	西目屋自然保護官事務所
5	新規	監視地域	越冬候補地における現地調査	〔目的〕ニホンジカの越冬の可能性がある地域における越冬状況の把握 〔方法〕越冬候補地について現地踏査を行い、糞や食痕等の調査を行う。また、必要に応じて自動撮影カメラを用いた調査を実施	西目屋自然保護官事務所
6	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域	目撃情報の集約	〔目的〕シカ対策検討の基礎データとして、青森県、秋田県、岩手県におけるシカ生息情報を集約 〔方法〕連絡会議において収集したシカ情報（日時、場所、成幼・雌雄の別、情報の根拠等）を統一フォーマットに整理し、GISで管理	西目屋自然保護官事務所

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	遺産地域 監視区域	平成31年度 白神山地・遺産 地域及び周辺地域における 中・大型哺乳類調査業務(定 点カメラによる哺乳類調査)	<p>〔目的〕 白神山地における哺乳類の生息状況の把握。特に、今後白神山地への分布域拡大の可能性も指摘されているニホンジカの侵入状況を把握するために監視体制の強化を図る。</p> <p>〔方法〕 遺産地域及び監視区域の国有林・民有林において、森林生態系保全センター職員が自動撮影カメラ78台（青森県側45台、秋田県側33台）を設置し、環境省等関係機関と連携・協力して、定点調査を行う。</p> <p>〔実施予定〕 実施期間は4月中旬～11月下旬まで実施予定。 *5月下旬、有識者（田口委員^{ほか}）によるニホンジカの痕跡調査をニツ森（八峰町）において実施予定。</p>	東北森林管理局 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター
2	継続	監視区域	ニホンジカ捕獲業務	<p>〔目的〕 白神山地世界遺産地域（緩衝地域）において、ニホンジカがセンサーカメラで撮影されるなどニホンジカの目撃情報が多くなっていることから、遺産地域内での定着を防止するため、関係機関と連携を図りながら捕獲の検証を行う。</p> <p>〔方法〕 捕獲時期を勘案し、餌が少くない時期に誘引餌を用いた小型囲いワナでの捕獲を実施。</p> <p>〔実施予定〕 昨年のセンサーカメラ調査での確認を踏まえて、深浦町及び八峰町で4月下旬から5月末及び、10月～12月末まで捕獲を実施予定。</p>	東北森林管理局 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター
3	継続	遺産地域 監視区域 周辺地域 (3県域)	「ニホンジカ影響調査・簡易 チェックシート」による調査	<p>〔目的〕 東北局管内（東北5県）の国有林において、ニホンジカの広域監視体制を確立し、情報収集を強化するため、ニホンジカの生息域の現状、季節間移動や分布拡大などの変化、林業被害と自然植生への影響を把握し、地域関係者等と連携した効果的な被害防止対策を講じるための基礎資料とする。</p> <p>〔方法〕 森林管理署及び森林生態系保全センターの職員が林野巡視の際にニホンジカの目撃や痕跡を発見した場合はチェックシートに記入し、調査結果を整理。 なお、国有林に入林する巡視員、請負事業体、猟友会等から目撃情報等を聞いた場合もチェックシートに記入する。 調査結果は年度毎に集計し、局ホームページで公表している。</p> <p>〔実施予定〕 調査時期は、消雪後から降雪時までとするが、冬期間の生息地等についても把握が必要なことから、降雪期についても調査に努める予定。</p>	東北森林管理局 ・津軽森林管理署 ・米代西部森林管理署 ・津軽白神森林生態系保全センター ・藤里森林生態系保全センター

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容(目的・方法・予算・実施状況など)	実施者
4	継続	周辺地域 (青森県)	シカ監視用自動撮影カメラ設置の協力(事業主体:青森県)	〔目的〕 青森県に生息するシカの分布及び生息状況を把握する(青森県実施要領)。 〔方法〕 シカが出現されると想定される地点への自動撮影カメラの設置及び月1回の撮影データ回収を行い、シカが撮影された場合は県に連絡する。 〔実施予定〕 県から依頼あった3署計9地点の国有林にカメラを設置して監視に協力予定。	東北森林管理局 ・津軽森林管理署 ・青森森林管理署 ・三八上北森林管理署
5	継続	周辺地域 (岩手県早池峰山)	平成31年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査	〔目的〕 岩手県中部に位置し、希少種の宝庫として名高い早池峰山周辺森林生態系保護地域において、ニホンジカによる剥皮被害や樹木の枝・葉に食痕が見られ、今後、森林の多面的機能の低下が懸念されている。 このことから、早池峰山周辺地域及び周辺の森林における、森林の生物多様性の保全や国土保全、水源涵養、木材生産機能等を確保するため、岩手県等と連携し、専門家等の意見を聞いた上でニホンジカの生息状況等の調査を実施する。 〔方法〕 自動撮影カメラによりニホンジカの出現状況等を把握するとともに、GPS首輪を装着して追跡調査を実施し、移動経路や越冬地等を把握する。 〔実施予定〕 6月～3月に実施予定	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署 ・盛岡森林管理署
6	継続	周辺地域 (岩手県早池峰山)	林道除雪による捕獲支援	〔目的〕 林道除雪を実施し、積雪期におけるニホンジカの捕獲支援を行う。 〔方法〕 関係機関と路線を選定し、捕獲のために国有林の林道除雪(2署)を実施する。 〔実施予定〕 1月～3月まで除雪を実施予定。 三陸北部署:2路線、遠野支署:7路線	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署
7	継続	周辺地域 (岩手県、宮城県)	鳥獣被害対策協議会等への積極的な参画による地域との連携	〔目的〕 地域情報を収集し、ニーズを把握した上で、共同した対策を検討する。 〔方法〕 ニホンジカ被害が多い地域の4(支)署において、現在計8の鳥獣被害対策協議会等(9市町村)へ参画。 〔実施予定〕 遠野支署においては有害鳥獣駆除協議会での要望、また三陸北部署においても地元猟友会の要望を踏まえ、国有林の林道除雪による捕獲支援を実施予定。	東北森林管理局 ・三陸中部森林管理署 ・岩手南部森林管理署 ・遠野支署 ・宮城北部森林管理署

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
8	継続	周辺地域 (岩手県、宮城県)	二ホンジカ被害防除事業(誘引捕獲)の実施	〔目的〕 市町村の鳥獣被害対策協議会等と連携し、森林への被害の軽減を図るため、効率的に二ホンジカの捕獲に取り組む。 〔方法〕 誘引餌を用いた囲いなどによる捕獲を実施。 〔実施予定〕 三陸北部署、三陸中部署、遠野支署及び宮城北部署の国有林で誘引捕獲を実施予定。	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・三陸中部森林管理署 ・遠野支署 ・宮城北部森林管理署
9	継続	周辺地域 (岩手県)	平成31年度シカによる森林被害緊急対策事業	〔目的〕 シカによる被害が深刻な地域において、民有林の関係者と連携し、広域的かつ効果的な捕獲等を実施する。 〔方法〕 シカによる被害が深刻な地域周辺の国有林を対象に、予備調査等により効果的な捕獲箇所を選定して捕獲を実施。 〔実施予定〕 囲いなどにより捕獲を実施予定。	東北森林管理局 ・遠野支署 ・盛岡森林管理署
10	継続	周辺地域 (岩手県)	早池峰山周辺森林生態系保護地域における簡易防鹿柵の試験的設置	〔目的〕 シカによる高山植生への被害が見られる岩手県早池峰山周辺森林生態系保護地域において、試験的に簡易な防鹿柵を設置し、被害拡大の防止や植生の回復を図る。 〔方法〕 シカによる被害が見られる箇所において、簡易な防鹿柵を設置する。 〔実施予定〕 前年度設置した4箇所(門馬握沢コースと河原の坊コース)の融雪後のネット上げ及び降雪前のネット下ろし。 既設置箇所の被害状況、柵の耐久性等の確認・検証を行い、岩手県・有識者・地元関係者等の意見も踏まえた防鹿柵の増設及び維持管理に係る体制の検討。	東北森林管理局 ・三陸北部森林管理署 ・遠野支署

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名 青森県

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	県内	ニホンジカ捕獲等事業	<p>【目的】 ニホンジカによる自然環境への影響や農業被害を防止する。</p> <p>【方法】 「青森県第二種特定鳥獣管理計画(第1次ニホンジカ)」に基づき、モニタリング調査や捕獲の推進、担い手の育成・確保等を実施する。</p>	自然保護課
2	継続	県内	ニホンジカ生息状況の把握	<p>① 自動撮影カメラの設置</p> <p>【目的】 県内各所に自動撮影カメラ(夜間撮影可)を設置し、ニホンジカの分布、侵入・移動経路を把握する。</p> <p>【方法】 県内市町村等に貸与し、カメラの設置及びデータ回収を行う。</p> <p>② 目撃情報の収集</p> <p>【目的】 ニホンジカの出没状況を把握するため、県民等から目撃情報の収集を行う。</p> <p>【方法】 ニホンジカの目撃情報提供体制を強化するため、情報提供を依頼するチラシを作成し関係機関等に配布するほか、県ホームページやラジオを活用して県民等へ目撃情報の提供を呼びかける。</p>	自然保護課
3	継続	県内	森林被害の把握	<p>【目的】 ニホンジカによる森林被害を把握する。</p> <p>【方法】 被害状況等を把握するため、森林組合等に情報提供を促すチラシを作成・配布し、森林被害に関する情報収集を行う。</p>	林政課
4	継続	県内	鳥獣被害防止実施体制の強化	<p>【目的】 実施隊員等の育成及び資質向上を図るとともに、ニホンジカなどの野生鳥獣による農業被害を防止するための市町村の活動を支援する。また、引き続き、近隣市町村の広域連携を推進し、効果的・効率的な被害防止対策を支援する。</p> <p>【方法】 ニホンジカ対策の先進地を視察する「ニホンジカ被害防止対策研修会」や広域連携による農作物被害防止対策の推進を図るための「地域連絡会議」を開催する。</p>	食の安全・安心推進課

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名：秋田県自然保護課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	監視地域 周辺地域	ニホンジカの生息調査	<p>〔目的〕 ニホンジカの目撃が多い地域に監視カメラを設置し、食害防止等の監視体制を整備する。</p> <p>〔方法〕 全県域に37台のセンサーカメラを設置し、ニホンジカの個体を撮影。（周辺地域は3～5台設置予定）</p>	自然保護課
2	継続	監視地域 周辺地域	指定管理鳥獣捕獲等事業	<p>〔目的〕 目撃情報が増加しているニホンジカについて、今後、農林業被害への被害が想定されることから、捕獲経験の乏しい従事者の技術向上を図るため試験捕獲を実施する。</p> <p>〔方法〕 白神山地域周辺の目撃頻度の高い地域を選定し、困いわなと銃猟による捕獲を実施。</p>	自然保護課
3	継続	監視地域 周辺地域	狩猟と野生鳥獣管理の普及啓発事業	<p>〔目的〕 若年層を対象に、狩猟に対するイメージの向上を図るため、狩猟やジビエ料理の魅力を発信する普及啓発イベント開催する。</p> <p>〔方法〕 狩猟の魅力まるわかリフォーラムの開催</p>	自然保護課
4	継続	監視地域 周辺地域	狩猟と野生鳥獣管理の普及啓発事業	<p>〔目的〕 狩猟免許新規取得者及び取得予定者を対象に、共同捕獲に関する室内講習や捕獲実習、捕獲した鳥獣の解体実習を行い、担い手の育成と捕獲従事者の確保を図る。</p> <p>〔方法〕 県内3地域で、担い手育成研修会を開催。</p>	自然保護課
5	継続	監視地域 周辺地域	ニホンジカ・イノシシ被害防止対策研修会（農林業被害対策）	<p>〔目的〕 ニホンジカの個体数の増加や農林業被害が確認される前に、ニホンジカの生態やその対処方法について学び、被害を最小限に抑えることを目的とした研修会を開催する。</p> <p>〔対象〕 県及び市町村農業担当職員、農業従事者、猟友会等</p>	水田総合利用課

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容 (目的・方法・予算・実施状況など)	実施者
6	継続	監視地域 周辺地域	狩猟免許等取得支援補助金	<p>〔目的〕 有害駆除に従事する人材を確保するため、第一種銃猟免許及び銃砲所持許可の新規取得者、散弾銃又はライフル銃の新規購入者に対し補助金を交付する。</p> <p>〔方法〕 ・狩猟免許等取得支援(上限5万円):50人 ・散弾銃購入支援(上限5万円):40人 ・ライフル銃購入支援(上限7万円):10人</p>	自然保護課
7	新規	監視地域 周辺地域	野生鳥獣管理共生ビジョン策定 事業	<p>〔目的〕 人と野生鳥獣との適切な関係を構築するため、学識経験者や関係機関等からなる協議会を設置し、中長期的な野生鳥獣管理共生ビジョンを構築する。</p> <p>〔協議内容〕 本県における野生鳥獣被害対策のあり方に関すること、ビジョンの策定に関すること、組織・人材に関することなど。</p>	自然保護課
8	新規	監視地域 周辺地域	野生鳥獣被害防止対策レベル アップ研修事業(野生動物物管理 対策)	<p>〔目的〕 これまで県内での生息が確認されていないニホンジカ・イノシシの侵入に伴い、農林業被害の増加が懸念されることから、県内市町村、JA、猟友会、自治会等、関係機関が一堂に会じた情報共有の機会を創るとともに、鳥獣管理の正しい知識・技術を持った人材の育成を目的とした研修会を開催する。</p>	自然保護課
9	新規	監視地域 周辺地域	野生生物生態講座	<p>〔目的〕 野生生物による人身被害や農林業被害を未然に防止するため、小中学校の総合学習や自治会等の会合、各種イベント等で講師を派遣する講座を開催する。</p> <p>〔方法〕 県内小中学校、自治会、企業等、全県20箇所程度で、野生動物の生態と被害防止対策講座を開催。</p>	自然保護課

平成31年度ニホンジカ対策事業実施報告（機関別）

機関名 西目屋村

新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
継続	遺産地域 監視区域	シカ監視用自動撮影カメラ管理 の協力（事業主体：西目屋自然 保護官事務所）	〔目的〕 白神山世界遺産地域におけるニホンジカの生息状況を把握する。 〔方法〕 自動撮影カメラによる定点調査のため、定期的に撮影データの回収を行い、西目屋自然保護官 事務所へ提出。 〔実施予定〕 「世界遺産の径 プナ林散策道」上に設置予定。	西目屋村
継続	周辺地域 （西目屋村）	シカ監視用自動撮影カメラ設置 及び管理の協力（事業主体：青 森県）	〔目的〕 青森県に生息するニホンジカの分布及び生息状況を把握すること（青森県実施要領）。 〔方法〕 シカが出現されると想定される地点へ自動撮影カメラを設置し、月1回の撮影データ回収を行う。 シカが撮影された場合は迅速に報告する。 〔実施予定〕 村で選定した6地点の民有林にカメラを設置し、データ回収を行う。	西目屋村
継続	周辺地域 （西目屋村）	シカ等監視用自動撮影カメラ設 置（事業主体：西目屋村）	〔目的〕 西目屋村に生息するニホンジカを始めとした鳥獣の分布及び生息状況を把握すること 〔方法〕 村内林道及び圃地周辺へ自動撮影カメラを設置し、月1回の撮影データ回収を行う。 ニホンジカが撮影された場合は報告する。 〔実施予定〕 村で所有している5台を選定した民有林に設置し、データ回収を行う。	西目屋村
継続	周辺地域 （西目屋村）	捕獲体制の整備	〔目的〕 村内でのニホンジカ個体数の増加を抑制する。 〔方法〕 ニホンジカの有害捕獲を通年許可とする。 〔実施予定〕 昨年度に引き続き、ニホンジカの通年有害捕獲許可を出し、捕獲体制を整備するとともに、実施 隊へ目撃時は迅速に捕獲するよう指導した。 また、村内住民へ回覧により目撃情報を求める。	西目屋村 西目屋村猟友会

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名 鱒ヶ沢町

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	白神山地 周辺地域 (鱒ヶ沢町)	動物相調査に係る自動撮影カメラの設置及び管理の協力 (事業主体:西目屋自然保護官事務所)	<p>【目的】 白神山地世界遺産地域及び周辺地域における哺乳類の生息状況の把握と、ニホンジカやアライグマ等の侵入状況を把握する。</p> <p>【方法】 自動撮影カメラによる定点調査を実施。定期的にデータを回収し、西目屋自然保護官事務所に提出する。</p> <p>【実施予定】 白神の森遊山道(5月～11月) 赤石溪流・くろくまの滝歩道(6月～11月)</p>	鱒ヶ沢町

平成31年度ニホンジカ対策事業計画（機関別）

機関名：深浦町

番号	新規/継続	実施地域	事業名	事業内容（目的・方法・予算・実施状況など）	実施者
1	継続	深浦町	平成31年度鳥獣被害防止総合対策事業（平成31年度青森県鳥獣被害防止対策事業） ※項目としては「ICT等新技術実証」	<p>【目的】ニホンジカの目撃情報が急増していることから、農作物被害防止及び森林生態系保護のため、ニホンジカ捕獲体制の強化を図る。</p> <p>【方法】鉄製の箱ワナ2基を、目撃情報が多い地域に設置。また、ICTを活用し、錯誤捕獲対策を講じる。</p> <p>【実施時期】4月から実施する。</p>	深浦町 （農林水産課）

白神山地世界遺産地域ニホンジカ対策方針（骨子）

（平成 28 年 2 月 8 日変更）

白神山地世界遺産地域連絡会議

1. 背景と目的

- ・ 全国的にニホンジカ（以下、「シカ」という。）の生息数が増え、北東北においても岩手県から青森県・秋田県へと生息域を拡大しており、青森・秋田・岩手 3 県で広域的に対応する必要がある。
- ・ 白神山地世界遺産地域（以下、「遺産地域」という。）内でシカが確認されるとともに、遺産地域周辺での目撃事例が増加しており、監視を強化する必要がある。
- ・ 今後、遺産地域にシカの生息域が拡大した際には、他地域の事例に鑑みると、遺産地域の顕著で普遍的な価値を損なうおそれがある。
- ・ 白神山地世界遺産地域科学委員会（以下、科学委員会）にて、遺産地域にシカが入ってきた際の対応を早い段階から議論していく必要性が示された。
- ・ 将来的にシカの生息域が遺産地域へ拡大した際、その動向と影響を早期に把握し、影響低減策を速やかに実施できる体制を整える。
- ・ 関係機関が連携し、共通認識のもとにシカ対策の準備を進め、遺産地域の顕著で普遍的な価値の保全を図る。

2. 基本的な考え方

- ・ 遺産地域の顕著で普遍的な価値が損なわれることなく森林生態系を健全な状態で維持することを目標として、予防的な観点から、遺産地域内において監視体制を整備するとともに、遺産地域外も含めた広域的な対応の中で対策を実施していく。
- ・ 遺産地域の急峻な地形や自然状況等から、遺産地域において低密度の状態であるシカを捕獲することは、限られた予算と労力を有効に活用する観点から効果的・効率的な対策とは考えられず、特に遺産地域外での対策を強化することが重要。

3. 対象区域

- ・ 遺産地域を含む又は接する市町村区域（青森県西目屋村、鱒ヶ沢町、深浦町、秋田県八峰町、能代市、藤里町）を本方針の主な対象区域とする。
- ・ その内、「遺産地域」を除く地域を「監視区域」とする。
- ・ 遺産地域及び監視区域を除く「青森・秋田県域」、隣接する「岩手県域」を周辺地域とする。

4. 実施内容

(1) 遺産地域における取組み

1) シカ生息状況の把握

- ・ 自動撮影カメラを設置し、生息状況を監視する。なお、メス個体が撮影された場合は、個体の定着状況や周辺植生の変化状況等を調査することを検討する
- ・ 巡視員、鳥獣保護管理員、関係機関の職員等による情報を収集する
- ・ ガイドや入山者、地域住民からの目撃情報を収集する
- ・ チェックシートを用いた調査を行い、生息状況等を把握する
- ・ 収集された目撃情報は、白神山地世界遺産センター（西目屋館）において集約する

2) 植生に関するモニタリングの実施

- ・ 既存の植生調査を基本として、将来的にシカの分布が遺産地域内に拡大してきた際の影響を把握するため、植生の基礎的な情報を収集する

3) 捕獲体制の構築

- ・ シカの専門家による講習会を開催し、巡視員、行政職員等のシカ対策に係る知識・技術の向上を図る
- ・ シカが定着した場合に備えるために、遺産地域内での捕獲手法、体制等を検討する

(2) 監視区域における取組み

1) シカ生息状況の把握

- ・ 自動撮影カメラを設置し、生息状況を監視する
- ・ 巡視員、鳥獣保護管理員、関係機関の職員等による情報を収集する
- ・ ガイドや入山者、地域住民からの目撃情報を収集する
- ・ チェックシートを用いた調査を行い、生息状況等を把握する
- ・ 収集された目撃情報は、白神山地世界遺産センター（西目屋館）において集約する

2) 普及啓発

- ・ シカの生態やシカによる生態系への影響等について、インターネットやパンフレット、シンポジウムの開催等を通じて地域住民等に普及啓発を進め、シカ対策への理解と協力を働きかける

3) 捕獲体制の構築

- ・ シカが定着した場合に備えるために、監視区域内での捕獲手法、体制等を検討する

(3) 周辺地域における取組みとの連携

1) 青森県域

- ・平成 29 年度に「第二種特定鳥獣管理計画」を策定する【捕獲体制の強化】
- ・シカの適正な管理及び被害防止対策等に関する検討を行うためニホンジカ管理対策検討科学委員会を開催する【捕獲体制の強化】
- ・シカの狩猟及び将来的に実施を予定しているシカ捕獲事業を効果的に実施するための狩猟技術向上研修や鳥獣被害対策実施隊を対象とする実技実習及び予察捕獲モデル事業を行う【捕獲体制の強化】
- ・狩猟体感バスツアー及び狩猟免許試験日の増設により、新規狩猟者の増大を図る【捕獲体制の強化】
- ・シカ生息状況及び侵入・移動ルートを調査するため、センサーカメラの増設や生息状況モニタリングを実施する【シカ生息状況の把握】
- ・県民（行政職員、猟友会等を含む）を対象として、目撃情報及び農林業被害情報を収集する【シカ生息状況の把握】
- ・PR イベントの実施及び各種メディアによるシカに関する基礎知識、被害に関する危機意識の普及啓発を図る【普及啓発】

2) 秋田県域

- ・シカの生息状況、農林業被害発生状況等を調査し、平成 29 年度までに「第二種特定鳥獣管理計画」を策定する【捕獲体制の強化】
- ・シカの管理対策方針について検討するためのニホンジカ管理対策検討会を開催する【捕獲体制の強化】
- ・「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」を開催し、若い狩猟者の確保を図るための普及啓発を実施する【捕獲体制の強化】
- ・地域における有害鳥獣駆除の後継者を育成するため、狩猟経験の初心者を対象として講習会（座学・実技）を開催する【捕獲体制の強化】
- ・これまでにニホンジカが目撃情報があった県内 13 市町村 42 地区において、密度調査（目撃調査、糞塊調査、足跡調査等）を実施する【シカ生息状況の把握】
- ・自然公園や繁殖の可能性の高い地区に監視カメラを設置し、重点監視体制を整備する【シカ生息状況の把握】
- ・県民（行政職員、猟友会等を含む）を対象として、目撃情報及び農林被害情報を収集する【シカ生息状況の把握】
- ・シカの生態等の基礎知識や、被害対策に関する研修会を開催する【普及啓発】

3) 岩手県域（シカに限らない鳥獣共通での対策を含む）

- 目撃及び被害情報の共有【シカ生息状況の把握】
- 県内担当部署との密接な情報交換の実施【捕獲体制の強化】
- シカ捕獲対策の強化【捕獲体制の強化】
 - <平成28年度捕獲目標（狩猟＋有害捕獲＋個体数調整）：1万頭以上>
 - ・捕獲による生息数管理
 - ・早池峰山周辺地域におけるシカ監視員設置
 - ・捕獲効果の高い春期に、市町村有害捕獲を集中的に実施するためのニホンジカ有害捕獲強化期間を設定
 - ・被害防止計画に基づく有害捕獲活動への支援
- 生息状況調査による捕獲対策の効果検証【シカ生息状況の把握】
- 地域ぐるみの対策の強化【捕獲体制の強化】
 - ・市町村や関係機関との被害状況の共有や被害防止対策を検討するための岩手県鳥獣被害防止対策連絡会等を運営
 - ・重点地域を選定し、地域ぐるみの捕獲体制整備を支援
- 市町村被害防止計画に基づく取組の推進【捕獲体制の強化】
 - ・市町村協議会等による被害防止活動やわな導入、侵入防止柵設置等にかかる経費を補助
 - ・シカ電気柵等整備に要する経費を補助
- 被害防止対策を指導する人材の育成【捕獲体制の強化】
 - ・地域ぐるみの被害防止活動を推進する指導者育成研修の開催
 - ・侵入防止柵の現地技術実証
- 農業者等に対する免許取得促進・定着【捕獲体制の強化】
 - ・狩猟免許試験及び予備講習会の開催
 - ・農業者への免許取得周知
 - ・新規狩猟者の確保・定着を図るための各種研修会、普及啓発活動
 - ・若手狩猟者による狩猟の普及啓発活動

※青森・秋田・岩手の3県で、定期的な検討会を実施

4) 国有林

- ・東北森林管理局職員による局管内全域（東北5県内）におけるシカの影響把握に係るチェックシートを用いた調査の実施【シカ生息状況の把握】
- ・早池峰山周辺地域のシカ生息状況等調査【シカ生息状況の把握】
- ・林道除雪による捕獲支援【捕獲体制の強化】
- ・東北森林管理局職員の鳥獣被害対策及び狩猟に関する知識・技術向上のための講習会の開催【捕獲体制の強化】
- ・森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業への取組【捕獲体制の強化】

- ・ 被害防止対策協議会への積極的な参画による地域情報の収集、国有林の生息・被害情報の提供及び地域ニーズの把握、地域と共同した対策への取組【捕獲体制の強化】
- ・ 捕獲事業委託の実施【捕獲体制の強化】

5. 実施体制

- ・ 地域連絡会議（構成機関・オブザーバー機関）を中心に、科学委員会の助言を得ながら実施する。
- ・ 各行政機関はシカ対策に関係する部局間で情報共有を密にし、連携を図りながら取り組みを進める。
- ・ 大学や研究機関等における取り組みとの連携を図る。

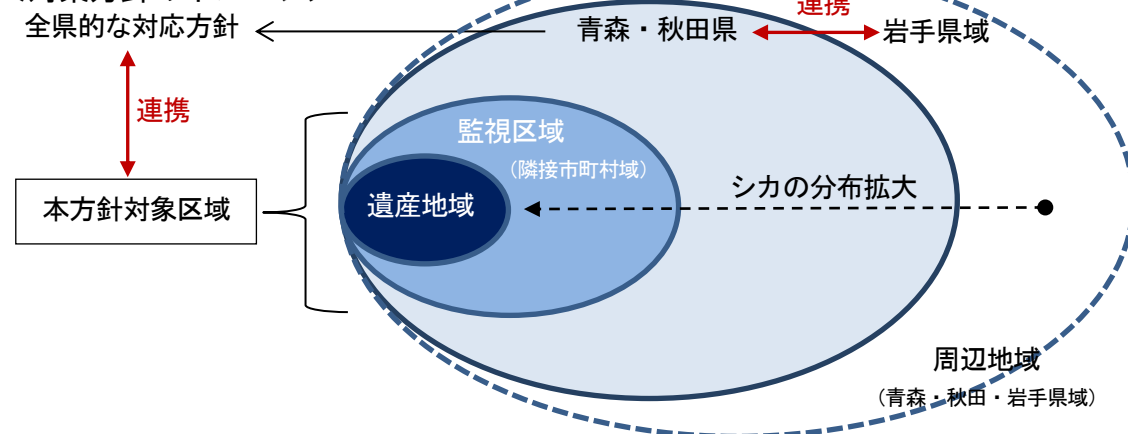
<役割分担>

対応	主担当	副担当
遺産地域内における対応の事務局	東北地方環境事務所	東北森林管理局
遺産地域外における対応の事務局	青森県自然保護課 秋田県自然保護課	市町村 ※岩手県とも連携

6. その他

- ・ 対策方針は必要に応じて見直し、シカの分布状況にあわせて実施内容を検討していく。

<対策方針のイメージ>



白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：東北地方環境事務所

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	①2者との請負契約(計148人日)、鳥獣保護区管理員2名(青森県29人日、秋田県22人日)及び職員による巡視を実施。 ②赤外線センサーによる入山者数カウンタを世界遺産地域及び周辺利用地点の主要登山道の入り口に設置。5月から11月まで入山者数を計測。全体では約7%減の24,296人となった。(詳細はカルテ参照)	西目屋自然保護官事務所	
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3		緩衝地域(周辺部を含む)の利便促進			
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>①合同パトロールによる遺産地域の踏査（青森、秋田 各/年2回）</p> <p>②職員、グリーンサポータースタッフ（津軽署：6名・延べ307人、米代西部署：3名・延べ162人）、白神山地世界遺産地域巡視員（青森県側30名・延べ212人、秋田県側25名・延べ133人）による巡視。</p> <p>③遺産地域における樹木損傷等の発見月日、場所、被害内容について集計（平成20年度より継続）。マナー違反は平成26年度より集計。</p> <p>④「許可」又は「届出」により青森側核心地域へ入山した件数及び入山者数の年度別推移を把握（平成8年度より継続）。</p> <p>⑤「白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査」において、青森側の遺産地域等16箇所においてのセンサーカメラを設置し、入り込み状況や動物等を画像で記録（平成17年度より継続）。</p>	<p>東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター</p>	
2		遺産地域に精通した人材の育成	実績なし。		
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>①ニツ森登山道及び山頂部付近（緩衝地域）の刈払い整備 H26～29年度の整備結果を踏まえ、現状維持のための刈払いを平成30年9月12日関係機関等からの参加者16名で実施した。</p>	遺産地域連絡会議	
4		核心地域における入山の取扱いの検討	実績なし。		

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID																																																																																																																																																																																																																															
報告書名称 /調査名称	平成30年度 巡視員・職員等による巡視			発行年月/報告年月																																																																																																																																																																																																																															
				2019年	2月																																																																																																																																																																																																																														
				資料形式 ^{注2)}	その他																																																																																																																																																																																																																														
調査機関	環境省、林野庁、青森県、秋田県		委託機関 白神山世界遺産地域巡視員等																																																																																																																																																																																																																																
調査開始年	2010年	調査期間	2018年	4月	～	2018年	11月																																																																																																																																																																																																																												
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	春	秋																																																																																																																																																																																																																															
エリアの計画	策定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(3)																																																																																																																																																																																																																												
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法																																																																																																																																																																																																																															
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり				関係行政機関は、遺産地域の管理の一環として、遺産地域における違法行為の防止と入山者のマナー向上を促進するため、職員による巡視、各機関の委託による巡視、白神山世界遺産地域巡視員等による巡視活動を実施。 巡視活動の実施にあたっては、「白神山世界遺産地域巡視マニュアル」を活用し、関係団体や地域住民の参加・協力を得て効果的に実施。 各機関からの巡視結果に基づく違法行為等の報告については、以下の結果概要・備考のとおり。 樹木損傷等は、記録のある平成20年度から、マナー違反等は平成26年度からの一覧表を添付。																																																																																																																																																																																																																															
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>				 <p>(6月30日、白神岳山頂)</p>																																																																																																																																																																																																																															
<h3>年度別巡視状況</h3> <p>一人当たりの年間巡視日数別人数及び平均巡視日数 (単位：人) 秋田県側</p>																																																																																																																																																																																																																																			
<p>青森県側</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0日</th> <th>1～5日</th> <th>6～10日</th> <th>11～15日</th> <th>16～20日</th> <th>21～24日</th> <th>25日以上</th> <th>計</th> <th>一人当たりの年間平均巡視日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>8</td><td>2</td><td>5</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>23</td><td>8.6</td></tr> <tr><td>H22</td><td>9</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>27</td><td>7.1</td></tr> <tr><td>H23</td><td>1</td><td>10</td><td>4</td><td>7</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>27</td><td>6.5</td></tr> <tr><td>H24</td><td>2</td><td>5</td><td>13</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>25</td><td>7.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>2</td><td>11</td><td>7</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>29</td><td>7.3</td></tr> <tr><td>H26</td><td>2</td><td>8</td><td>10</td><td>6</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>30</td><td>7.4</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td><td>10</td><td>12</td><td>5</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>30</td><td>5.8</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2</td><td>12</td><td>10</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>30</td><td>6.9</td></tr> <tr><td>H29</td><td>8</td><td>10</td><td>6</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>29</td><td>5.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>4</td><td>12</td><td>7</td><td>5</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>30</td><td>7.1</td></tr> </tbody> </table>					0日	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～24日	25日以上	計	一人当たりの年間平均巡視日数	H21	8	2	5	4	1	2	1	23	8.6	H22	9	5	5	5	1	1	0	27	7.1	H23	1	10	4	7	2	3	0	27	6.5	H24	2	5	13	2	3	0	0	25	7.2	H25	2	11	7	6	2	1	0	29	7.3	H26	2	8	10	6	3	0	1	30	7.4	H27	0	10	12	5	1	1	1	30	5.8	H28	2	12	10	2	1	2	1	30	6.9	H29	8	10	6	3	0	1	1	29	5.9	H30	4	12	7	5	1	0	1	30	7.1	<p>秋田県側</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0日</th> <th>1～4日</th> <th>5～9日</th> <th>10～14日</th> <th>15～19日</th> <th>20～24日</th> <th>25日以上</th> <th>計</th> <th>一人当たりの年間平均巡視日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>4</td><td>13</td><td>12</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>33</td><td>4.7</td></tr> <tr><td>H22</td><td>6</td><td>14</td><td>5</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>32</td><td>4.8</td></tr> <tr><td>H23</td><td>3</td><td>11</td><td>10</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>29</td><td>5.5</td></tr> <tr><td>H24</td><td>5</td><td>10</td><td>9</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>28</td><td>5.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>4</td><td>11</td><td>8</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>27</td><td>4.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>7</td><td>11</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>27</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>H27</td><td>4</td><td>9</td><td>13</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>28</td><td>4.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>10</td><td>6</td><td>10</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>28</td><td>4.4</td></tr> <tr><td>H29</td><td>5</td><td>9</td><td>8</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>27</td><td>4.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>5</td><td>9</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>25</td><td>5.3</td></tr> </tbody> </table>					0日	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～24日	25日以上	計	一人当たりの年間平均巡視日数	H21	4	13	12	3	1	0	0	33	4.7	H22	6	14	5	7	0	0	0	32	4.8	H23	3	11	10	3	1	1	0	29	5.5	H24	5	10	9	2	2	0	0	28	5.0	H25	4	11	8	2	1	1	0	27	4.9	H26	7	11	5	3	0	1	0	27	4.2	H27	4	9	13	2	0	0	0	28	4.3	H28	10	6	10	1	1	0	0	28	4.4	H29	5	9	8	5	0	0	0	27	4.8	H30	5	9	10	0	0	0	1	25	5.3
	0日	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～24日	25日以上	計	一人当たりの年間平均巡視日数																																																																																																																																																																																																																										
H21	8	2	5	4	1	2	1	23	8.6																																																																																																																																																																																																																										
H22	9	5	5	5	1	1	0	27	7.1																																																																																																																																																																																																																										
H23	1	10	4	7	2	3	0	27	6.5																																																																																																																																																																																																																										
H24	2	5	13	2	3	0	0	25	7.2																																																																																																																																																																																																																										
H25	2	11	7	6	2	1	0	29	7.3																																																																																																																																																																																																																										
H26	2	8	10	6	3	0	1	30	7.4																																																																																																																																																																																																																										
H27	0	10	12	5	1	1	1	30	5.8																																																																																																																																																																																																																										
H28	2	12	10	2	1	2	1	30	6.9																																																																																																																																																																																																																										
H29	8	10	6	3	0	1	1	29	5.9																																																																																																																																																																																																																										
H30	4	12	7	5	1	0	1	30	7.1																																																																																																																																																																																																																										
	0日	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～24日	25日以上	計	一人当たりの年間平均巡視日数																																																																																																																																																																																																																										
H21	4	13	12	3	1	0	0	33	4.7																																																																																																																																																																																																																										
H22	6	14	5	7	0	0	0	32	4.8																																																																																																																																																																																																																										
H23	3	11	10	3	1	1	0	29	5.5																																																																																																																																																																																																																										
H24	5	10	9	2	2	0	0	28	5.0																																																																																																																																																																																																																										
H25	4	11	8	2	1	1	0	27	4.9																																																																																																																																																																																																																										
H26	7	11	5	3	0	1	0	27	4.2																																																																																																																																																																																																																										
H27	4	9	13	2	0	0	0	28	4.3																																																																																																																																																																																																																										
H28	10	6	10	1	1	0	0	28	4.4																																																																																																																																																																																																																										
H29	5	9	8	5	0	0	0	27	4.8																																																																																																																																																																																																																										
H30	5	9	10	0	0	0	1	25	5.3																																																																																																																																																																																																																										
<h3>青森県側 核心地域への入山許可状況</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目的</th> <th colspan="4">青森県側</th> <th colspan="4">秋田県側</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>平均</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取材</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0.3</td> <td>2</td> <td>6</td> <td></td> <td>1</td> <td>5</td> <td></td> <td>0.5</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>学術研究</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>3.7</td> <td>3</td> <td>27</td> <td>2</td> <td>18</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>6</td> <td>18</td> <td>4.2</td> <td>17.8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>38</td> <td>2</td> <td>50</td> <td>4</td> <td>39</td> <td>2.0</td> <td>21.2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>6.3</td> <td>5</td> <td>33</td> <td>2</td> <td>18</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>56</td> <td>10</td> <td>72</td> <td>10</td> <td>57</td> <td>6.7</td> <td>40.8</td> </tr> </tbody> </table>								目的	青森県側				秋田県側				平均	H28年度	H29年度	H30年度	平均	H25	H26	H27	H28	H29	H30	取材	0	0	1	0.3	2	6		1	5		0.5	1.8	学術研究	4	5	2	3.7	3	27	2	18	2	9	4	13	8	22	6	18	4.2	17.8	その他	2	3	2	2.3							6	38	2	50	4	39	2.0	21.2	計	6	8	5	6.3	5	33	2	18	2	9	11	56	10	72	10	57	6.7	40.8																																																																																																																																		
目的	青森県側				秋田県側				平均																																																																																																																																																																																																																										
	H28年度	H29年度	H30年度	平均	H25	H26	H27	H28		H29	H30																																																																																																																																																																																																																								
取材	0	0	1	0.3	2	6		1	5		0.5	1.8																																																																																																																																																																																																																							
学術研究	4	5	2	3.7	3	27	2	18	2	9	4	13	8	22	6	18	4.2	17.8																																																																																																																																																																																																																	
その他	2	3	2	2.3							6	38	2	50	4	39	2.0	21.2																																																																																																																																																																																																																	
計	6	8	5	6.3	5	33	2	18	2	9	11	56	10	72	10	57	6.7	40.8																																																																																																																																																																																																																	
問い合わせ	林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号 TEL：018-836-2489 FAX：018-836-2203 ≪「原本(データ)」の帰属について≫																																																																																																																																																																																																																																		

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

平成30年度白神山地世界遺産地域における樹木伐採等の確認状況

白神山地世界遺産地域連絡会議

【違法伐採・立木の損傷】

確認時期	場所	状況
7月24日	①大川 (緩衝地域)	サワグルミ(切断部径20cm、1本) その他広(切断部径2cm、1本) ※ 東北森林管理局委嘱巡視員が発見。

【マナー違反】

確認時期	場所	状況
7月28日	①大川 (緩衝地域)	たき火跡(2箇所)及びゴミ(アルミたわし1個) ※ 合同パトロール時発見。 アルミたわしはゴミとして回収済み。
7月28日	②追良瀬川 (緩衝地域)	たき火跡 ※ 合同パトロール時発見。

【違法伐採・立木の損傷、マナー違反位置図】



① 違法伐採(大川)



① たき火跡(大川)



② たき火跡(追良瀬)



備考

白神山地世界自然遺産地域の樹木損傷等の状況（平成20～30年度）

年度	回数	発見月日	場所	被害内容
H20	1	平成20年9月6日	青森県側 大川流域ほか 3箇所	ブナ25本、コシアブラ1本、ブナ1本
	2	平成20年10月16日	青森県側 暗門川流域 1箇所	ハッコヤナギ1本、ヤマモミジ2本
	3	平成20年11月11日	青森県側 追良瀬川流域 1箇所	サワグルミ1本、シナギ1本
H21	1	平成21年9月8日	青森県側 赤石川流域 1箇所	リウウ3本、イタヤカエデ1本、オオカミノキ1本
	2	平成21年9月12日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ3本
	3	平成21年9月25日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ1本
	4	平成21年10月5日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ1本
H22	1	平成22年9月10日	青森県側 赤石川流域 1箇所	イタヤカエデ1本
	2	平成22年9月10日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ハウチカエデ2本、オオカミノキ1本
	3	平成22年9月10日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ミズギ1本、オオカミノキ1本、ホオノキ1本
	4	平成22年9月24日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ4本、カロモジ2本
	5	平成22年10月23日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ2本、ウツクスガク1本、ミズギ1本
H23	1	平成23年6月25～27日	青森県側 赤石川流域 1箇所	サワグルミ2本
	2	平成23年9月16日	青森県側 赤石川流域 1箇所	サワグルミ4本、リウウギ1本、ヤマウルシ1本、マルバマンサク3本
	3	平成23年9月25～27日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ブナ1本
	4	平成23年10月5日	青森県側 暗門川流域 1箇所	アオダモ1本、キツシ1本
	5	平成23年11月1日	秋田県側 二ツ森山頂付近 1箇所	ミネザクラ3本
H24	1	平成24年6月15日	青森県側 赤石川流域 1箇所	ヤマモミジ1本、サワグルミ1本
	2	平成24年6月29日	秋田県側 二ツ森登山道沿い 1箇所	ブナ等広葉樹39本
	3	平成24年9月7日	青森県側 赤石川流域 1箇所	イタヤカエデ等広葉樹2本
	4	平成24年10月22日	青森県側 暗門川流域 1箇所	サワグルミ等広葉樹3本
H25	1	平成25年9月22日	青森県側 暗門川流域 1箇所	シナギ等広葉樹14本
	2	平成25年9月24日	青森県側 追良瀬川流域 1箇所	カエデ類1本
	3	平成25年10月4日	青森県側 赤石川流域 1箇所	カエデ類1本
	4	平成25年10月25日	青森県側 暗門横倉沢流域 4箇所	サワグルミ等広葉樹23本
H26	1	平成26年6月9日	青森県側 暗門川流域 1箇所	コシアブラ2本
	2	平成26年7月21日	青森県側 太夫峰山頂 1箇所	ダケカンパノ 枝3本
	3	平成26年9月30日	青森県側 暗門川流域 1箇所	トチノキ1本
H27		被害確認なし		
H28	1	平成28年7月5日	青森県側 暗門沢流域 1箇所	広葉樹1本
	2	平成28年8月19日	青森県側 赤石川流域 1箇所	イタヤカエデ1本、ヤナギ1本
	3	平成28年9月15日	青森県側 暗門 横倉沢流域 1箇所	広葉樹6本
	4	平成28年9月26日	秋田県側 柏毛川流域 1箇所	広葉樹3本
	5	平成28年9月26日	青森県側 赤石川流域 1箇所	広葉樹1本
	6	平成28年9月30日	青森県側 暗門妙師崎沢流域 1箇所	イタヤカエデ 枝3本
	7	平成28年10月2日	青森県側 赤石川流域 1箇所	広葉樹1本
	8	平成28年10月11日	青森県側 暗門沢流域 1箇所	広葉樹4本
H29	1	平成29年7月13～15日	青森県側 礪石歩道脇 1箇所	アズキナシ1本
H30	1	平成30年7月24日	青森県側 大川流域 1箇所	サワグルミ等広葉樹2本

注：平成20年度以前は集計無し。被害内容には、幹が切られたもの、枝が切られたものを含む。

備考

白神山地世界自然遺産地域のマナー違反等の状況（平成26～30年度）

年度	回数	発見月日	場 所	違反内容
H26	1	平成26年8月24日	青森県側 暗門西股沢	たき火跡
	2	平成26年8月29日	青森県側 大川上流	たき火跡
	3	平成26年10月2日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
	4	平成26年10月3日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
H27	1	平成27年8月16日	青森県側 追良瀬川	たき火跡
	2	平成27年8月20日	青森県側 暗門西股沢	ごみ(釣り糸)
	3	平成27年9月28日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
	4	平成27年9月29日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
H28	1	平成28年6月16日	青森県側 横倉沢	ごみ(古い葉きょう)
	2	平成28年7月26日	青森県側 追良瀬川	禁漁区での遊漁
	3	平成28年8月3日	青森県側 暗門妙師崎沢	たき火、ごみ(ブルーシート)
	4	平成28年8月18日	青森県側 笹内川	たき火跡
	5	平成28年8月20日	青森県側 追良瀬川	禁漁区での遊漁
	6	平成28年8月20日	青森県側 追良瀬川	たき火跡
	7	平成28年8月20日	青森県側 追良瀬川	たき火跡
	8	平成28年9月15日	青森県側 横倉沢	ごみ(ロープほか)
	9	平成28年9月26日	秋田県側 粕毛川	たき火、ごみ(野営用具)
	10	平成28年9月26日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
	11	平成28年10月2日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
	12	平成28年10月11日	青森県側 大川	たき火跡
H29	1	平成29年8月31日	青森県側 赤石川上流	たき火跡、ごみ(ブルーシート)
	2	平成29年9月4～5日	青森県側 追良瀬川	たき火跡
	3	平成29年9月26～28日	青森県側 赤石川上流	たき火跡
H30	1	平成30年7月28日	青森県側 大川	たき火跡、ごみ(アルミたわし)
	2	平成30年7月28日	青森県側 追良瀬川	たき火跡

注：平成26年度以前は集計無し。

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地世界遺産地域周辺地域 合同パトロール			発行年月/報告年月 2019年 2月
調査機関	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター	委託機関	資料形式 ^{注2)} ー	
調査開始年	2018年 7月	調査期間	2018年 8月	
調査頻度 ^{注2)}	毎年 ー ー	調査時期 ^{注2)}	夏	
エリア割 計画	策定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区区分 ^{注2)} 1 小区区分 ^{注2)} (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}		調査手法		
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり		■目的 ○白神山地世界遺産地域内で禁止されている立木の伐採・損傷、植物の採取、ゴミの投棄、焚火、標識類の状況等の確認 ○入山者に対するマナーや入山手続き等の普及啓発 ■実施日及び箇所(図1) ○第1回:平成30年7月28日(土) ・パトロール ①大川②ブナ林散策道 ③クマゲラの森 ④追良瀬川 ⑤白神岳 ・マナーパンフレット配布 ①ブナ林散策道入口 ②白神岳登山口駐車場 ○第2回:平成30年8月28日(火) ・パトロール ①ブナ林散策道 ②高倉森 ③天狗岳 ④笹内川 ⑤白神岳 ・マナーパンフレット配布 ①ブナ林散策道入口 ②白神岳登山口駐車場		
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>		 <p>第2回 ブナ林散策道入</p>		
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)				
○第1回 7月28日(土)に5コース(大川、ブナ林散策道、クマゲラの森、追良瀬川、白神岳)で実施し、42名が参加しました。 このパトロールで無断伐採の違法行為が1件、たき火などのマナー違反が2件確認されました。 暗門のブナ林散策道入口及び白神岳登山口で実施したマナーパンフレットの配布では、約160名の来訪者にマナー向上の取組について広くPRすることが出来ました。				
○第2回 8月28日(火)に5コース(ブナ林散策道、高倉森、天狗岳、笹内川、白神岳)で実施し、37名が参加しました。 このパトロールで無断伐採等の違法行為やたき火などのマナー違反は見つかりませんでした。 暗門のブナ林散策道入口及び白神岳登山口駐車場で実施したマナーパンフレットの配布では、観光の方など約100名にマナー向上の取組について広くPRすることが出来ました。				
問い合わせ	東北森林管理局 津軽白神森林生態系保全センター 〒038-2754 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字米町25-2 TEL: 0173-72-2931 FAX: 0173-72-2932 ≪原本(データ)の帰属について≫			

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

第1回実施箇所位置図



【実施状況写真】



大川



クマガラの森



白神岳登山

第2回実施箇所位置図



【実施状況写真】



高倉森

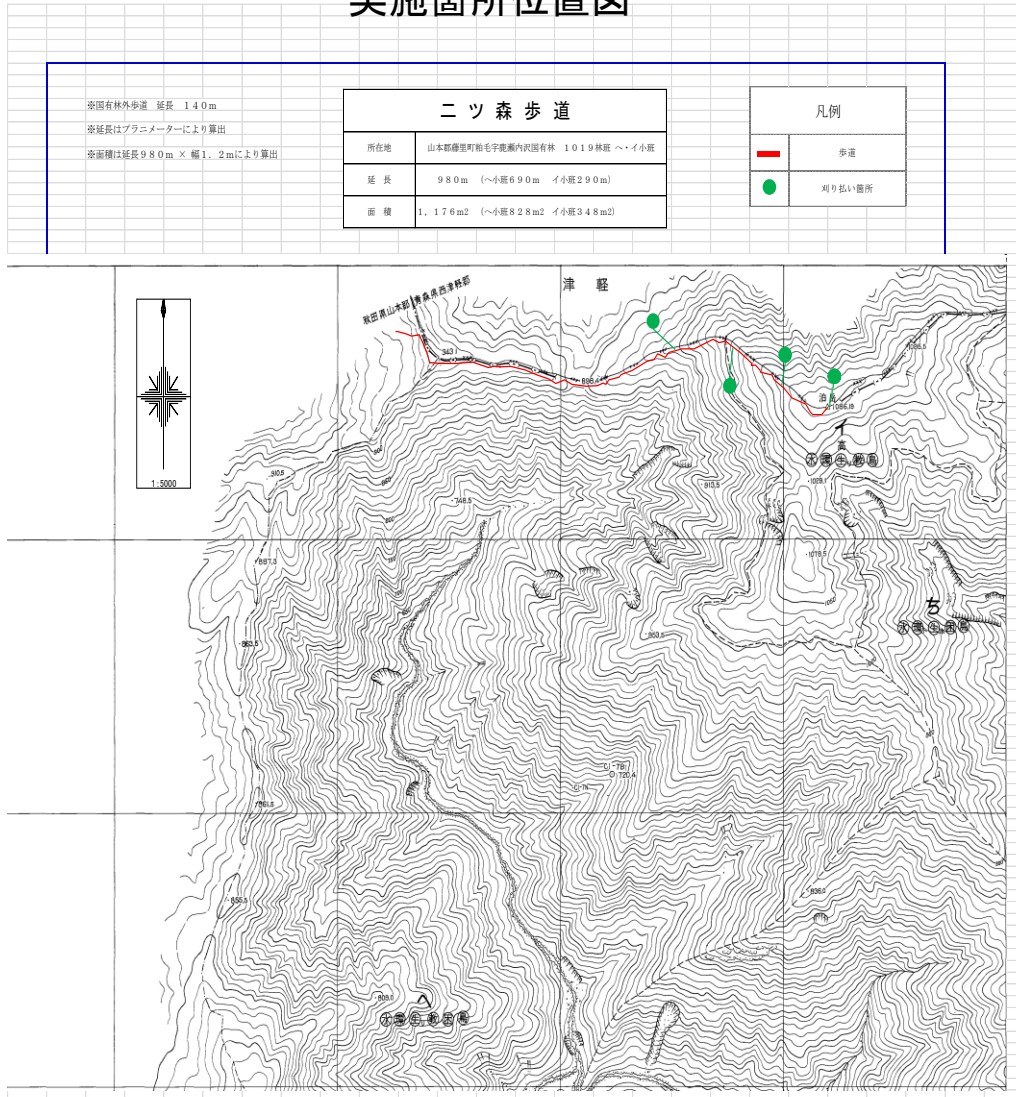


笹内川

ID ^{注1)}	公開レベル ^{注1)}	保管形式 ^{注1)}	保管場所 ^{注1)}	前回ID
報告書名称 /調査名称	平成30年度 白神山地世界遺産地域周辺地域 二ツ森登山道刈り払い			発行年月/報告年月
				2019年
調査機関	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター	委託機関		
調査開始年		調査期間	2018年	9月
調査頻度 ^{注2)}	毎年	調査時期 ^{注2)}	秋	
モニタリング計画	策定	区分 ^{注2)}	Ⅲ	大区分 ^{注2)} 1 小区分 ^{注2)} (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法	
<input type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺地域 <input checked="" type="checkbox"/> GPS等の位置データあり			■目的 平成26年9月に行われた「二ツ森登山道支障木の伐採及び山頂部の刈り払いに関する現地検討会」議事に基づき、歩行時の安全確保及び登山道からの眺望の確保等を目的として刈り払いをおこなう。この取組は、平成26年度から継続し毎年1回実施しているものである。	
 <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>			■刈り払い箇所 二ツ森登山道及び山頂部 ■実施期間 平成30年9月12日(水曜日)	
 <p>白神岳</p>				
結果概要 (スペースに収まるように入力してください)				
■参加団体等 ネイチャーガイド白神PRO、八峰町白神ガイドの会、環境省、秋田県、八峰町、東北森林管理局 ■登山道の安全確保を目的とした維持管理と景観の確保を図るため、参加者16名で刈り払い等をおこなった。				
				
問い合わせ	東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3 TEL: 0185-79-1003 FAX: 0185-79-1005 ≪原本(データ)の帰属について≫			

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

実施箇所位置図



作業状況



白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：青森県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行った。(巡視員6名、巡視日数:延べ227日)	青森県自然保護課	
2	—	遺産地域に精通した人材の育成	特になし		
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利 用促進	①自然保護課が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保するため、緊急性の高い箇所において整備等を行った(各コース危険木処理、十二湖コース崩山迂回路の測量)。 ②白神岳の魅力向上による白神山地周辺地域への誘客を促進するため、大雨による崩落で立入禁止となっている白神岳登山道「二股コース」の再整備を行った。 ③白神岳登山道の安全な利用に向けて、県のホームページで注意喚起を図った。	自然保護課	
4	—	核心地域における入山の取扱いの検討	特になし		

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：秋田県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	<p>秋田県あきた白神ガイド制度発足 目的：地元ガイドの高齢化により、保全推進を担う人材の育成・確保 ・白神山地の歴史文化、ガイド技術、安全管理等についての座学及び野外の認定講習を実施(10回)(核心地域における野外実習1回含む。)※講習実施状況は別紙参照 ・認定講習の内容を修得できているか、ガイド活動に対する意欲等を確認するための筆記及び面接試験を実施(1回) 日時：平成31年2月3日(日)10:00~実施予定 場所：能代山本広域交流センター</p>	自然保護課	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進			
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

あきた白神認定ガイド講習会カリキュラム（H30年度実施状況）

受講費：無料

受講者数：25名（30代：1名、40代：7名、50代：9名、60代：8名）

講習カリキュラム：

- 第1回 6月2日（土）机上・実技講習（世界遺産センター藤里館及び高山）
 - ・ガイドの基礎知識とガイディング及び装備の基本について
 - ・白神山地をどうガイドするか、感性・好奇心の重要性
 - ・ルートガイディング実践
- 第2回 7月7日（土）机上・実技講習（世界遺産センター藤里館及び七座山）
 - ・天気図、地形図読み取り
 - ・ルートガイディング実践
- 第3回 7月21日（土）机上・実技講習（あきた白神体験センター、八峰白神ジオパーク及び三十釜溪谷）
 - ・ジオパークにおけるガイディング
 - ・地形の成り立ち等の科学的な面から知る白神山地
- 第4回 8月6日（土）机上演習（能代市中央公民館）
 - ・白神山地の概要と生態系
 - ・白神山地に係る法規制
 - ・白神山地の四季の魅力 等
- 第5回 9月8日（土）実技講習（真瀬川中ノ又沢）
 - ・沢歩きの基本技術 等
- 第6回 9月29日（土）実技講習（水沢越え粕毛川三蓋沢）
 - ・沢歩き技術
 - ・核心地域を知る 等
- 第7回 10月6日（土）実技講習（岳岱自然観察教育林）
 - ・ルートガイディング実践
 - ・危急時対応 等
- 第8回 11月18日（日）机上・実技講習（あきた白神体験センター及び御所の台）
 - ・ファーストエイドの基礎知識、実習
 - ・危急時対応 等
- 第9回 1月19日（土）実技講習（藤里町水無沼周辺）
 - ・スノーシュー取り扱い
 - ・スノーシュートレッキングガイド実習
 - ・スノーフィールドにおける安全管理 等
- 第10回 1月20日（日）机上演習（世界遺産センター藤里館）
 - ・白神山地の歴史文化
 - ・ガイドツアー企画立案 等

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：西目屋村

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地周辺で活動するガイド団体間での情報共有、遺産地域入山時の若手ガイド等の同行を促す声掛けを実施。	西目屋村 西目屋村観光ガイド会 民間ガイド団体	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利便促進	<ul style="list-style-type: none"> 緩衝地域内の「世界遺産の径 ブナ林散策道」の整備及び環境保全に向けた啓発活動を実施。 「菅江真澄の道」の整備(刈払い及び案内看板を設置)を実施。平成31年夏のオープンを目指す。 	西目屋村 「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：繆ヶ沢町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	①白神の森遊山道の運営(指定管理：繆ヶ沢町観光協会) ②自然観察館「ハロー白神」の運営 ③ガイド付き白神トレッキングの実施	繆ヶ沢町 繆ヶ沢町観光協会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

		機関名：深浦町			
番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利 用促進	①白神岳登山道刈り払い 白神岳登山道(マテ山コース)約5kmについて、景観保持と事故防止のため刈り払いを実施した。 ・実施日：平成30年7月7日(土)～8日(日) 避難小屋に1泊2日 ・委託先：白神倶楽部(12名参加)	深浦町 (白神倶楽部)	業務委託
	継続		②白神十二湖エコ・ミュージアムの指定管理者による管理運営 白神十二湖エコ・ミュージアム(白神山地を学び、ふれあい、体験する施設)の管理運営を委託した。 ・開館日：通年(平成30年1月～12月の入館者数：9,599人) ・指定管理者：十二湖森の会(エコガイド&森林セラピーガイド計32名の団体)	深浦町 (十二湖森の会)	指定管理
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：藤里町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	新規	遺産地域の現況把握	環境省鳥獣保護員事業からの情報収集	白神山地世界遺産センター藤里館活動協議会	
2	新規	遺産地域に精通した人材の育成	①インタープリター研修(2/10・11) 秋田白神ガイド協会 ②環境省インタープリターフォーラム研修(9/17~19) 藤里町・藤里町商工会・白神山地世界遺産センター藤里館活動協議会	秋田白神ガイド協会 藤里町 藤里町商工会 白神山地世界遺産センター藤里館活動協議会	
3	新規	緩衝地域(周辺部を含む)の利便促進	・世界自然遺産登録25周年事業 春の白神ウィーク(6/10~17) ・世界自然遺産登録25周年事業 秋の白神ウィーク(10/8~14) ・田代湿原湿地連絡会開催(8/24) ・田代湿原のツゲ除伐(11/3) ・白神山地エコツアー(17ツアー実施 全21ツアー)	藤里町・秋田県・秋田白神ガイド協会ほか	
4		核心地域における入山の取扱いの検討	特になし		

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成30年度実施結果

機関名：八峰町

番号	新規／継続	項目	概要（実施内容等）	実施主体（窓口）	備考
1	継続	緩衝地域（周辺部を含む）の利用促進	○5/26ニッ森自然観察会を予定していたが、町道ニッ森線が8月末まで通行止めにより、留山コースに変更し開催。28名参加。10/6秋のニッ森観察会を実施。17名参加。	5/26：八峰町（産業振興課） 10/6下旬：NPO法人白神ネイチャー協会	
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	八峰町認定白神ガイドの養成事業を実施し年5回（6月～9月）開催。参加25名。	八峰町（産業振興課）	

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：東北地方環境事務所

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	①2者との請負契約、鳥獣保護区管理員2名及び職員による巡視を実施。 ②赤外線センサーによる入山者数カウンタを世界遺産地域及び周辺部利用地点の主要登山道の入り口に設置。	西目屋自然保護官事務所	
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3		緩衝地域(周辺部を含む)の利便促進			
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：東北森林管理局

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	<p>① 合同パトロールによる遺産地域の踏査(青森、秋田 各/年2回)</p> <p>② 職員、グリーンサポータースタッフ、白神山地世界遺産地域巡視員による巡視。</p> <p>③ 遺産地域における樹木損傷等の発見月日、場所、被害内容について集計(平成20年度より継続)。マナー違反は平成26年度より集計。</p> <p>④ 「許可」又は「届出」により青森側核心地域へ入山した件数及び入山者数の年度別推移を把握(平成8年度より継続)。</p> <p>⑤ 「白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査」において、青森側の遺産地域等16箇所にて固定式のセンサーカメラを設置し、入り込み状況や動物等を画像で記録(平成17年度より継続)。</p>	<p>東北森林管理局 津軽森林管理署 米代西部森林管理署 津軽白神森林生態系保全センター 藤里森林生態系保全センター</p>	
2		遺産地域に精通した人材の育成	該当なし。		
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<p>① ニツ森登山道及び山頂部付近(緩衝地域)の刈払い整備 H26～30年度の整備結果を踏まえ、現状維持のための刈払いを平成31年9月実施予定。</p>	遺産地域連絡会議	
4		核心地域における入山の取扱いの検討	該当なし。		

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：青森県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	遺産地域の現況把握	入山マナー向上や自然保護意識の普及啓発を図るため、白神山地世界遺産地域巡視員を配置し、入山者への指導や歩道の巡視等を行う。 (巡視員6名、巡視日数:延べ228日)	青森県自然保護課	
2	—	遺産地域に精通した人材の育成	特になし		
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利便性向上	青森県自然保護課が管理する白神山地周辺の自然観察歩道の安全性及び利便性を確保するため、緊急性の高い箇所においてササの刈り払いや看板補修などを行う。	自然保護課	
4	—	核心地域における入山の取扱いの検討	特になし		

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：秋田県自然保護課

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	<p>秋田県あきた白神ガイド制度発足</p> <p>目的：地元ガイドの高齢化により、保全推進を担う人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神山地の歴史文化、ガイド技術、安全管理等についての座学及び野外の認定講習を実施予定(10回)(核心地域における講習も実施予定) ・認定講習の内容を修得できているか、ガイド活動に対する意欲等を確認するための筆記及び面接試験を実施予定(1回) 	自然保護課	
3	新規	緩衝地域(周辺部を含む)の利便促進	<p>白神山地における保全推進を啓発するための動画(1本あたり約5分、計5本)を制作し、県ウェブサイト等に公開する。</p> <p>内容は白神山地の魅力、保全の大切さが伝わるような白神ガイドによる解説動画とする。</p> <p>撮影場所：小岳、岳岱自然観察教育林</p> <p>撮影時期：新緑時期(5月下旬から6月初旬)及び紅葉時期(10月)</p>	自然保護課	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：西目屋村

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	白神山地周辺で活動するガイド団体間での情報共有、遺産地域入山時の若手ガイド等の同行を促す声掛けを実施し、育成を目指す。	西目屋村 西目屋村観光ガイド会 民間ガイド団体	
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・緩衝地域内の「世界遺産の径 ブナ林散策道」の整備及び環境保全に向けた啓発活動を実施。 ・「菅江真澄の道」の整備を進め、平成31年夏のオープンを目指す。 	西目屋村 「白神山地・暗門の滝」森林環境整備推進協議会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名： 鱒ヶ沢町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利 用促進	①白神の森遊山道の運営(指定管理：鱒ヶ沢町観光協会) ②自然観察館「ハロー白神」の運営 ③ガイド付き白神トレッキングの実施	鱒ヶ沢町 鱒ヶ沢町観光協会	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：深浦町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1		遺産地域の現況把握			
2		遺産地域に精通した人材の育成			
3	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利 用促進	①白神岳登山道(マテ山コース)約5kmについて、景観保持と事故防止のため刈り払いを実施。 ・実施時期：2019年7月上旬 ・委託先(予定)：白神倶楽部 ②白神山地や十二湖を学び、ふれあい、体験する施設「白神十二湖工 コ・ミュージアム」を管理運営。 ・実施日：通年 ・指定管理者：十二湖森の会(自然が「ト」&「ヒ」が「ト」団体)	深浦町	
	新規	〃	③白神岳避難小屋の改修 ・改修内容：経年劣化した外壁丸太の取替え他 ・実施時期：2019年7月～9月	深浦町	
4		核心地域における入山の取扱いの検討			

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：藤里町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	新規	遺産地域の現況把握	環境省鳥獣保護員事業からの情報収集	白神山地世界遺産センター藤里館活動協議会	
2	新規	遺産地域に精通した人材の育成	①インタープリター研修 ②エコツアーリズム研修	①秋田白神ガイド協会 ②環白神エコツアーリズム推進協議会	
3	新規	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	・田苗代湿原湿地連絡会 ・田苗代湿原のツゲ除伐 ・白神山地エコツアー	藤里町・秋田県・秋田白神ガイド協会ほか	
4		核心地域における入山の取扱いの検討	特になし		

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る平成31年度実施計画

機関名：八峰町

番号	新規/継続	項目	概要(実施内容等)	実施主体(窓口)	備考
1	継続	緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進	○緩衝地域の二ツ森自然観察会を開催(春、秋)	:八峰町、NPO法人白神ネイチャー協会	
2	継続	遺産地域に精通した人材の育成	○八峰町認定養成講座を年数回実施し、八峰町白神ガイドを養成。八峰町白神ガイドの会において、研鑽会を開催し、ガイドの資質向上を図る。	:NPO法人白神ネイチャー協会	

白神山地世界遺産地域及び周辺部の入山利用に係る今後の対応について

白神山地世界遺産地域連絡会議

白神山地世界遺産核心地域の入山利用については、平成26年3月8日に開催した第8回科学委員会において、地域連絡会議から提案した「核心地域の保全及び秩序ある適正な利用を目指す観点から、青森側では現行の入山の取扱いを継続するとともに、秋田側核心地域では自然遺産の価値を損なうことなく有効に活用していくため、新たなモデル的利用を試行する取扱いを検討する」との検討方針が了承された。

一方、モデル的利用の試行案を検討するにあたって、地元関係者との意見交換会を開催するなどしたところ、様々な意見が寄せられたところである。

地域連絡会議としては、第8回及び第9回科学委員会にて確認された「①青森県側の核心地域に入山している人数程度であれば、白神山地の自然環境に大きな影響は及ばない、②秋田側と青森側で入山に関する方針が異なることに対して科学的な理由（生態学的、地形学的等）はない」という結論を踏まえつつ、地元関係者から寄せられた様々な意見にも配慮して、世界遺産地域及び周辺部の入山利用については、以下のとおり対応を進めているところである。

1 遺産地域の現況把握

関係機関や専門家の踏査等による遺産地域の現況把握を実施する。

2 遺産地域に精通した人材の育成

核心地域の保全を強化するため、核心地域内を含めた遺産地域を巡視できる人材の育成に向けた具体策の検討を進める。

3 緩衝地域(周辺部を含む)の利用促進

緩衝地域(周辺部を含む)における利用促進策について、環白神エコツーリズム推進協議会における検討状況等を踏まえつつ、検討を進める。

4 核心地域における入山の取扱いの検討

秋田側核心地域の保全を図ることを前提としたモデル的利用の試行については、地元関係者等の中でも入山利用そのものに関し様々な意見があり、一定の結論や合意が得られていない状況にあることから、これらの状況を勘案しつつ、引き続き検討課題として取り扱うこととする。

平成31年1月16日
農林水産部

青森県における松くい虫被害（民有林）について

1 被害本数

本県民有林における平成30年シーズン（H30.7.1～H31.6.30）の松くい虫被害木については、10月末時点で深浦町において昨年同期と同程度の18本、南部町小向地区において県南地域で初となる被害木が5本確認されている。

表1 松くい虫被害本の推移

地区	被害木本数（本）			
	H27シーズン	H28シーズン	H29シーズン	H30シーズン※
深浦町	68	67	29	（18）
南部町	—	—	—	（5）
県合計	68	67	29	（23）

※H30シーズンは10月末時点

2 今後の対応

- ・ 深浦町の被害については、これまでの対策の効果が現れていることから、早期発見・徹底駆除を継続して実施する。
- ・ 南部町の被害については、県南地域で初めての発生であることから、さらに監視を強化し早期発見に努め、被害木等の駆除を徹底する。

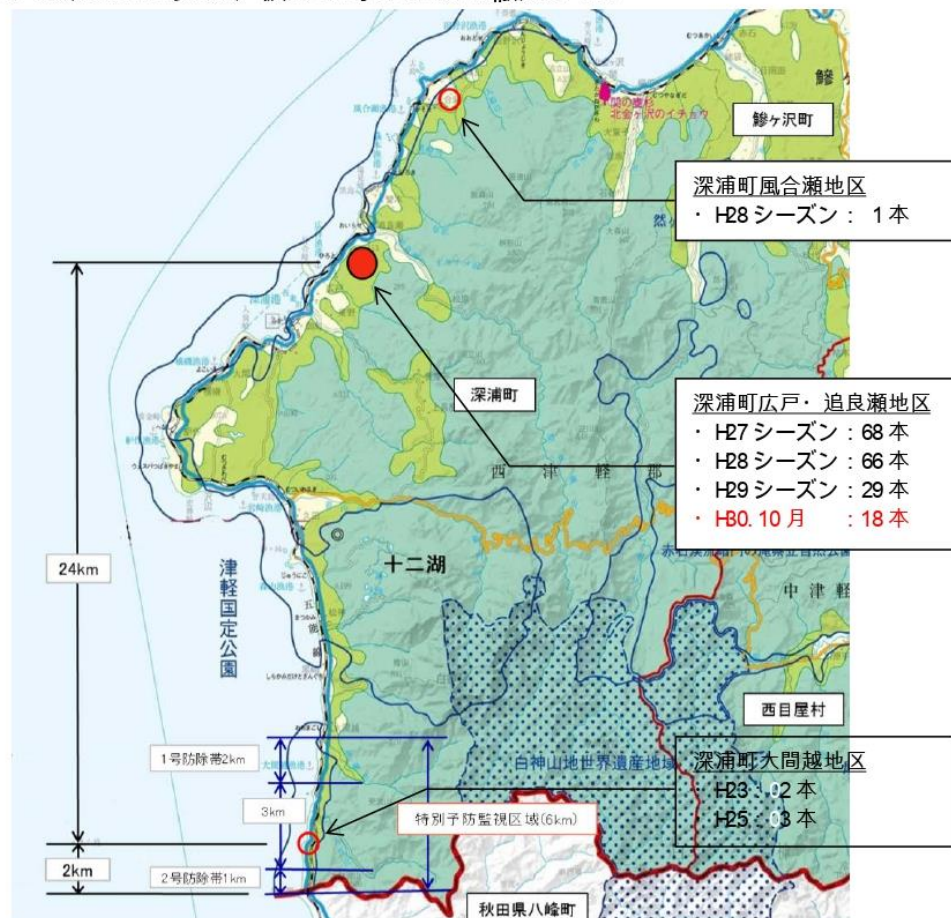
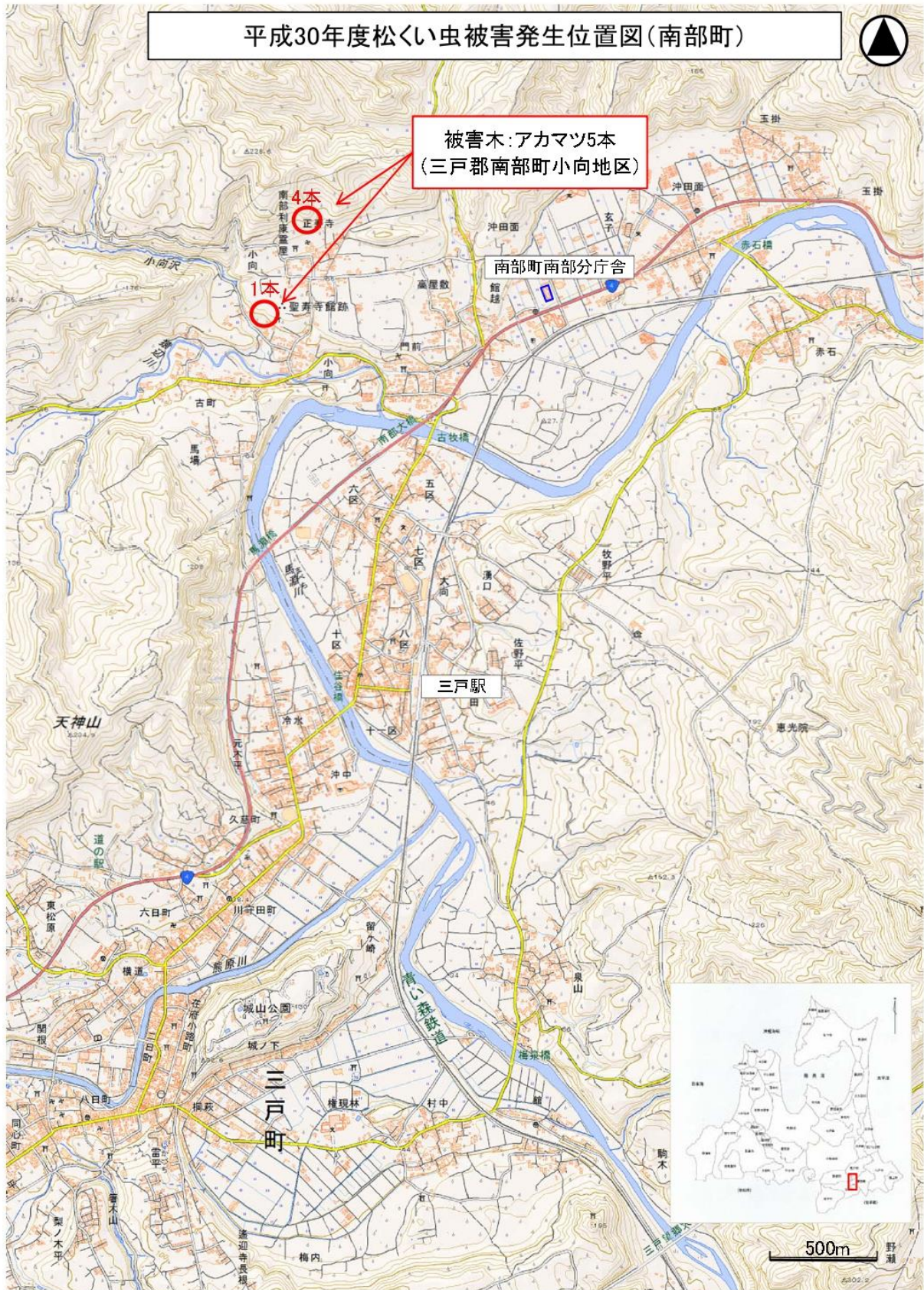


図1 松くい虫被害発生位置図（深浦町）



青森県におけるナラ枯れ被害（民有林）について

1 被害本数

本県民有林における平成30年シーズン（H30.7.1～H31.6.30）のナラ枯れ被害木は、10月時点で1,103本が確認されている。なお、被害木はすべて深浦町で確認されている。

表1 ナラ枯れ被害木の推移（10月時点）

地区	被害木本数（本）		
	H28 シーズン	H29 シーズン	H30 シーズン※
深浦町	23	354	(1,103)

※H30 シーズンは10月末時点

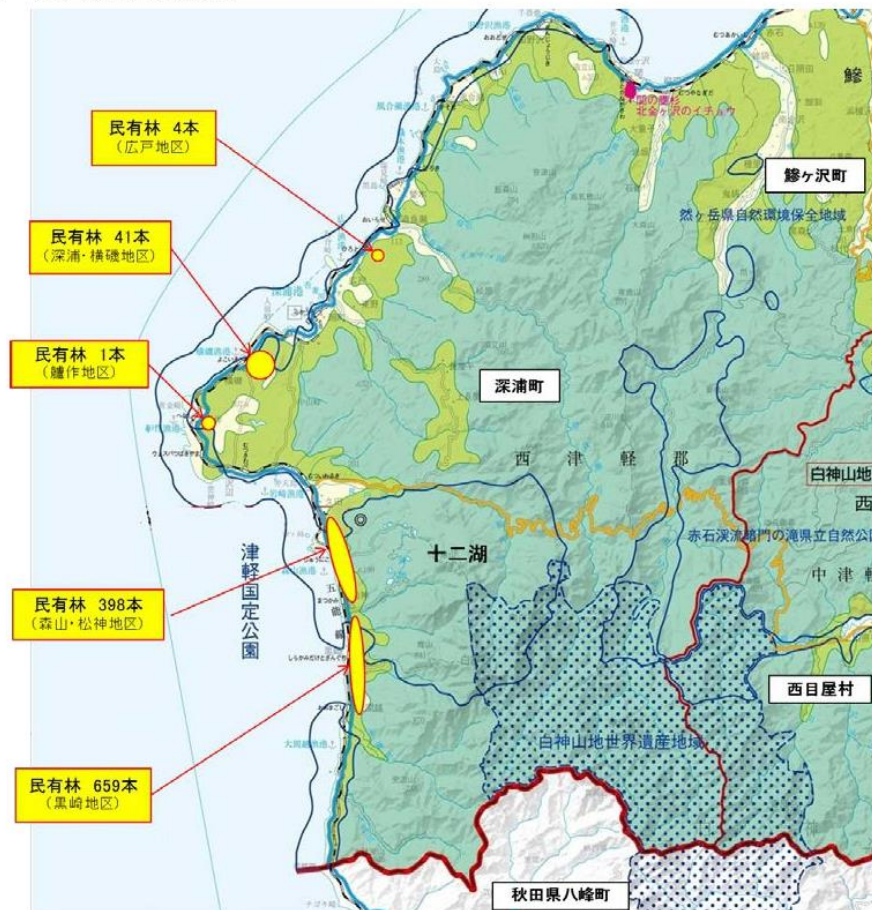


図1 ナラ枯れ被害位置図（H30 シーズン）

2 今後の対応

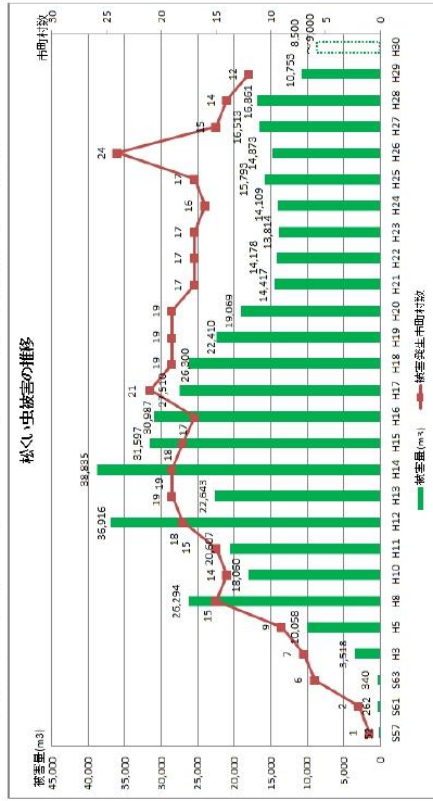
- ・ 国有林を管轄する東北森林管理局と連携して、駆除を徹底する。
- ・ 未被害木の利用促進について、市町村等と連携して取り組む。
- ・ 被害の拡大が予想される地域への注意喚起を徹底する。

秋田県民有林の松くい虫被害について

秋田県森林整備課

1 被害状況について

30年度の被害量は、8,500m³～9,000m³となる見込みである。



2 対策について

森林病害虫防除法及び各基準に従って指定された対策対象松林で、被害木を対象とした駆除措置、健全木を対象とした予防措置を効果的に組み合わせ、防除対策を実施している。

30年度の防除計画は次のとおり。

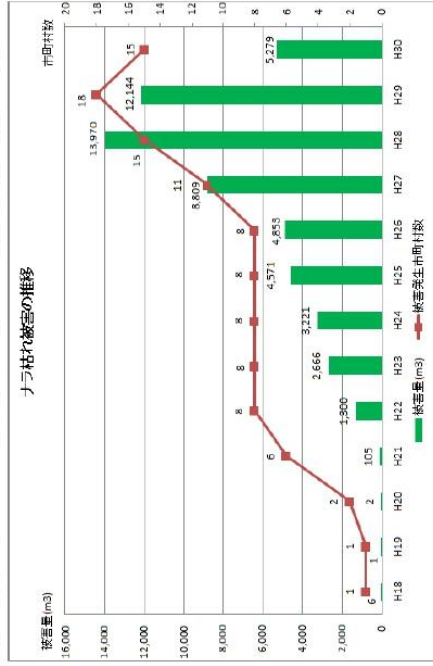
- ・ 駆除 8,200m³
- ・ 薬剤散布 1,010ha
- ・ 樹幹注入 850本

秋田県民有林のナラ枯れ被害について

秋田県森林整備課

1 被害状況について

30年度の被害量は、5,279m³であり前年の約43%と大幅に減少した。



2 対策について

秋田県ナラ枯れ防除実施方針に基づき指定された「守るべきナラ林」においては国庫補助事業により対策を講じ、被害の先端区域においては県単事業により対策を講ずる。

30年度の防除計画は次のとおり。

- ・ 駆除 400m³
- ・ 樹幹注入 2,300本
- ・ ドローンによるナラ林被害状況調査 100ha
- ・ 広葉樹更新伐（未然防止対策） 13,800m³

平成30年に青森県内国有林で確認されたナラ枯れ被害位置図(H30.12.10時点)

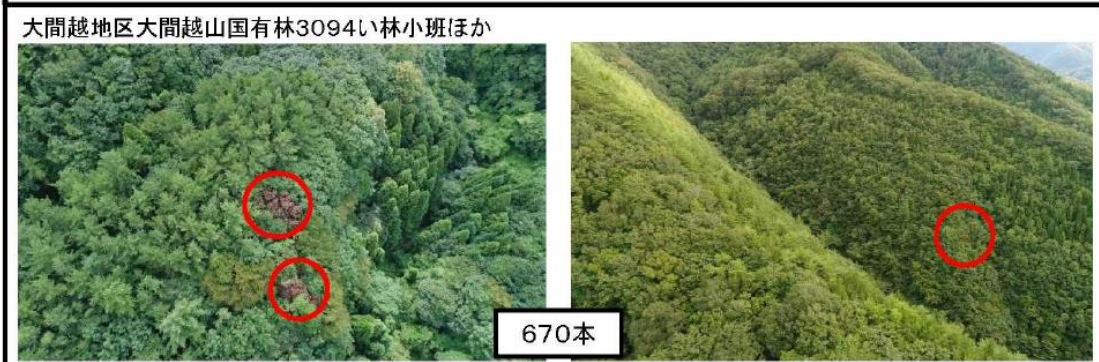
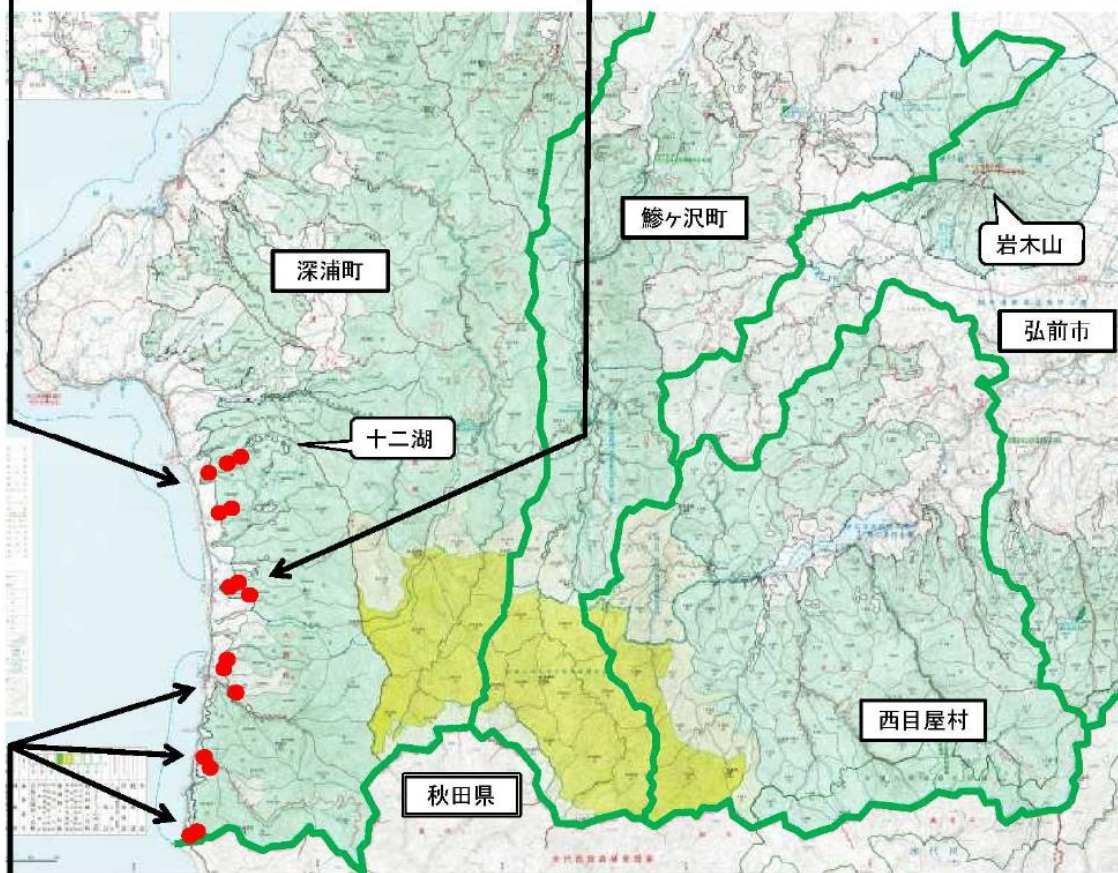


被害数量と駆除処理

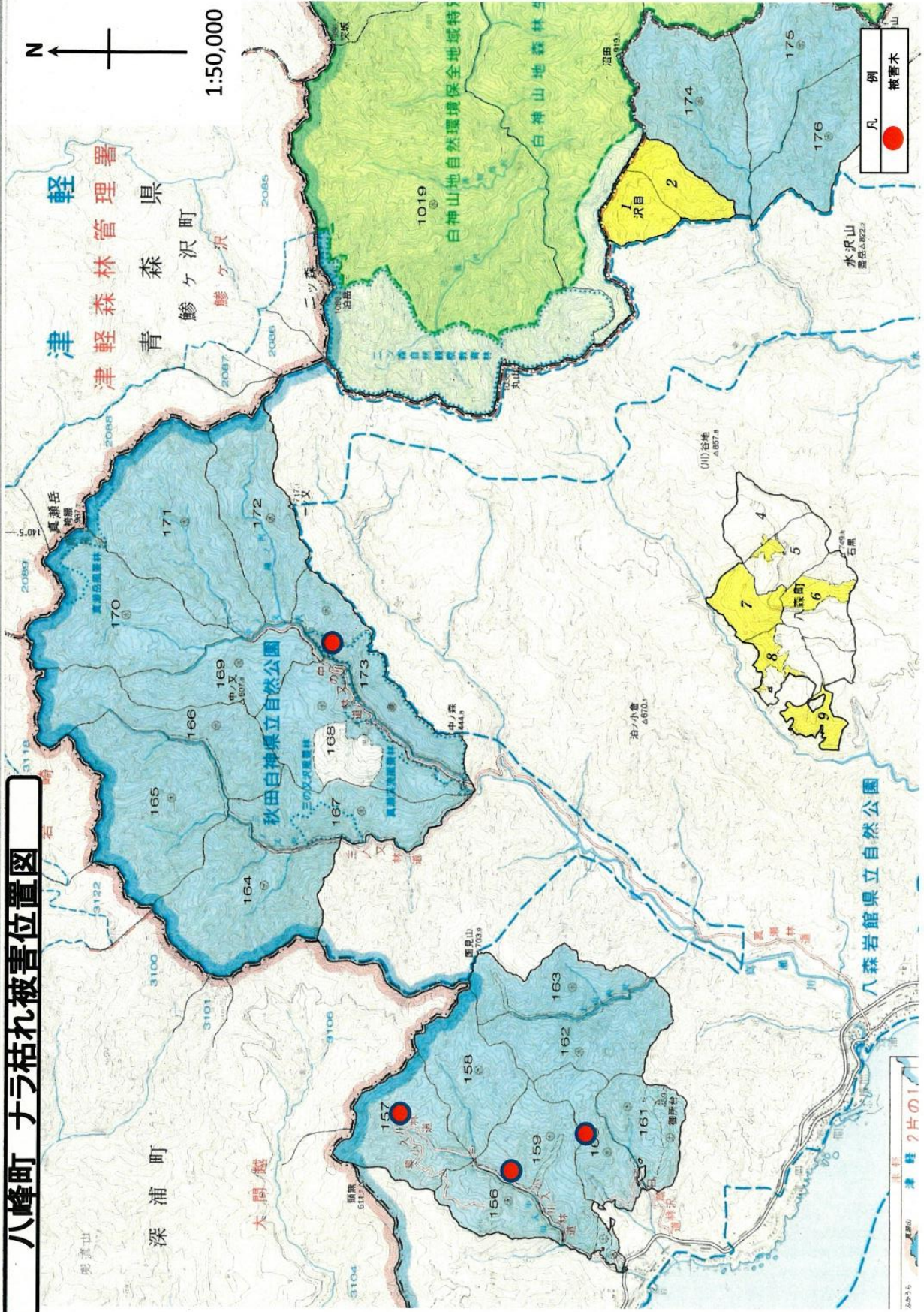
平成29年度	平成30年度	前年度比	
		増減本数	本数比
1,659本	1,108本	-551本	67%

○被害木1,108本については、平成31年5月末までに津軽森林管理署において駆除処理予定。

黒崎地区黒崎山国有林3090い林小班ほか 285本



八峰町 ナラ枯れ被害位置図



白神山地世界遺産地域周辺の国有林における松くい虫被害発生状況

1 前年度の被害状況

遺産地域周辺の国有林における平成 29 年度の松くい虫被害は、津軽森林管理署管内の青森県深浦町風合瀬で 1 本を確認し、駆除処理を実施した。

2 今年度の被害状況

今年度の被害状況については、深浦町風合瀬において異常木 20 本を発見し、破片を採取し国立研究法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所で分析した結果、陽性反応はなかった。

3 今後の対応

- ①異常木 20 本については、平成 31 年 5 月末までに駆除処理を実施する。
- ②引き続き、職員による巡視を実施するとともに県及び関係市町村と情報共有を図りながら、周辺地域における被害木の早期発見に向け、連携して被害対策に取り組んでいく。

白神山地世界遺産地域周辺の国有林におけるナラ枯れ被害発生状況

1 前年度の被害状況

遺産地域周辺の国有林における平成 29 年度のナラ枯れ被害は、津軽森林管理署管内の青森県深浦町で 1, 659 本、米代西部森林管理署管内の秋田県八峰町で 97 本、秋田県能代市で 2 本確認し、駆除処理を実施した。

2 今年度の被害状況

今年度の被害状況については、深浦町で 1, 108 本確認した。

秋田県側は八峰町で目視調査により被害木を確認した。

3 今後の対応

①津軽森林管理署管内の被害木については、平成 31 年 5 月末までに駆除処理を実施する。

なお、米代西部森林管理署管内の被害木については、急斜面であり、作業の安全が確保できないことから駆除処理は実施しない。

②引き続き、職員による巡視を実施するとともに県及び関係市町村と情報共有を図りながら、周辺地域における被害木の早期発見に向け、連携して被害対策に取り組んでいく。

白神山地世界遺産地域科学委員会設置要綱

(目的)

第1条 世界自然遺産に登録された白神山地の自然環境を把握し、白神山地世界遺産地域連絡会議に対して、科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を行うため、学識経験者による白神山地世界遺産地域委員会を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、必要な検討を行う。

- (1) 白神山地世界遺産地域の保全管理に関する事項
- (2) (1) のための調査研究・モニタリングに関する事項
- (3) その他目的達成のために必要な事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員、事務局及びオブザーバーをもって構成する。

- (1) 委員
学識経験者
- (2) 事務局
第6条に定める行政機関
- (3) オブザーバー
保全管理に係るその他の者

(委員)

第4条 委員は、学識経験者のうちから、事務局幹事の組織の長が委嘱する。

- 2 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員の交替又は増員による場合は、他の委員の残任期と同じとする。

(運営)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議事進行を行う。

- 2 副委員長は、議事進行にあたって委員長を補佐する。
- 3 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 4 委員長は、必要に応じて、委員以外の学識経験者等に対し、委員会への出席を求めることができる。
- 5 委員会は、重要な事項について検討を深めるため、委員会のもとに部会またはワーキンググループを設置することができる。
- 6 委員会は、原則として公開とするが、委員長の判断により非公開とすることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、環境省東北地方環境事務所、林野庁東北森林管理局、青森県、秋田県、青森県教育委員会及び秋田県教育委員会によって構成し、事務局幹事は環境省東北地方環境事務所及び林野庁東北森林管理局の持ち回りとする。

(その他)

第7条 委員会は、世界遺産地域の適正な管理に資するため、白神山地世界遺産地域連絡会議への助言を行う。

- 2 上記に定めのない事項で、委員会の運営に必要なものについては、別に定める。

(附 則)

- 1 この要綱は、平成22年6月1日から施行する。
- 2 平成22年12月13日一部改正する。
- 3 平成25年10月7日一部改正する。

白神山地世界遺産地域科学委員会 委員名簿

平成30年4月1日現在

分野	氏名	所属	役職等	専門分野
植物	中静 透	大学共同利用機構法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	特任教授	植物生態学
	蒔田 明史	秋田県立大学生物資源科学部	教授	生態学、環境教育学
	由井 正敏	岩手県立大学	名誉教授	森林鳥類生態学、野生動物管理学
動物	田口 洋美	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	教授	狩猟文化(マタギ)、哺乳類(クマ)
	堀野 眞一	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 企画部 広報普及科	研究専門員	野生大型哺乳類の生態学と管理学
	田中 信行	東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発 学科	教授	温暖化影響評価と森林生態
気象 地理・ 地形・	檜垣 大助	弘前大学農学生命科学部	教授	応用地形学、砂防学
	幸丸 政明	岩手県立大学	名誉教授	環境政策、野生生物保護管理
社会・ 地域利				

東北ニホンジカ勉強会について

1. 趣旨

東北地方では長期間シカが不在であった地域が多く、関係行政機関においてシカの管理に関する知見が不足していることから、先行事例に関する情報共有を図るとともに、地域の特性に適応したシカ管理の方向性について検討することを目的に勉強会を開催するもの。

2. 参加機関

- ・東北地方自治体・・・青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- ・オブザーバー自治体・・・茨城県、栃木県
- ・国・・・東北森林管理局、東北地方環境事務所、環境省自然環境局鳥獣保護管理室
- ・有識者・・・岩手大学、岩手県環境保健研究センター、山形大学、森林総合研究所東北支所、同)東北野生動物保護管理センター

3. 開催スケジュール

(1) 第1回

- ・開催日:2018年12月21日
- ・場所:岩手県盛岡市
- ・テーマ:東北地方におけるニホンジカ保護管理の現状の共有

(2) 第2回

- ・開催日:2019年3月6日(予定)
- ・場所:宮城県仙台市
- ・テーマ(仮):東北地方におけるニホンジカ管理